令和８年度　履修ガイド＆シラバス　目次

教育基本方針 1

履修ガイド

愛玩動物看護学科のカリキュラムについて 5

Ⅰ授業と履修 5

1. 授業科目の構成
2. 授業科目の区分
3. 授業形式の区分と単位数換算
4. 学期と時間割
5. 欠席届
6. 進路変更
7. 休講
8. 事務連絡と事務取扱時間

Ⅱ試験と評価 8

1. 試験の種類
2. 受験手続
3. 受験注意事項
4. 試験結果の発表と成績評価

Ⅲ学籍 10

1. 休学
2. 復学
3. 退学
4. 除籍
5. クラスアドバイザー制度

Ⅳ進級・卒業 11

1. 進級・卒業

学則

ヤマザキ動物専門学校　学則 15

シラバス

カリキュラム表（令和５年度入学者以降対象）..... 25

愛玩動物看護師法　第三十一条第一号の規定に基づく指定科目 26

カリキュラム表（令和８年度入学者以降対象）..... 27

愛玩動物看護師法　第三十一条第一号の規定に基づく指定科目 28

授業科目　目次 29

教育基本方針

建学の精神

「生命への畏敬」

「職業人としての自立」

“人間は地球上に存在する多種多様な生命に対し、尊敬の心を持ち、生態系の摂理の中で生かされている生命であるという思想のもと、共に生きるものに限りない愛を注ぐ“
この精神を通して調和のとれた平和な社会の建設に寄与する豊かな人間性と幅広い視野を持つ人間教育を行う。

教育理念

「生命（いのち）を生きる」

動物愛護の精神のもと、人間が自分たちよりも小さな弱い立場の生命に思いやりの心を忘れず、動物たちと豊かに共生すること。

3 つのポリシー

1.ディプロマ・ポリシー（卒業認定および専門士授与に関する方針）

修業年限以上在籍し、所定の時間数を修了した学生に対して、卒業を認定し、動物管理専門課程の専門士（文化・教養専門課程）の称号を授与する。

1. 本校の建学の精神及び教育理念を理解し、人と動物の架け橋となる愛玩動物看護師としての使命感を有する。
2. 動物看護学の基礎的・応用的知識と技術を身につけている。
3. 人と動物の共生社会において必要なコミュニケーション能力を身につけている。
4. 動物愛護・福祉に基づいた動物の適正飼養の普及および公衆衛生に貢献する能力を身につけている。

2.カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーを教育課程に反映させるため教養教育科目、専門基礎科目、専門科目（選択科目を含む）の 3 科目群からカリキュラムを構成する。

1. 教養教育科目では、愛玩動物看護師に必要な教養を俯瞰的に学び、社会的自立を図るために必要な能力を養う。
2. 専門基礎科目では、動物看護学の基礎的知識と技術を学び、愛玩動物看護師に必要な能力を養う。
3. 専門科目では、動物看護・福祉に基づいた動物看護、検査、グルーミング、トレーニング等の専門的知識と技術を養う。

3.アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

1. 本校の建学の精神および教育理念に共感する者。
2. 動物に深い理解と愛情を持ち、人と動物の豊かな共生を目指す者。
3. 動物看護学に興味を持ち、専門知識と技術を学ぶための基礎学力を有する者。
4. 愛玩動物看護師を目指し、広い視野に立ち、コミュニケーションを大切にする者。

履修ガイド

愛玩動物看護学科のカリキュラムについて

ヤマザキ動物専門学校愛玩動物看護学科のカリキュラムは、本学建学の精神である「生命への畏敬」と「職業人としての自立」、および教育理念「生命(いのち)を生きる」に則って構築されています。

授業科目は、幅広い教養および専門教育を受けるうえで必要となる基本的な知識を修得する「教養教育科目」、専門職において必要となる専門的な知識や技術を修得する「専門教育科目」が設置されており、専門教育科目は、その中でも専門基礎科目と専門科目に分類されています。

動物看護、動物美容、トレーニングの基礎を中心に学ぶとともに、学内外の動物診療施設での実習で実践力を身につけ、愛玩動物看護師に必要とされる専門性を高め、即戦力となる技術を修得し、動物の専門家として人と動物に愛情を持って接し、生涯にわたって飼主をサポートできる人材の育成を目指しています。

Ⅰ　授業と履修

1．授業科目の構成

本校の授業科目には、必修科目と選択科目があります。

(1) 必修科目：全員が履修する科目です。配当年次、学期ごとに履修します。

(2) 選択科目：設定された科目の中から選択して履修する科目です。

2．授業科目の区分

本校の授業科目の区分は、授業の内容によって以下のように区分されます。

(1) 教養教育科目

学術の基礎を広く深く学ぶことを目的としています。

(2) 専門教育科目

専門職において必要となる専門的な知識や技術を修得することを目的としています。

① 専門基礎科目

動物看護学の基礎を中心に必要な知識を養う科目です。

② 専門教育科目

動物看護、動物美容、トレーニングの基礎を中心に学ぶとともに、学内外の動物診療施設での実習で実践力を身につけ、愛玩動物看護師に必要とされる専門性を高め、即戦力となる技術を修得する科目です。

3．授業形式の区分と単位数換算

授業形式は、講義、実習に区分しています。

1 時間を 45 分とし、講義は 2 時間(90 分)を基本単位、実習は 4 時間(180 分)を基本単位として授業を行います。

本校は文部科学省令の専修学校設置基準に基づいています。授業時数を単位数に換算する場合においては学則第 9 条により、講義にあっては 15 時間を 1 単位、実習にあっては 30 時間をもって 1 単位としています。

4. 学期と時間割

(1) 本校の学期は、学則第 6 条に基づき、前期と後期の 2 期制としています。

(2) 本校の講義科目は 2 時限(90 分)単位、実習授業は 4 時限(180 分)単位の授業を行いますので、1 日の授業時間は下表のとおりです。

1.2 時限	9:10～10:40
3.4 時限	10:50～12:20
5.6 時限	13:10～14:40
7.8 時限	14:50～16:20

5. 欠席届

次の(1)～(5)の事由が生じた場合、所定の欠席届と必要に応じて事由発生を証明する書類等(コピー可)を、欠席した授業の次週の授業時までに、事務受付に直接提出してください。

また、実習を遅刻、欠席する場合は担当教員の指示に従ってください。

(1) 感染性疾患(インフルエンザ等)による欠席

医師による出席許可後、診断書または治癒証明書等の(期間を明示した)証明書類

(2) ご家族(一親等、二親等、三親等)の忌引による欠席

「忌引届」と「法事等があった事を証明する書類のコピー(会葬礼状等)」

※ なお、忌引きによる欠席については、次のとおり出席扱いとします。

① 父母(養継父母)、配偶者、子(養子を含む):5 日間

② 祖父母・曾祖父母、兄弟、配偶者の父母:3 日間

(3) 公的災害・事故等による欠席

公的機関の証明書を添付した欠席届を提出してください。

(4) その他、研修(海外)や就職活動による欠席

研修先、就職活動先への参加を証明する書類を添付した欠席届を提出してください。

(5) 裁判員候補者として従事することによる欠席

裁判所からの呼出状を添付した欠席届を提出してください。

感染性疾患、忌引きを除き、上記の欠席届が提出されても、必ずしも欠席を出席とするものではありませんが、科目によっては評価に配慮される場合があります。

6. 進路変更

進路変更等のある場合には、クラスアドバイザーを通じて事前に校長の許可を得るようにしてください。

7. 休　講

次のように措置します。

(1) 休講の場合は、掲示またはメールにて連絡します。

(2) 事前の掲示がなく、当該授業開始時刻から 30 分を経過しても担当教員が見えないときは

(2) 事務の指示に従ってください。

(3) やむを得ない事由により休校とするときは、掲示板・ホームページ等に掲載します。

休講が発生した場合は、原則として振替授業を実施します。

8. 事務連絡と事務取扱時間

事務からの連絡・指示は、所定の掲示板に掲示します。

事務取扱時間(月～金):9 時 00 分～17 時 00 分

Ⅱ　試験と評価

1．試験の種類

(1) 定期試験

前期および後期の指定された期間内に行われる試験をいいます。ただし、事情により、または科目により実施時期が変更される場合もあります。

(2) 追試験

定期試験を受けられなかった者で、やむを得ない事由を証明する書類を添付し、許可された者に対して行われる試験をいいます。

(3) 再試験

定期試験の成績が不合格となった者に対して行われる試験をいいます。

2．受験手続

上記各試験のうち、定期試験以外は事務局での手続が必要です。追試験・再試験共通の「追再試験受験届」に記入してください。

(1) 追試験

必要事項を記入し、定期試験を受けられなかったやむを得ない事由を証明する書類を添えて事務受付に願い出てください。

(2) 再試験

必要事項を記入し、再試験手数料 1 科目につき 1,000 円を添えて事務受付に願い出てください。

3．受験注意事項

(1) 授業料等、学費の未納者は受験できません。

(2) 身分証明書を持参しない者は受験できません。試験当日身分証明書を忘れた者は試験開始までに必ず事務受付で「仮身分証明書」の発行を受け、試験場でこれを机上に提示してください。

(3) 試験場には受験者の着席場所が掲示されますので、各自必ず指定された場所に着席し、机上に身分証明書あるいは「仮身分証明書」を提示してください。また、追試験および再試験の場合は、この他に「追再試験受験許可証」を提示してください。

(4) 試験場においては、特に指定のない限り、教科書、参考書、ノート、メモ等を身の回りに置かないでください。

(5) 問題・答案用紙配付後の棄権は認めません。したがって、受験者は必ず答案用紙を提出しなければなりません。

(6) 試験開始後 30 分を過ぎてからの入場は認めません。

(7) 不正を行った場合、または行ったと認められた場合、あるいは監督者の指示に従わなかった場合は、直ちに退場が命じられ、その試験期間中の全受験科目が無効となります。

4. 試験結果の発表と成績評価

(1) 試験結果の発表

① 前期および後期の定期試験の不合格者に対しては結果発表後、「追再試験受験届」を事務受付で配付します。

② 成績は成績通知書にて本人にお知らせすると共に保証人に郵送します。

(2) 成績評価とGPA制度

① 成績評価、判定およびGP(Grade Point)は次のとおりです。

評　定	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下
評　価	S	A	B	C	D
判　定	合　格				不合格
G　P	4	3	2	1	0

履修科目の成績は、試験、追試験または再試験の成績、授業への参加度、平常の学習状況等で総合評価されます。なお、再試験の成績評価はC評価となります。成績D評価は不合格です。

② GPA

GPA とは、自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく学習に役立てるために学業成績を総合的に判断する指標として評定平均値(Grade Point Average。以下「GPA」という。)を用いる制度です。

③ GPAの計算方法

$$\frac{\text{Sの単位数}\times 4+\text{Aの単位数}\times 3+\text{Bの単位数}\times 2+\text{Cの単位数}\times 1}{\text{履修登録単位数}}$$

GPA の算出は全ての科目が対象となりますので、出席不良や成績不良による不合格科目が多いと、ポイントが低くなります。通年科目は後期に含めます。

(3) GPAによる履修指導

ひとつの学期におけるGPAが1.0未満であった場合は、クラスアドバイザーおよびアシスタントアドバイザーによる指導を行います。1.0 未満の学期が 2 回以上連続した場合は、クラスアドバイザーと本人および保証人と面談を実施します。

(4) 再試験を欠席した場合について

欠席者に対する再度の再試験は行いません。

Ⅲ　学籍（休学・退学等）

1．休学

(1) 休学の手続

病気その他やむを得ない事由により次学期を修学することができない場合は、保証人（保護者）連署の上、休学を願い出ることができます。休学を希望する者は、クラスアドバイザーに相談の上、「休学願」に事由を記入し、校長に願い出て承認を得なければなりません。病気による場合は、医師の診断書を添付しなければなりません。また、ロッカーキーを一時返却してください。

(2) 休学期間

休学の期間は、原則半期毎とし、1 年を超えることはできません。ただし、特別の事由があると認められたときは、引き続き延長することができます。

(3) 学費

休学を許可され、または命ぜられた者の授業料・実習費は免除しますが、在籍料は納入してください。

2．復学

休学期間が満了するときは、クラスアドバイザーと相談の上、復学の 1 か月前までに「復学願」に事由を記入し、保証人（保護者）連署の上、校長に願い出て、承認を得なければなりません。病気による休学の場合は、「復学して差し支えない」という医師の診断書が必要です。

3．退学

(1) 退学願

退学しようとする者は、クラスアドバイザーに相談の上、「退学願」に事由を記入し、保証人（保護者）連署の上、校長に願い出て、承認を得なければなりません。

(2) 学費

当該学期の学費を納入していない者は、退学願を提出しても受理されません。承認後、身分証明書・ロッカーキーを返却してください。

4．除籍

次の場合は、除籍となる。

(1) 学則第 5 条に定める在学年限を超えた者
(2) 休学期間を超えて、なお修学できない者
(3) 授業料の納付を怠り、催促しても、なお納入しない者
(4) 死亡した者又は長期にわたり、行方不明の者

5．クラスアドバイザー制度

専任教員がクラスアドバイザーとして各クラスを担当し、学年主任、アシスタントアドバイザーが連携して、学生からの学校生活全般についての相談にきめ細かく応じます。

Ⅳ　進級・卒業

1.　進級、卒業

本校の進級及び卒業は、所定の修業年限を通じ、所定の時間数を修了し、出席日数と学習成績等の総合判定に基づいて決定します。

(1)進級

教育課程の定めるところにより、校長が学年ごとに 70%以上出席し修了すべき学科目について試験を行い、当該学科目の修了を認定し、期末試験の評価、提出物、学習態度等の総合評価に基づいて進級を決定します。

ただし、必修授業の出席率 70%以上(実習科目においては出席率 80%以上)、各学年において履修すべき授業科目の中でも専門教育科目を修得していること、および期日までの学費の完納を原則とします。

(2)卒業

卒業は修業年限以上在学し、専門教育科目(124 単位以上)を履修することが必要です。専門教育科目には愛玩動物看護師を受験するための国家試験指定科目が含まれるため、愛玩動物看護師の受験資格を得ることが出来ます。(単位については令和 8 年4月1日以後の入学者から適用とする)

また、各学年の修了認定、必修授業の出席率 70%以上、期末試験の評価、提出物、および学習態度の総合評価に基づいて決定されます。

本校を卒業した者には卒業証書が授与され、専門士の称号が与えられます。

学則

ヤマザキ動物専門学校　学則

平成7年4月1日
制定

目次

第1章　総則（第1条～第4条）
第2章　課程、学科、修業年限、定員及び休業日（第5条～第7条）
第3章　教育課程、授業時数及び教職員組織（第8条～第13条）
第4章　入学、休学、退学、除籍及び卒業（第14条～第23条）
第5章　科目等履修生（第24条）
第6章　賞罰（第25条・第26条）
第7章　入学金、授業料等（第27条～第32条）
附則

第1章　総則

（目的）

第1条　ヤマザキ動物専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、動物の保護及び管理に必要とされる知識、技術並びに教養を修得するために専修学校を設立し、優れた人材を養成することを目的とする。

（名称）

第2条　本校は、ヤマザキ動物専門学校という。

（位置）

第3条　本校の位置を東京都渋谷区松濤2丁目16番5号に置く。

（自己点検・評価）

第4条　本校は、その教育の一層の充実を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら点検及び評価（以下「自己評価」という。）を行い、その結果を教育活動等に活用するとともに公表するものとする。

2　本校は、自己評価の結果を踏まえた本校の関係者による評価（以下「学校関係者評価」という。）を行い、その結果を教育活動等に活用するとともに公表するものとする。

3　前2項に定める自己評価及び学校関係者評価の実施及び結果の公表について必要な事項は、別に定める。

第2章　課程、学科、修業年限、定員及び休業日

（課程、学科、修業年限、定員）

第5条　本校の課程、学科、修業年限及び定員は、次のとおりとする。

昼夜別	課程名	学科名	修業年限	入学定員	総定員	学級数	備考
昼	動物管理専門課程（文化・教養）	愛玩動物看護学科	3年	120人	360人	9	
		計		120人	360人	9	

ただし、在学年数は修学年限の2倍を超えてはならない。

（学年・学期の終始期）

第6条　本校の学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

2　本校の学期は、当該年度の学年暦に基づき、前期と後期の2学期制とする。

（休業日）
第7条　本校の休業日は、次のとおりとする。
(1)　日曜日
(2)　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
(3)　夏季休業、冬季休業及び春季休業の期間は学年暦で定める。
(4)　創立記念日　12月10日
2　教育上必要があり、かつ、やむを得ない事情があるときは前項の規定にかかわらず、休業日に授業を行うことがある。
3　非常変災その他急迫の事情があるときは、臨時に授業を行わないことがある。

第3章　教育課程、授業時数及び教職員組織

（教育課程、授業時数）
第8条　本校の教育課程及び授業時数は、別表第1のとおりとする。
（授業時数の単位数への換算）
第9条　本校の専門課程の授業科目の授業時数を単位数に換算する場合においては、講義にあっては15時間をもって1単位、実習にあっては30時間をもって1単位とする。
（他の専修学校等における授業科目の履修）
第10条　教育上有益と認めるときは、本校の定めるところにより、学生が行った他の専修学校、短期大学、大学等における授業科目の履修を、課程の修了に必要な総授業時数の2分の1を超えない範囲で、本校における授業科目の履修とみなすことができる。
（入学前の授業科目の履修等の認定）
第11条　動物管理専門課程愛玩動物看護学科の授業科目において、他の専修学校、短期大学、大学等において履修した授業科目で、出願時に申請があれば、本校の規程に基づいて履修したことを認めることがある。
（始業・終業時刻）
第12条　本校の始業及び終業の時刻は、次のとおりとする。

昼夜別	課程名	始業時刻	終業時刻
昼	動物管理専門課程	9:10	16:20

（教職員組織）
第13条　本校に次の教職員を置く。
(1)　校長
(2)　副校長
(3)　教員　14人以上
（基幹教員9人以上、基幹教員以外の教員5人以上）
(4)　事務職員　3人以上
(5)　学校医　1人（兼任）
2　校長は、校務をつかさどり、所属職員を監督する。
3　副校長は、校長を補佐する。

第4章　入学、休学、退学及び卒業

（入学資格）

第14条　本校の入学資格は、次のとおりとする。

(1) 高等学校もしくは高等学校等を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(2) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

(3) 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有する者として指定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(4) 文部科学大臣の指定した者

(5) 大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により文部科学大臣の行う大学資格検定に合格した者

(6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

(7) 修業年限が3年の専修学校の高等課程を修了した者

(8) 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学したものであって、本校において、高等学校を卒業した者に準ずる学力があると認めた者

(9) その他本校において、高等学校を卒業した者に準ずる学力があると認めた者

（入学時期）

第15条　本校の入学時期は、毎年4月1日とする。

（入学手続、許可）

第16条　本校に入学しようとする者は、本校の定める入学願書、その他の書類に必要事項を記載し、第27条に定める入学検定料を添えて指定期日までに出願しなければならない。

2　前項の手続を終了した者に対して入学試験を行い、入学を決定する。

3　本校に入学許可された者は、入学許可の日から14日以内に第26条に定める入学金及び授業料等の半年分を添えて手続をとらなければならない。

4　前項にかかわらず、授業料等については校長の判断により分納を認めることがある。

（休学、復学）

第17条　学生が疾病その他やむを得ない事由によって、休学する場合は、その事由を記載した書類及び診断書を提出して校長の許可を受けなければならない。

2　前項の者が復学しようとする場合は、届け出て、校長の許可を受けて復学することができる。

3　休学の期間は、1年を超えることはできない。ただし、特別の事情がある場合には、引続き1年間に限り、期間延長の許可をすることができる。

4　休学の期間は、通算して3年を超えることはできない。

5　休学の期間は、在学年数に算入しない。

（退学）

第18条　退学しようとする者は、その事由を記載した書類を提出し、校長の許可を受けなければならない。

（編入学）

第19条　動物管理専門課程愛玩動物看護学科に専修学校・大学等を1年以上在籍又は卒業した者の編入学を本校の規定に基づいて、認めることがある。

（除籍）
第20条　次の各号のいずれかに該当する者は、校長が除籍する。
(1) 第5条に定める在学年限を超えた者
(2) 休学期間を超えて、なお修学できない者
(3) 授業料の納付を怠り、催促しても、なお納入しない者
(4) 死亡した者又は長期にわたり、行方不明もしくは音信不通の者
(5) 疾病その他の事由により、成業の見込みがないと認められる者
（卒業、修了の認定）
第21条　校長は、教育課程の定めるところにより、学年ごとに7割以上出席し修了すべき学科目について試験を行い合格した者に対して、当該学科目の修了を認定する。
2　課程の修了の認定は修業年限以上在学し、専門教育科目124単位以上を履修しなければならない。
（卒業証書の授与）
第22条　本校所定の課程を修了した者には、卒業証書を授与する。
（専門士の称号）
第23条　動物管理専門課程愛玩動物看護学科を修了した者は、学校教育法第131条の2及び学校教育法施行規則186条に基づき、専門士と称することができる。

第5章　科目等履修生

（科目等履修生）
第24条　本校において開設する授業科目に対し、本校学生以外の者から特定の科目について履修申請があった場合には、本校の教育に支障がない限り選考の上科目等履修生として当該科目の履修を許可することができる。
2　その他科目等履修生に関する事項は、別に定める。

第6章　賞罰

（褒賞）
第25条　成績優秀にして、他の模範となる者には、褒賞・表彰することがある。
2　その他褒賞・表彰に関する事項は、別に定める。
（懲戒）
第26条　学生がこの学則その他本校の定める諸規則を守らず、学生としての本分にもとる行為があったときは懲戒処分を行うことがある。
2　懲戒は、訓告、停学及び退学とする。
3　退学は、次の各号のいずれかに該当する学生に対して行うものとする。
(1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
(2) 学力劣等で、成業の見込みがないと認められる者
(3) 正当の理由がなくて、出席が常でない者
(4) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
4　その他懲戒に関する事項は、別に定める。

第7章　入学金、授業料等

（納付金）

第27条　本校の入学検定料、入学金、授業料等は、次のとおりとする。

愛玩動物看護学科（全日3年制）

入学検定料　20,000円

入学金　200,000円

第一年次
授業料　850,000円 施設費　280,000円
第二年次
授業料　850,000円 施設費　280,000円
第三年次
授業料　850,000円 施設費　280,000円

（納入及び納入の特例）

第28条　学生がその在籍中は、出席の有無にかかわらず、授業料を所定の期日までに納入しなければならない。

2　特別の理由がある場合には、別に定めるところにより、授業料等の分納許可及び授業料等の全部又は一部を減免することがある。

第29条　休学を許可された者は、在籍料を納入しなければならない。在籍料については、別に定める。

（退学・除籍及び停学の場合の授業料）

第30条　学期の途中で退学し、又は除籍された者の当該学期分の授業料は、徴収する。

2　停学期間中の授業料は、徴収する。

（修業年限を超えて在籍する者の学費等）

第30条の2　修業年限を超えて在学する者の当該学期分の学費等については、第27条の規定にかかわらず別に定める。

（納入金の還付）

第31条　既に納入した授業料、入学金及び入学検定料は、原則として返還しない。

2　前項の規定にかかわらず、入学手続完了後入学辞退をする場合、年度末3月31日までに本校指定の辞退申請書と入学許可書の提出があれば、既に納めた金額のうち入学金及び入学金検定料以外を返金する。

（健康診断）

第32条　健康診断は、毎年1回、別に定めるところにより、実施する。

附　則

1　この学則は、平成7年4月1日から施行する。

2　この学則の施行に関し必要な事項は、校長が別に定める。

（略）

附　則（令和7年10月16日理事会承認）

1　この学則は、令和8年4月1日から施行する。

2　第21条及び第23条の規定は令和8年4月1日以後の入学者から適用し、施行日前に入学した学生については、改正前の規定を適用する。

別表第1（第8条関係） 教育課程及び授業時数

愛玩動物看護学科													
区分		授業科目	必選の別	授業時数/単位数									単位数（総計）
				1年次			2年次			3年次			
				授業時数		単位数	授業時数		単位数	授業時数		単位数	
				前期	後期		前期	後期		前期	後期		
教養教育科目		生物学	必	30		2							2
		動物文化論	必							30		2	2
		動物とアートⅠ	必	10		1							1
		動物とアートⅡ	必					20	1				1
		キャリアマネジメント	必					30	2				2
		英語	必		30	2							2
		コンピュータリテラシⅠ（基礎）	必	30		2							2
		コンピュータリテラシⅡ（応用）	必							30		2	2
		アッセンブリーアワーⅠ	必	15	15	2							2
		アッセンブリーアワーⅡ	必				15	15	2				2
		アッセンブリーアワーⅢ	必							15	15	2	2
小計				85	45	9	15	65	5	75	15	6	20
専門教育科目	専門基礎科目	生命倫理・動物福祉	必	15	15	2							2
		動物形態機能学Ⅰ	必	30	30	4							4
		動物形態機能学Ⅱ（生理学）	必				30	30	4				4
		動物繁殖学	必							30		2	2
		動物行動学	必					30	2				2
		動物栄養学Ⅰ（基礎）	必					30	2				2
		動物栄養学Ⅱ（臨床）	必								30	2	2
		比較動物学（野生動物、産業動物、実験動物）	必							30	30	4	4
		動物看護関連法規	必							15		1	1
		動物愛護・適正飼養関連法規	必								15	1	1
		動物看護学概論	必	30		2							2
		動物病理学	必				30		2				2
		動物薬理学Ⅰ（基礎）	必				30		2				2
		動物薬理学Ⅱ（応用）	必							30		2	2
		動物感染症学Ⅰ（免疫学）	必		30	2							2
		動物感染症学Ⅱ（微生物学）	必				30		2				2
		動物感染症学Ⅲ（感染症学）	必							30		2	2
		公衆衛生学Ⅰ	必					30	2				2
		公衆衛生学Ⅱ（ヒトと動物の共通感染症）	必							30		2	2
		小計		75	75	10	120	120	16	165	75	16	42
	専門科目	動物内科看護学Ⅰ（基礎）	必	15	15	2							2
		動物内科看護学Ⅱ（応用）	必				30	30	4				4
		動物外科看護学Ⅰ（基礎）	必				15	15	2				2
		動物外科看護学Ⅱ（応用）	必							30		2	2
		動物臨床看護学総論	必	15	15	2							2
		動物臨床看護学各論Ⅰ（基礎）	必		30	2							2

		動物臨床看護学各論Ⅱ(応用)	必				30	30	4				4
		動物臨床看護学各論Ⅲ(臨床)	必							30		2	2
		動物臨床検査学	必		30	2							2
		動物医療コミュニケーション	必		30	2							2
		愛玩動物学Ⅰ(愛玩動物特性)	必	30		2							2
		愛玩動物学Ⅱ(エキゾチックアニマル特性・ケア)	必		30	2							2
		コンパニオンアニマルケア論	必				30		2				2
		ドッグトレーニング論	必	30		2							2
		人と動物の関係学	必								30	2	2
		適正飼養指導論Ⅰ(適正飼養)	必							30		2	2
		適正飼養指導論Ⅱ(動物災害・危機管理)	必								30	2	2
		動物生活環境学	必								30	2	2
		ペット関連産業概論	必								30	2	2
		動物看護学総合(国家試験対策講座)	必							30	30	4	4
		動物形態機能学実習	必		30	1							1
		動物内科看護学実習	必	60	60	4							4
		動物応用看護学実習	必					60	2				2
		動物臨床検査学実習	必				60		2				2
		動物外科看護学実習Ⅰ	必				30	30	2				2
		動物外科看護学実習Ⅱ	必							30		1	1
		動物臨床看護学実習	必							30	30	2	2
		動物愛護・適正飼養実習	必	60		2							2
		動物看護総合実習Ⅰ	必	30	30	2							2
		動物看護総合実習Ⅱ	必				30	30	2				2
		動物看護総合実習Ⅲ	必							30	30	2	2
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅰ(基礎)	必		60	2							2
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅱ(応用)	必				60	60	4				4
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅲ(総合)	必				30		1				1
		ドッグトレーニング実習Ⅰ(基礎)	必	60		2							2
		ドッグトレーニング実習Ⅱ(応用)	必				45	45	3				3
		動物看護実習(動物看護コース)	必選							60		2	2
		ペット関連産業実習(ペット関連産業コース)	必選							60		2	2
		小計		300	330	29	360	300	28	270	210	25	84
選択	動物実習短期留学		選	30									1
	研修・ボランティア活動		選	30									1
	小計(時限)			60									2
1時限時間数(分)				45	45		45	45		45	45		
必修科目授業時数/単位数				460	450	48	495	485	49	450	300	45	142
必修選択科目授業時数/単位数										60		2	2
卒業に必要な総授業時数/総単位数				460	450	48	495	485	49	510	300	47	144
教養科目・専門科目合計				910		48	980		49	810		47	144

(必修選択科目の履修方法)

第3学年においては、必修選択科目(動物看護コースまたはペット関連産業コース)のどちらか一方を選択し履修すること。

シラバス

令和５年度以降入学者対象　愛玩動物看護学科カリキュラム表

愛玩動物看護学科

区分		授業科目	必選の別	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期
教養教育科目		生物学	必	30					
		動物文化論	必					30	
		動物とアートⅠ	必	10					
		動物とアートⅡ	必				20		
		キャリアマネジメント	必				30		
		英語	必		30				
		コンピュータリテラシⅠ（基礎）	必	30					
		コンピュータリテラシⅡ（応用）	必					30	
		アッセンブリーアワーⅠ	必	15	15				
		アッセンブリーアワーⅡ	必			15	15		
		アッセンブリーアワーⅢ	必					15	15
小計（時限）				85	45	15	65	75	15
専門教育科目	専門基礎科目	生命倫理・動物福祉	必	15	15				
		動物形態機能学Ⅰ	必	30	30				
		動物形態機能学Ⅱ（生理学）	必			30	30		
		動物繁殖学	必					30	
		動物行動学	必				30		
		動物栄養学Ⅰ（基礎）	必				30		
		動物栄養学Ⅱ（臨床）	必						30
		比較動物学（野生動物、産業動物、実験動物）	必					30	30
		動物看護関連法規	必					15	
		動物愛護・適正飼養関連法規	必						15
		動物看護学概論	必	30					
		動物病理学	必			30			
		動物薬理学Ⅰ（基礎）	必			30			
		動物薬理学Ⅱ（応用）	必					30	
		動物感染症学Ⅰ（免疫学）	必		30				
		動物感染症学Ⅱ（微生物学）	必			30			
		動物感染症学Ⅲ（感染症学）	必					30	
		公衆衛生学Ⅰ	必				30		
		公衆衛生学Ⅱ（ヒトと動物の共通感染症）	必					30	
		小計（時限）		75	75	120	120	165	75

愛玩動物看護学科

区分		授業科目	必選の別	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期
専門教育科目	専門科目	動物内科看護学Ⅰ（基礎）	必	15	15				
		動物内科看護学Ⅱ（応用）	必			30	30		
		動物外科看護学Ⅰ（基礎）	必			15	15		
		動物外科看護学Ⅱ（応用）	必					30	
		動物臨床看護学総論	必	15	15				
		動物臨床看護学各論Ⅰ（基礎）	必		30				
		動物臨床看護学各論Ⅱ（応用）	必			30	30		
		動物臨床看護学各論Ⅲ（臨床）	必					30	
		動物臨床検査学	必		30				
		動物医療コミュニケーション	必		30				
		愛玩動物学Ⅰ（愛玩動物特性）	必	30					
		愛玩動物学Ⅱ（エキゾチックアニマル特性・ケア）	必		30				
		コンパニオンアニマルケア論	必			30			
		ドッグトレーニング論	必	30					
		人と動物の関係学	必						30
		適正飼養指導論Ⅰ（適正飼養）	必					30	
		適正飼養指導論Ⅱ（動物災害・危機管理）	必						30
		動物生活環境学	必						30
		ペット関連産業概論	必						30
		動物看護学総合（国家試験対策講座）	必					30	30
		動物形態機能学実習	必		30				
		動物内科看護学実習	必	60	60				
		動物応用看護学実習	必				60		
		動物臨床検査学実習	必			60			
		動物外科看護学実習Ⅰ	必			30	30		
		動物外科看護学実習Ⅱ	必					30	
		動物臨床看護学実習	必					30	30
		動物受護・適正飼養実習	必	60					
		動物看護総合実習Ⅰ	必	30	30				
		動物看護総合実習Ⅱ	必			30	30		
		動物看護総合実習Ⅲ	必					30	30
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅰ（基礎）	必		60				
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅱ（応用）	必			60	60		
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅲ（総合）	必			30			
		ドッグトレーニング実習Ⅰ（基礎）	必	60					
		ドッグトレーニング実習Ⅱ（応用）	必			45	45		
		動物看護実習（動物看護コース）	必選					60	
		ペット関連産業実習（ペット関連産業コース）	必選					60	
		小計（時限）		300	330	360	300	270	210
選択		動物実習短期留学	選	30					
		研修・ボランティア活動	選	30					
		小計（時限）		60					
1時限時間数（分）				45	45	45	45	45	45
必修科目授業時数				460	450	495	485	450	300
必修選択科目授業時数								60	
卒業に必要な総授業時数				460	450	495	485	510	300
教養科目・専門科目・総合科目合計				910		980		810	

(必修選択科目の履修方法)

第3学年においては、必修選択科目（動物看護コースまたはペット関連産業コース）のどちらか一方を選択し履修すること。

令和５年度以降入学生対象　愛玩動物看護師法 第三十一条第一号の規定に基づく指定科目

主務省により指定されている国家試験受験に必要な科目と、対応する本校の授業科目を記載しています。

該当する科目には、シラバス科目名の横に 国試指定科目 と記載し、その科目の到達目標・授業概要を記載しています。

愛玩動物看護師法 第三十一条第一号 規定に基づく指定科目		単位時間	左記に対応する本校の授業科目		単位時間
1	基礎動物学	360	1	基礎動物学	360
①	生命倫理・動物福祉	30	①	生命倫理・動物福祉	30
②	動物形態機能学	120	②	動物形態機能学Ⅰ	60
				動物形態機能学Ⅱ（生理学）	60
③	動物繁殖学	30	③	動物繁殖学	30
④	動物行動学	30	④	動物行動学	30
⑤	動物栄養学	60	⑤	動物栄養学Ⅰ（基礎）	30
				動物栄養学Ⅱ（臨床）	30
⑥	比較動物学	60	⑥	比較動物学（野生動物、産業動物、実験動物）	60
⑦	動物看護関連法規	15	⑦	動物看護関連法規	15
⑧	動物愛護・適正飼養関連法規	15	⑧	動物愛護・適正飼養関連法規	15
2	基礎動物看護学	270	2	基礎動物看護学	270
①	動物看護学概論	30	①	動物看護学概論	30
②	動物病理学	30	②	動物病理学	30
③	動物薬理学	60	③	動物薬理学Ⅰ（基礎）	30
				動物薬理学Ⅱ（応用）	30
④	動物感染症学	90	④	動物感染症学Ⅰ（免疫学）	30
				動物感染症学Ⅱ（微生物学）	30
				動物感染症学Ⅲ（感染症学）	30
⑤	公衆衛生学	60	⑤	公衆衛生学Ⅰ	30
				公衆衛生学Ⅱ（ヒトと動物の共通感染症）	30
3	臨床動物看護学	360	3	臨床動物看護学	360
①	動物内科看護学	90	①	動物内科看護学Ⅰ（基礎）	30
				動物内科看護学Ⅱ（応用）	60
②	動物外科看護学	60	②	動物外科看護学Ⅰ（基礎）	30
				動物外科看護学Ⅱ（応用）	30
③	動物臨床看護学総論	30	③	動物臨床看護学総論	30
④	動物臨床看護学各論	120	④	動物臨床看護学各論Ⅰ（基礎）	30
				動物臨床看護学各論Ⅱ（応用）	60
				動物臨床看護学各論Ⅲ（臨床）	30
⑤	動物臨床検査学	30	⑤	動物臨床検査学	30
⑥	動物医療コミュニケーション	30	⑥	動物医療コミュニケーション	30
4	愛護・適正飼養学	210	4	愛護・適正飼養学	210
①	愛玩動物学	60	①	愛玩動物学Ⅰ（愛玩動物特性）	30
				愛玩動物学Ⅱ（エキゾチックアニマル特性・ケア）	30
②	人と動物の関係学	30	②	人と動物の関係学	30
③	適正飼養指導論	60	③	適正飼養指導論Ⅰ（適正飼養）	30
				適正飼養指導論Ⅱ（動物災害・危機管理）	30
④	動物生活環境学	30	④	動物生活環境学	30
⑤	ペット関連産業概論	30	⑤	ペット関連産業概論	30
5	実習	600	5	実習	600
①	動物形態機能学実習	30	①	動物形態機能学実習	30
②	動物内科看護学実習	120	②	動物内科看護学実習	120
③	動物臨床検査学実習	60	③	動物臨床検査学実習	60
④	動物外科看護学実習	90	④	動物外科看護学実習Ⅰ	60
				動物外科看護学実習Ⅱ	30
⑤	動物臨床看護学実習	60	⑤	動物臨床看護学実習	60
⑥	動物愛護・適正飼養実習	60	⑥	動物愛護・適正飼養実習	60
⑦	動物看護総合実習	180	⑦	動物看護総合実習Ⅰ	60
				動物看護総合実習Ⅱ	60
				動物看護総合実習Ⅲ	60

令和８年度以降入学者対象　愛玩動物看護学科カリキュラム表

愛玩動物看護学科

区分		授業科目	必選の別	授業時数/単位数 1年次 授業時数 前期	1年次 授業時数 後期	1年次 単位数	2年次 授業時数 前期	2年次 授業時数 後期	2年次 単位数	3年次 授業時数 前期	3年次 授業時数 後期	3年次 単位数	単位数（総計）
教養教育科目		生物学	必	30		2							2
		動物文化論	必							30		2	2
		動物とアートⅠ	必	10		1							1
		動物とアートⅡ	必					20	1				1
		キャリアマネジメント	必					30	2				2
		英語	必		30	2							2
		コンピュータリテラシⅠ（基礎）	必	30		2							2
		コンピュータリテラシⅡ（応用）	必							30		2	2
		アッセンブリーアワーⅠ	必	15	15	2							2
		アッセンブリーアワーⅡ	必				15	15	2				2
		アッセンブリーアワーⅢ	必							15	15	2	2
小計				85	45	9	15	65	5	75	15	6	20
専門教育科目	専門基礎科目	生命倫理・動物福祉	必	15	15	2							2
		動物形態機能学Ⅰ	必	30	30	4							4
		動物形態機能学Ⅱ（生理学）	必				30	30	4				4
		動物繁殖学	必							30		2	2
		動物行動学	必					30	2				2
		動物栄養学Ⅰ（基礎）	必					30	2				2
		動物栄養学Ⅱ（臨床）	必								30	2	2
		比較動物学（野生動物、産業動物、実験動物）	必							30	30	4	4
		動物看護関連法規	必							15		1	1
		動物愛護・適正飼養関連法規	必								15	1	1
		動物看護学概論	必	30		2							2
		動物病理学	必				30		2				2
		動物薬理学Ⅰ（基礎）	必				30		2				2
		動物薬理学Ⅱ（応用）	必							30		2	2
		動物感染症学Ⅰ（免疫学）	必		30	2							2
		動物感染症学Ⅱ（微生物学）	必				30		2				2
		動物感染症学Ⅲ（感染症学）	必							30		2	2
		公衆衛生学Ⅰ	必					30	2				2
		公衆衛生学Ⅱ（ヒトと動物の共通感染症）	必							30		2	2
	小計			75	75	10	120	120	16	165	75	16	42

愛玩動物看護学科

区分		授業科目	必選の別	授業時数/単位数 1年次 授業時数 前期	1年次 授業時数 後期	1年次 単位数	2年次 授業時数 前期	2年次 授業時数 後期	2年次 単位数	3年次 授業時数 前期	3年次 授業時数 後期	3年次 単位数	単位数（総計）
専門教育科目	専門科目	動物内科看護学Ⅰ（基礎）	必	15	15	2							2
		動物内科看護学Ⅱ（応用）	必				30	30	4				4
		動物外科看護学Ⅰ（基礎）	必				15	15	2				2
		動物外科看護学Ⅱ（応用）	必							30		2	2
		動物臨床看護学総論	必	15	15	2							2
		動物臨床看護学各論Ⅰ（基礎）	必		30	2							2
		動物臨床看護学各論Ⅱ（応用）	必				30	30	4				4
		動物臨床看護学各論Ⅲ（臨床）	必							30		2	2
		動物臨床検査学	必		30	2							2
		動物医療コミュニケーション	必		30	2							2
		愛玩動物学Ⅰ（愛玩動物特性）	必	30		2							2
		愛玩動物学Ⅱ（エキゾチックアニマル特性・ケア）	必		30	2							2
		コンパニオンアニマルケア論	必				30		2				2
		ドッグトレーニング論	必	30		2							2
		人と動物の関係学	必								30	2	2
		適正飼養指導論Ⅰ（適正飼養）	必							30		2	2
		適正飼養指導論Ⅱ（動物災害・危機管理）	必								30	2	2
		動物生活環境学	必								30	2	2
		ペット関連産業概論	必								30	2	2
		動物看護学総合（国家試験対策講座）	必							30	30	4	4
		動物形態機能学実習	必		30	1							1
		動物内科看護学実習	必	60	60	4							4
		動物応用看護学実習	必					60	2				2
		動物臨床検査学実習	必				60		2				2
		動物外科看護学実習Ⅰ	必				30	30	2				2
		動物外科看護学実習Ⅱ	必							30		1	1
		動物臨床看護学実習	必							30	30	2	2
		動物愛護・適正飼養実習	必	60		2							2
		動物看護総合実習Ⅰ	必	30	30	2							2
		動物看護総合実習Ⅱ	必				30	30	2				2
		動物看護総合実習Ⅲ	必							30	30	2	2
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅰ（基礎）	必		60	2							2
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅱ（応用）	必				60	60	4				4
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅲ（総合）	必				30		1				1
		ドッグトレーニング実習Ⅰ（基礎）	必	60		2							2
		ドッグトレーニング実習Ⅱ（応用）	必				45	45	3				3
		動物看護実習（動物看護コース）	必選							60		2	2
		ペット関連産業実習（ペット関連産業コース）	必選							60		2	2
	小計			300	330	29	360	300	28	270	210	25	84
選択		動物実習短期留学	選	30									1
		研修・ボランティア活動	選	30									1
	小計（時限）			60									2
1時限時間数（分）				45	45		45	45		45	45		
必修科目授業時数/単位数				460	450	48	495	485	49	450	300	45	142
必修選択科目授業時数/単位数										60		2	2
卒業に必要な総授業時数/総単位数				460	450	48	495	485	49	510	300	47	144
教養科目・専門科目合計				910		48	980		49	810		47	144

(必修選択科目の履修方法)

第3学年においては、必修選択科目（動物看護コースまたはペット関連産業コース）のどちらか一方を選択し履修すること。

令和８年度以降入学生対象　愛玩動物看護師法 第三十一条第一号の規定に基づく指定科目

主務省により指定されている国家試験受験に必要な科目と、対応する本校の授業科目を記載しています。

該当する科目には、シラバス科目名の横に 国試指定科目 と記載し、その科目の到達目標・授業概要を記載しています。

愛玩動物看護師法 第三十一条第一号 規定に基づく指定科目		単位時間	左記に対応する本校の授業科目		単位時間
1	基礎動物学	360	1	基礎動物学	360
①	生命倫理・動物福祉	30	①	生命倫理・動物福祉	30
②	動物形態機能学	120	②	動物形態機能学Ⅰ	60
				動物形態機能学Ⅱ（生理学）	60
③	動物繁殖学	30	③	動物繁殖学	30
④	動物行動学	30	④	動物行動学	30
⑤	動物栄養学	60	⑤	動物栄養学Ⅰ（基礎）	30
				動物栄養学Ⅱ（臨床）	30
⑥	比較動物学	60	⑥	比較動物学（野生動物、産業動物、実験動物）	60
⑦	動物看護関連法規	15	⑦	動物看護関連法規	15
⑧	動物愛護・適正飼養関連法規	15	⑧	動物愛護・適正飼養関連法規	15
2	基礎動物看護学	270	2	基礎動物看護学	270
①	動物看護学概論	30	①	動物看護学概論	30
②	動物病理学	30	②	動物病理学	30
③	動物薬理学	60	③	動物薬理学Ⅰ（基礎）	30
				動物薬理学Ⅱ（応用）	30
④	動物感染症学	90	④	動物感染症学Ⅰ（免疫学）	30
				動物感染症学Ⅱ（微生物学）	30
				動物感染症学Ⅲ（感染症学）	30
⑤	公衆衛生学	60	⑤	公衆衛生学Ⅰ	30
				公衆衛生学Ⅱ（ヒトと動物の共通感染症）	30
3	臨床動物看護学	360	3	臨床動物看護学	360
①	動物内科看護学	90	①	動物内科看護学Ⅰ（基礎）	30
				動物内科看護学Ⅱ（応用）	60
②	動物外科看護学	60	②	動物外科看護学Ⅰ（基礎）	30
				動物外科看護学Ⅱ（応用）	30
③	動物臨床看護学総論	30	③	動物臨床看護学総論	30
④	動物臨床看護学各論	120	④	動物臨床看護学各論Ⅰ（基礎）	30
				動物臨床看護学各論Ⅱ（応用）	60
				動物臨床看護学各論Ⅲ（臨床）	30
⑤	動物臨床検査学	30	⑤	動物臨床検査学	30
⑥	動物医療コミュニケーション	30	⑥	動物医療コミュニケーション	30
4	愛護・適正飼養学	210	4	愛護・適正飼養学	210
①	愛玩動物学	60	①	愛玩動物学Ⅰ（愛玩動物特性）	30
				愛玩動物学Ⅱ（エキゾチックアニマル特性・ケア）	30
②	人と動物の関係学	30	②	人と動物の関係学	30
③	適正飼養指導論	60	③	適正飼養指導論Ⅰ（適正飼養）	30
				適正飼養指導論Ⅱ（動物災害・危機管理）	30
④	動物生活環境学	30	④	動物生活環境学	30
⑤	ペット関連産業概論	30	⑤	ペット関連産業概論	30
5	実習	600	5	実習	600
①	動物形態機能学実習	30	①	動物形態機能学実習	30
②	動物内科看護学実習	120	②	動物内科看護学実習	120
③	動物臨床検査学実習	60	③	動物臨床検査学実習	60
④	動物外科看護学実習	90	④	動物外科看護学実習Ⅰ	60
				動物外科看護学実習Ⅱ	30
⑤	動物臨床看護学実習	60	⑤	動物臨床看護学実習	60
⑥	動物愛護・適正飼養実習	60	⑥	動物愛護・適正飼養実習	60
⑦	動物看護総合実習	180	⑦	動物看護総合実習Ⅰ	60
				動物看護総合実習Ⅱ	60
				動物看護総合実習Ⅲ	60

授業科目　目次(令和８年度開講科目)

		科　目　名	略語	講　師	必選の別	単位数	時限数	学年	時期	ページ数
教養教育科目		生物学	生物	寺内聖治	必	2	30	1学年	前期	31
		動物文化論	文化	岩村恵子	必	2	30	3学年	前期	32
		動物とアートⅠ	アート	松岡ジュネ	必	1	10	1学年	前期	33
		動物とアートⅡ	アート	松岡ジュネ	必	1	20	2学年	後期	34
		キャリアマネジメント	キャリア	福田美香/佐藤恵子	必	2	30	2学年	後期	35
		英語	英語	浅井みどり	必	2	30	1学年	後期	36
		コンピュータリテラシⅠ（基礎）	ＣＯＭＰ	大倉朋子	必	1	30	1学年	前期	37
		コンピュータリテラシⅡ（応用）	ＣＯＭＰ	大倉朋子	必	1	30	3学年	前期	38
		アッセンブリーアワーⅠ	ＡＨ	菅直子	必	2	30	1学年	通年	39
		アッセンブリーアワーⅡ	ＡＨ	橋本直子	必	2	30	2学年	通年	40
		アッセンブリーアワーⅢ	ＡＨ	伊藤真紀	必	2	30	3学年	通年	41
専門教育科目	専門基礎科目	生命倫理・動物福祉	倫理	井上留美*/関智征	必	2	30	1学年	通年	42
		動物形態機能学Ⅰ	形態	鈴木勝	必	4	60	1学年	通年	44
		動物形態機能学Ⅱ（生理学）	形態	鈴木勝	必	4	60	2学年	通年	48
		動物繁殖学	繁殖	徳本一義*	必	2	30	3学年	前期	50
		動物行動学	行動	菅直子/嶋田三那子/フリッツ吉川綾*	必	2	30	2学年	後期	52
		動物栄養学Ⅰ（基礎）	栄養	杉浦しおり*	必	2	30	2学年	後期	54
		動物栄養学Ⅱ（臨床）	栄養	落合直美*	必	2	30	3学年	後期	56
		比較動物学（野生動物、産業動物、実験動物）	比較動物	村上隆広*/青木康浩*/生越直仁*	必	4	60	3学年	通年	57
		動物看護関連法規	看護法規	鈴木勝	必	1	15	3学年	前期	60
		動物愛護・適正飼養関連法規	愛護法規	小島香代子*	必	1	15	3学年	後期	62
		動物看護学概論	概論	井上留美*	必	2	30	1学年	前期	64
		動物病理学	病理	生越直仁	必	2	30	2学年	前期	67
		動物薬理学Ⅰ（基礎）	薬理	山本真紀*	必	2	30	2学年	前期	69
		動物薬理学Ⅱ（応用）	薬理	山本真紀*	必	2	30	3学年	前期	72
		動物感染症学Ⅰ（免疫学）	免疫	太田慶一*	必	2	30	1学年	後期	73
		動物感染症学Ⅱ（微生物学）	微生物	池田純子	必	2	30	2学年	前期	75
		動物感染症学Ⅲ（感染症学）	感染症	橋本直子	必	2	30	3学年	前期	76
		公衆衛生学Ⅰ	公衆	山田文也*	必	2	30	2学年	後期	77
		公衆衛生学Ⅱ（ヒトと動物の共通感染症）	公衆	橋本直子	必	2	30	3学年	前期	79
小計						60				
専門教育科目	専門科目	動物内科看護学Ⅰ（基礎）	内科	橋本直子/藤波由香/竹尾恵 梅田麻実/八田彩*/菅尾玲奈/渡辺彩希	必	2	30	1学年	通年	80
		動物内科看護学Ⅱ（応用）	内科	橋本直子/藤波由香/竹尾恵 梅田麻実/八田彩*/菅尾玲奈/渡辺彩希	必	4	60	2学年	通年	83
		動物外科看護学Ⅰ（基礎）	外科	廣嶋実*/武藤眞	必	2	30	2学年	通年	85
		動物外科看護学Ⅱ（応用）	外科	廣嶋実*/伊藤みどり*	必	2	30	3学年	前期	88
		動物臨床看護学総論	看護総論	藤波由香/竹尾恵/梅田麻実/八田彩*	必	2	30	1学年	通年	89
		動物臨床看護学各論Ⅰ（基礎）	看護各論	橋本直子/藤波由香/菅尾玲奈	必	2	30	1学年	後期	91
		動物臨床看護学各論Ⅱ（応用）	看護各論	落合直美*/髙柳信子*	必	4	60	2学年	通年	94
		動物臨床看護学各論Ⅲ（臨床）	看護各論	橋本直子/井上留美*/小嶋篤史*	必	2	30	3学年	前期	96
		動物臨床検査学	検査	橋本直子/菅尾玲奈	必	2	30	1学年	後期	97
		動物医療コミュニケーション	CM	藤波由香/竹尾恵/八田彩/梶山亮子*	必	2	30	1学年	後期	99
		愛玩動物学Ⅰ（愛玩動物特性）	愛玩動物	菅直子/伊藤真紀/嶋田三那子/望月有紗 寺澤大河/すずき莉萌*/高野八重子*/津田順子*	必	2	30	1学年	前期	101
		愛玩動物学Ⅱ （エキゾチックアニマル特性･ケア）	愛玩動物 （エキゾ）	霍野晋吉*	必	2	30	1学年	後期	103
		コンパニオンアニマルケア論	CAC論	伊藤真紀/望月有紗/寺澤大河/高野八重子*/津田順子*	必	2	30	2学年	前期	104
		ドッグトレーニング論	トレ論	菅直子/嶋田三那子	必	2	30	1学年	前期	105
		人と動物の関係学	関係	安藤孝敏	必	2	30	3学年	後期	106
		適正飼養指導論Ⅰ（適正飼養）	適正飼養	望月有紗/島津裕美*	必	2	30	3学年	前期	108
		適正飼養指導論Ⅱ（動物災害・危機管理）	動物災害	小島香代子*	必	2	30	3学年	後期	110

授業科目　目次(令和８年度開講科目)

		科　目　名	略語	講　師	必選の別	単位数	時限数	学年	時期	ページ数
専門教育科目	専門科目	動物生活環境学	生活環境	菅直子/伊藤真紀/嶋田三那子/梅田麻実/望月有紗 寺澤大河/金巻とも子*/刈屋美和*	必	2	30	3学年	後期	111
		ペット関連産業概論	ペット産業	越村義雄*	必	2	30	3学年	後期	113
		動物看護学総合(国家試験対策講座)	総合	橋本直子/藤波由香/竹尾恵/梅田麻実/八田彩* 菅尾玲奈/渡辺彩希/菅直子/伊藤真紀/嶋田三那子	必	4	60	3学年	通年	115
		動物形態機能学実習	形態実習	橋本直子/藤波由香/竹尾恵/梅田麻実/八田彩* 菅尾玲奈/渡辺彩希	必	1	30	1学年	後期	117
		動物内科看護学実習	内科実習	橋本直子/藤波由香/竹尾恵/梅田麻実/八田彩* 菅尾玲奈/渡辺彩希	必	4	120	1学年	通年	119
		動物応用看護学実習	応用実習	橋本直子/藤波由香/竹尾恵/梅田麻実/八田彩* 菅尾玲奈/渡辺彩希	必	2	60	2学年	後期	122
		動物臨床検査学実習	検査実習	橋本直子/藤波由香/竹尾恵/梅田麻実/八田彩* 菅尾玲奈/渡辺彩希	必	2	60	2学年	前期	123
		動物外科看護学実習Ⅰ	外科実習	橋本直子/藤波由香/竹尾恵/梅田麻実/八田彩* 菅尾玲奈/渡辺彩希	必	2	60	2学年	通年	125
		動物外科看護学実習Ⅱ	外科実習	橋本直子/藤波由香/竹尾恵/梅田麻実/八田彩* 菅尾玲奈/渡辺彩希	必	1	30	3学年	前期	127
		動物臨床看護学実習	看護実習	橋本直子/藤波由香/竹尾恵/梅田麻実/八田彩* 菅尾玲奈/渡辺彩希	必	2	60	3学年	通年	128
		動物愛護・適正飼養実習	適正飼養実習	菅直子/伊藤真紀/嶋田三那子/望月有紗/寺澤大河	必	2	60	1学年	前期	129
		動物看護総合実習Ⅰ	総合実習	髙柳信子*/有谷恵美*/平岩沙織*/橋本直子	必	2	60	1学年	通年	131
		動物看護総合実習Ⅱ	総合実習	橋本直子/福田美香	必	2	60	2学年	通年	133
		動物看護総合実習Ⅲ	総合実習	橋本直子/伊藤真紀/佐藤恵子/福田美香	必	2	60	3学年	通年	134
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅰ（基礎）	CAC実習	伊藤真紀/望月有紗/寺澤大河 高野八重子*/津田順子*	必	2	60	1学年	後期	135
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅱ（応用）	CAC実習	伊藤真紀/望月有紗/寺澤大河 早田由貴子*/大髙千恵子*	必	4	120	2学年	通年	136
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅲ（総合）	CAC実習	伊藤真紀/望月有紗/寺澤大河	必	1	30	2学年	前期	138
		ドッグトレーニング実習Ⅰ（基礎）	トレーニング	菅直子/嶋田三那子	必	2	60	1学年	前期	139
		ドッグトレーニング実習Ⅱ（応用）	トレーニング	菅直子/嶋田三那子	必	3	90	2学年	通年	140
		動物看護実習（動物看護コース）	看護コース	橋本直子/藤波由香/梅田麻実 菅尾玲奈/渡辺彩希/井上留美*	必選	2	60	3学年	前期	141
		ペット関連産業実習（ペット関連産業コース）	関連産業コース	菅直子/伊藤真紀/嶋田三那子/望月有紗 寺澤大河/青山正志	必選	2	60	3学年	前期	142
必　修　授　業　合　計						144	2700			
選択科目		動物実習短期留学	短期留学	菅直子/橋本直子/伊藤真紀	選	1	30	－	通年	143
		研修・ボランティア活動	ボランティア	菅直子/橋本直子/伊藤真紀	選	1	30	－	通年	143
総　計						146	2760			
実　務　家　教　員　授　業　時　数							1665			

1時限=45分

《講義》1単位=15時限
《実習》1単位=30時限

・講師名に「*」記号がある教員は実務家教員です

授業科目	生物学		担当教員	寺内　聖治
科目英名	Biology			
開講期間	1 学年　前期　必修	科目区分／形式	教養教育科目　／　講義	

到達目標

この地球には様々な生物が存在しており、生活様式は多種多様である。授業では生物は共通する仕組みや法則があるという事を学ぶ。そして、生物に共通する法則を理解することによりヒトという種である自分自身の理解を深めることも目指す。

授業概要

本授業では、断片的な用語の暗記ではなく、「生命の共通原理」を軸に知識を主体的に繋ぎ合わせる思考力を養います。各授業で知識を整理した後、学んだ知識の応用についても解説します。そしてなぜこの知識が必要なのかについても明らかにしていきます。生物学の重要知識を論理的に連鎖させることで、未知の事象に対しても生物学的な予測・判断ができる基礎体力を構築します。専門分野の学習において、複雑な現象をシンプルに整理して捉えるための「地図」を手に入れることを目的としたカリキュラムです。

授業計画

1　生物学の概論と生命の定義
2　生命の化学的基盤と水、 生体を構成する元素、生体分子
3　細胞の構造と機能、 細胞小器官（核、ミトコンドリア、細胞膜など）の働き
4　細胞膜と物質輸送、 細胞膜の構造、受動輸送と能動輸送、細胞間情報伝達
5　エネルギー代謝の基本、　ATP の生成と利用、解糖系、呼吸
6　遺伝子の構造と働き、DNA の複製、転写、翻訳、セントラルドグマ
7　遺伝と遺伝性疾患、　メンデルの法則、細胞質遺伝、遺伝病など
8　進化のメカニズム、　自然選択説、集団遺伝学、種の形成、進化の証拠
9　細胞分裂と発生の基礎、　体細胞分裂と発生の基礎
10　動物の組織・器官の概要、　基本的な組織の種類とそれぞれの機能
11　神経系と感覚器の基本、　神経系の仕組みと働き
12　内分泌系とホメオスタシス　ホルモンによる体内の調節
13　免疫系の仕組み I、免疫系の進化、腸内環境と免疫
14　免疫系の仕組み II、自然免疫と獲得免疫　感染防御の基本（ワクチン）
15　生物学の最先端トピック、 再生医療、ゲノム編集技術、最新の研究動向

履修上の注意

特になし

成績評価

テストあるいはレポート提出（100%）で評価する

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

授業プリント配布

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

特になし

担当教員の実務経験

授業科目	動物文化論		担当教員	岩村　恵子
科目英名	Introduction to Animal Culture			
開講期間	3 学年　前期　必修	科目区分／形式	教養教育科目　／　講義	

到達目標

愛玩動物看護師は、動物と様々な動物観を持つ飼い主双方に接することになる。そこで、動物との関り合いの文化的背景と多様な動物観を理解し、愛玩動物看護師としての教養、生命倫理への洞察、柔軟な対応性を身に着け、視野の広いプロフェッショナルを目指す。

授業概要

人と動物との関り合いの歴史と、この半世紀以上の間に動物との関係・考え方がどのように変化したかをたどりながら、現在の、またこれからの問題点についてディスカッションを交えて考察する。

授業計画

1　動物文化入門：動物文化とは？昔から人は動物とどのように関わってきたのか？
2　動物文化の歴史Ⅰ.日本　前編　神話と動物　古代から近代までの動物観
3　動物文化の歴史Ⅰ.日本　後編　西洋文化の影響～現在に至るまでの変遷
4　動物文化の歴史Ⅱ.世界　前編　世界各地における古代から近代までの動物観
5　動物文化の歴史Ⅱ.世界　後編　宗教における動物観　動物愛護思想
6　動物飼育の歴史Ⅰ.人はどのようにして動物を飼うようになったのだろうか？
7　動物飼育の歴史Ⅱ.人はなぜ動物を飼うのか？ディスカッション
8　動物飼育の歴史Ⅲ.畜産と実験動物について考える。ディスカッション
9　動物飼育の歴史Ⅳ.飼育展示施設：動物園と水族館　誕生の歴史とその変遷
10　動物福祉とアニマルライツ　エンリッチメント
11　野生動物と自然保護
12　動物行動学の観点から見る動物文化：動物にも文化がある
13　現代の動物をめぐる社会問題　災害時避難同行・機内持ち込みなど　ディスカッション
14　自身の動物観を知る　ワークショップ
15　最後に：私たちはこれからどのように動物と付き合っていくのか？SDGsを踏まえて。

履修上の注意

配布されたプリント資料は毎回持参すること。授業は参加することに意義があると考え、ディスカッションでは常に自分の考えを発言する心構えを持つこと。

成績評価

期末試験 75%　授業参加度 25%(出席率 20%　意見発表など 5%)

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

授業プリント

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

担当教員の実務経験

授業科目	動物とアートⅠ		担当教員	松岡　ジュネ
科目英名	Animals in Art Ⅰ			
開講期間	1 学年　前期　必修	科目区分／形式	教養教育科目　／　講義	

到達目標

カリキュラム内容は基礎的な内容なので、2 年生での制作に応用できるようによく理解し実践する。
アートは表現であることを理解し、完成を目標とする。

授業概要

動物園でのスケッチや、2 年生での作品制作に必要と思われる基礎技術（基礎知識）を講義・実践する。
見てあるがままに描くだけが絵画制作ではないことを知り、制作するために必要と思われる知識・技術（発想方法・色彩・構図法・その他）を学ぶ。

授業計画		持ち物
1	絵画制作の基礎 1：発想（発想力を育てる）デカルコマニー	スケッチブック・鉛筆
2	絵画制作の基礎 2：色彩の基礎（三原色の原理・絵の具の性質）三原色の虹	スケッチブック・鉛筆・定規
3	絵画制作の基礎 3：デザイン化（渦巻きの応用と装飾）スパイラルのデザイン	スケッチブック・鉛筆・定規・色鉛筆
4	絵画制作の基礎4：遠近法（画面に奥行きを作る）一点透視図法による自分の部屋	〃
5	3・4 の仕上げ	〃

履修上の注意（道具について）

スケッチブック・筆記用具は各自毎回持参すること。色鉛筆を使用する回（3・4・5 回目）は、各自で用意する。
水彩絵の具は学校で用意する。自分の持ち物がある場合、持参しても良い。（使用するのは水彩絵の具）
絵の具を使用する際に汚れる場合があるので、エプロンを持参してもよい。

成績評価

作品提出による評価（全 4 作品）100％

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

各自スケッチブック、鉛筆は毎回持参すること。その他は持ち物参照。

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

特になし

担当教員の実務経験

授業科目	動物とアートⅡ		担当教員	松岡　ジュネ
科目英名	Animals in ArtⅡ			
開講期間	2 学年　後期　必修	科目区分／形式	教養教育科目　／　講義	

到達目標

立体と平面の両作品を制作しながら、アートは表現であることを理解し「人に見せる作品」へ到達できるように工夫する。そのためには完成度の高い作品を制作するように努力する。

授業概要

実践・完成を目標とする。1 年生の授業の基礎知識・技術を応用しながら一枚の絵画を制作する。
課題は具象表現による空想画なのである程度のデッサン力を必要とするが、1年生で学んだことを応用することにより苦手意識をカバーできることを知る。絵画はいろんな要素で成り立っていることを学ぶ。
ワイヤークラフト制作は楽しみながら針金を使い「線と量」で表現してゆく。

授業計画			持ち物
1	シュールレアリスムの絵画「心象風景と動物たち」		スケッチブック・鉛筆
	〃	1. シュールレアリスムとは？・・・発想を引き出す方法他	
2	〃	2. 下描き・・・・構図・色彩について	〃
3	〃	3. 着色・・・着色手順について	〃
4	〃	4. 着色	〃
5	〃	5. 着色、仕上げ、提出	〃
6	ワイヤーアート針金の彫刻		スケッチブック・鉛筆
	〃	1. 練習「蝶々等」	
7	〃	2. 好きな動物を作ろう、デッサン図案を作成する	〃
8	〃	3. 〃 、デッサンを基に本体をつくる	〃
9	〃	4. 〃 、本体に量感を肉付けする	〃
10	〃	5. 〃 、細部仕上げ	〃

履修上の注意

水彩絵の具は学校で用意する。自分の持ち物がある場合、持参しても良い。(使用するのは水彩絵の具)
絵の具を使用する際に汚れる場合があるので、エプロンを持参してもよい。

成績評価

作品提出による評価(全 2 作品)100%
全 10 回の授業で提出作品が 2 点なので、提出作品は必ず提出すること。

教科書(授業必携本)／　毎回持参するもの

各自、スケッチブックと鉛筆は毎回持参すること。

事前・事後学修(予習・復習)の内容　／　参考書(自主的な学習用)

特になし

担当教員の実務経験

授業科目	キャリアマネジメント		担当教員	福田　美香 佐藤　恵子
科目英名	Career Management			
開講期間	2 学年　後期　必修	科目区分／形式	教養教育科目　／　講義	

到達目標

授業を通して今後の自分のキャリアについて考えて行くことを目標とする。グループワークを通じ、自己と仕事について理解する。自分自身のことを考えることで、自分の価値観・興味・能力・可能性を探る。また、グループでワークを通じて、 社会人基礎力としての「チームで働く力」を養う。

授業概要

社会人基礎力としての「チームで働く力」を学び、チームとしてワークに取り組む中で、互いに支えあい、成長しながら目的に向かっていくことを体験する。また、卒業後の進路を考え、自分の働き方や、社会人としてどのように活躍していきたいのかを考え、具体的な就職活動の準備を行う。

授業計画

1　チーム学習を進めるために　話し合いの意義（メルヘン大会）（佐藤）
2　自己理解　私の大切な物探し（佐藤）
3　自己理解　私ってどんな人？（佐藤）
4　自己理解　自分を知る手がかり（佐藤）
5　自己理解　なぜ働くの？（佐藤）
6　仕事理解　地図を作ってみよう！（佐藤）
7　仕事理解　ケーススタディで学ぶ実際の仕事（佐藤）
8　就活対策　*キャリアデザイン「適性診断」*（福田）
9　就活対策　求人先の探し方、企業研究（福田）
10　就活対策　履歴書の書き方①（福田）
11　就活対策　アポイントメントの取り方、添え状、メールの書き方（福田）
12　就活対策　履歴書の書き方②（福田）
13　就活対策　面接対策（福田）
14　就活対策　就職活動本番に向けて①（福田）
15　就活対策　就職活動本番に向けて②（福田）

履修上の注意

特になし

成績評価

授業中に発表する課題の提出 80％及び授業参加度 20％

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

第 1 回目～7 回目『未来ノート』、ハサミ、のり、赤黒ボールペン、マーカー

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

講義後は各回の内容を復習すること。次回内容の教科書該当部分を読み予習すること。

担当教員の実務経験

授業科目	英語		担当教員	浅井　みどり
科目英名	English			
開講期間	1 学年　後期　必修	科目区分／形式	教養教育科目　／　講義	

到達目標

愛玩動物看護師としてオーナーさんと英語でコミュニケーションをとるために必要な語彙や表現を身につけることを目標とする。

授業概要

動物病院で必要な医療英語と英会話を初診受付、ワクチン接種、避妊と去勢、診察室での対応、薬の説明、会計といった場面ごとに学んでいく。また、海外の人々と接する際のマナー、日本語や日本文化との違いに対する知識も深めていく。第8回講義以降に1対1のスピーキングテストを行っていく。進度については履修者の様子をみながら調整していく予定。

授業計画

1	Unit 1: Benny's First Visit to the Vet（初診受付①）
2	Unit 1: Benny's First Visit to the Vet（初診受付②）
3	Unit 1 Benny's First Visit to the Vet (初診受付③) Unit 2: Benny Gets His Second Vaccinations（ワクチン接種①）
4	Unit 2: Benny Gets His Second Vaccinations（ワクチン接種②）
5	Unit 2: Benny Gets His Second Vaccinations（ワクチン接種③） Unit 5: Spaying and Neutering（避妊と去勢①）
6	Unit 5: Spaying and Neutering（避妊と去勢②）
7	Unit 5: Spaying and Neutering（避妊と去勢③） Unit 6: Benny Has to Have an IV-Drip (1)（診察室での対応①）
8	Unit 6: Benny Has to Have an IV-Drip (1)（診察室での対応②）
9	Unit 6: Benny Has to Have an IV-Drip (1)（診察室での対応③）
10	Unit 6: Benny Has to Have an IV-Drip (1)（診察室での対応④） Unit 7: Benny Has to Have an IV-Drip (2)（薬の説明①）
11	Unit 7: Benny Has to Have an IV-Drip (2)（薬の説明②）
12	Unit 7: Benny Has to Have an IV-Drip (2)（薬の説明③）
13	Unit 8: Benny Has to Have an IV-Drip (3)（会計①）
14	Unit 8: Benny Has to Have an IV-Drip (3)（会計②）
15	Unit 8: Benny Has to Have an IV-Drip (3)（会計③）＆動物病院の英会話総復習

履修上の注意

医療英語を学ぶため、できる限り辞書を持参することが望ましい。

スマートフォン上の辞書を使用する場合は、必ず担当教員の許可を得ること。

成績評価

期末試験：70％、スピーキングテスト：15％、授業参加度（出席、会話練習）：15％

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

『Animal Companion--動物専門職のための総合英語--』（南雲堂）、ユニット毎に配布される授業資料

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

事前学習：該当ユニットに目を通し、分らない単語や表現を調べておく。

事後学習：授業で指摘された単語の意味と発音、会話に必要な表現を分かりやすくまとめ、しっかりと覚える。

担当教員の実務経験

授業科目	コンピュータリテラシⅠ（基礎）		担当教員	大倉　朋子
科目英名	Computer Literacy Ⅰ			
開講期間	1 学年　前期　必修	科目区分／形式	教養教育科目　／　実習	

到達目標

Windows コンピュータの基本操作、ネットリテラシーの知識を身につける。
Microsoft 社の Word・Excel・PowerPoint の基礎知識・基本操作を身につける。

授業概要

始めに、ハードウェアやソフトウェア、ネットリテラシーについての IT 基礎知識を学ぶ。
その後、コンピュータを使用して実務用文書やビジネス資料作成の基本的な操作ができるようになるための実習授業を行う。パワーポイントによる発表も行い、操作方法の習得だけではなく、実践的なプレゼンテーションについても学ぶ。

授業計画

1　レビュー（授業計画）、IT 基礎知識の習得・インターネットの活用方法と注意点
2　情報セキュリティの重要性・ワープロソフトⅠ（基礎操作）
3　ワープロソフトⅡ（応用操作）・表計算ソフトⅠ（基礎操作①）
4　表計算ソフトⅡ（基礎操作②）
5　表計算ソフトⅢ（基礎操作③）
6　プレゼンテーションソフトⅠ（基礎操作）
7　プレゼンテーションソフトⅡ（プレゼンテーション作成）
8　プレゼンテーションソフトⅢ（プレゼンテーション発表）

履修上の注意

初回授業時に配布されたログインアカウント表を各自持参し、授業開始前に PC へログインすること。
コンピュータ教室内での飲食は厳禁。

成績評価

授業参加度（80％）と授業態度（20％）により評価。
また、授業参加度として、最終回(8 回目)の最終試験のプレゼンテーションは大きく比重をおき、評価する。

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

タイピング管理表（初回授業時に配布します）、ログインアカウント表
教科書:『15 日で使いこなす！　Office 2024　実践講座』（SB クリエイティブ）
補助資料プリント

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

特になし

担当教員の実務経験

授業科目	コンピュータリテラシⅡ（応用）		担当教員	大倉　朋子
科目英名	Computer LiteracyⅡ			
開講期間	3 学年　前期　必修	科目区分／形式	教養教育科目　／　実習	

到達目標

コンピュータリテラシⅠ（基礎）のコンピュータ実習で習得した技術を復習する。

Microsoft 社の Word・Excel・PowerPoint を活用して、実社会に役立つコンピュータスキルを向上させる。

授業概要

就職を目前に控え、より実践的な内容を学ぶ。

1 年生のコンピュータ実習の基礎内容を復習しながら、新たな技術取得を目指す。

また、毎回授業開始時にタイピング練習を行う。

授業計画

1　レビュー（授業計画）、IT 基礎、インターネットセキュリティと情報モラル

2　Excel 表計算Ⅰ（書式設定、計算式、関数応用）

3　Excel 表計算Ⅱ（グラフ応用、演習）

4　Word・Excel 複合作業（差し込み印刷、ビジネス資料作成）

5　HTML（タグ基礎）

6　プレゼンテーションⅠ（基礎・応用）

7　プレゼンテーションⅡ（制作）

8　プレゼンテーションⅢ（発表）

履修上の注意

1 年時に各自配布されたログインアカウント表を持参し、授業開始に PC へログインすること。

コンピュータ教室内での飲食は厳禁。

成績評価

授業参加度（80％）と授業態度（20％）により評価。

また、授業参加度として、最終回(8 回目)の最終試験のプレゼンテーションは大きく比重をおき、評価する。

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

タイピング管理表

教科書『イチからしっかり学ぶ!Office 基礎と情報モラル Microsoft365・Office バージョンフリー』（noa 出版）

補助資料プリント

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

自主学習は必要ないが、授業内容以外に勉強したい項目があれば申し出ること。

担当教員の実務経験

授業科目	アッセンブリーアワーⅠ		担当教員	菅　直子
科目英名	Assembly Hours Ⅰ			
開講期間	1 学年　通年　必修	科目区分／形式	教養教育科目／講義	

到達目標

様々な分野で活躍する講師の講義を通して、社会常識や動物に関わる仕事について視野を広げることを目標とする。動物に係わる仕事は、動物を介してそれぞれ異なった動物観をもつ人々と関わる事であり、特に飼主の年齢層は幅広く、動物観は多様である。人々の持つ動物観の多様性、自らの動物観を考察しながら、どのような場面においても、広い視野と冷静かつ柔軟な思考力を持って対処できる素地を養う。

授業概要

本科目は『社会常識』、『様々な動物』から構成される。
1 年生では社会人に必要なマナーやルールといった社会常識と、
ペットだけではなく動物園の動物（展示動物）やヒトのために働く動物について学ぶ。
また、動物分野の資格に関する伝達、文化祭やクラス活動に関する諸連絡も行う。

動物分野の資格と現状
夏季自主学習
創始者記念礼拝
文化祭（あしあと祭）
学外施設見学　など
※内容及び回数は、今後の社会情勢により変更になる場合がある。

履修上の注意

レポート課題が課されている場合は、必ず提出すること。

成績評価

授業参加度とレポートにより評価　授業参加度：50％　レポート：50％

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

配布プリント・ノートや筆記用具等メモをとれるもの

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

講義後は講義内容をレポートにまとめ提出する

担当教員の実務経験

授業科目	アッセンブリーアワーⅡ		担当教員	橋本　直子
科目英名	Assembly HoursⅡ			
開講期間	2 学年　通年　必修	科目区分／形式	教養教育科目／講義	

到達目標

様々な分野で活躍する講師の講義を通して、社会常識や動物に関わる仕事について視野を広げることを目標とする。どのような場面においても、広い視野と冷静かつ柔軟な思考力を持って対処できる素地を養い、社会人としての基礎力を身に付ける。また、資格取得に向けて理解を深める。

授業概要

社会人に必要な知識を学ぶとともに、各自の興味のある分野を掘り下げて学び、取得目標資格への準備を行う。

国立科学博物館見学
夏季自主学習
年金について
税金について
救命技能講習
あしあと祭　など
※内容及び回数は、今後の社会情勢により変更になる場合がある。

履修上の注意

特になし

成績評価

授業参加度とレポートにより評価　授業参加度:50%　レポート:50%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

配布プリント・ノートや筆記用具等メモをとれるもの

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

講義後は講義内容をレポートにまとめ提出する

担当教員の実務経験

授業科目	アッセンブリーアワーⅢ		担当教員	伊藤　真紀
科目英名	Assembly HoursⅢ			
開講期間	3 学年　通年　必修	科目区分／形式	教養教育科目／講義	

到達目標

様々な分野で活躍する講師の講義を通して、社会活動や動物に関わる仕事について視野を広げることを目標とする。
動物病院で求められる愛玩動物看護師としての役割や、自身の将来展望を見据え就職後に必要な教養を身に着ける。
愛玩動物看護師国家試験に向けての様々な情報を共有する。

授業概要

国立科学博物館見学
薬物の危険性
愛玩動物看護師国家試験に向けて
模擬試験
あしあと祭　等

※内容及び回数は変更になる場合がある

履修上の注意

国家試験関係の授業を欠席した場合は、各自内容を確認すること。
レポート課題が課されている場合は、必ず提出すること。

成績評価

授業参加度とレポートにより評価（授業参加度：50%　レポート：50%）

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

配布プリント・ノートや筆記用具等メモをとれるもの

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

講義後は講義内容・感想をレポートにまとめ提出する

担当教員の実務経験

授業科目	国試指定科目　生命倫理・動物福祉		担当教員	井上　留美 関　智征
科目英名	Bioethics and Animal Welfare			
開講期間	1 学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1．生命倫理の概念
1）生命倫理の考え方について理解する
2）生命倫理と獣医療の関わりについて理解する
2．動物福祉の概念
1）動物福祉の考え方について理解する
2）「5 つの自由」（飢え・渇きからの自由、痛み・負傷・病気からの自由、不快からの自由、本来の行動がとれる自由、恐怖・抑圧からの自由）について理解する
3）世界と日本における近代及び現代の動物愛護運動について理解する
4）「動物の権利」、「動物福祉」思想や課題について理解する
5）動物福祉の生理学的指標及び行動的指標による評価法について理解する
6）安楽死の考え方について理解する
3．愛玩動物の福祉
1）愛玩動物の適正飼養と福祉上の問題について理解する
2）国内外の動物保護活動の現状と課題について理解する
3）飼養放棄や殺処分問題、対策について理解する
4）動物のみだりな殺傷・虐待（積極的な虐待とネグレクト）の現状、対策について理解する
5）飼養動物の災害時の対応について理解する
4．産業動物の福祉
1）産業動物における福祉上の問題について理解する
2）国際的な福祉基準について理解する
3）産業動物の福祉を向上させるための具体的方法について理解する
5．実験動物の福祉
1）実験動物における福祉上の問題について理解する
2 ） 3R （ Replacement （代替）、Reduction（削減）、Refinement（改善））の概念と具体的方法について理解する
6．展示動物の福祉
1）展示動物における福祉上の問題について理解する
2）展示動物に対する環境エンリッチメントの種類と内容について理解する

授業概要

生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。

授業科目	国試指定科目　生命倫理・動物福祉		担当教員	井上　留美 関　智征
科目英名	Bioethics and Animal Welfare			
開講期間	1 学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

前半の講義では、動物福祉の基本的概念を理解する。動物の福祉に関する問題点や取り組みを学び、愛玩動物看護師としてさまざまな分野での動物の生活の質（QOL）の向上、さらには人と動物のより良い関係の向上に寄与するための基礎知識と応用力を養うことを目標とする。また、人生を歩んでいくうえで最も大切なのは人間関係である。そしてそれはいのちを生かしあうことであり、それが生命倫理につながる。後半の講義では、そうした実を共に考えていく。

授業概要

人と動物の関わりを考え、動物福祉の基本的概念について理解する。産業、実験、野生、展示、愛玩、使役動物といった分類別に動物福祉への配慮の基本や福祉の課題、取り組みなどを学習する。また、犬猫の保護や小動物臨床の現場で必要となる動物福祉への配慮も併せて学ぶ。8-15 回は、毎回テーマに沿って講義中心で進めるが、質疑応答の時間もとる。

授業計画

1　生命倫理の概念とさまざまな動物観（井上）
2　動物福祉の概念（井上）
3　愛玩動物の福祉/犬猫の保護活動と動物福祉（招聘講師）
4　産業動物の福祉/展示（野生）動物の福祉（井上）
5　実験動物の福祉（招聘講師）
6　小動物臨床と動物福祉①（井上）
7　小動物臨床と動物福祉②/使役動物の福祉（井上）
8　生命倫理ということ（関）
9　人生あれこれ（関）
10　人間とは何か（1）　人の感情（関）
11　人間とは何か（2）　人間をめぐる名言から考える（関）
12　生命・命・いのち（関）
13　愛をめぐって　エロース　アガペー　フィリア　カリタス、聖書(関)
14　死をめぐって　死の現実と人間の取りうる態度（関）
15　安楽死と尊厳死　生かされている態度（関）

履修上の注意

第 1～7 回：プリントを配布する。授業計画の内容と順番は前後する場合がある。

第 8～15 回：各自メモをとること

成績評価

授業参加度 60%、レポート課題 40%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

特になし

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

『愛玩動物看護師コアカリキュラム準拠教科書 4 巻　動物看護学概論／人と動物の関係学／生命倫理・動物福祉』

担当教員の実務経験

井上留美：愛玩動物看護師として、動物病院で勤務。

授業科目	国試指定科目　動物形態機能学		担当教員	鈴木　勝
科目英名	Animal Functional Anatomy			
開講期間	1 学年　通年　必修 2 学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1．生命のすがた

1）細胞の構造について理解する

2）DNAの働きについて理解する

3）上皮組織、腺組織、支持組織、筋組織、神経組織について理解する

4）器官の成り立ちと維持、調整システムについて理解する

2．循環器とその調節

1）心臓の構造について理解する

2）心筋細胞の電気現象と心筋の興奮伝導系について理解する

3）ポンプとしての心臓機能と心電図、 心音について理解する

4）心臓機能の調節機構について理解する

5）血管の種類と構造、機能について理解する

6）血圧調節機構について理解する

3．呼吸器とその調節

1）呼吸器の構造について理解する

2）換気の仕組みについて理解する

3）肺胞におけるガス交換について理解する

4）血液による酸素と二酸化炭素の運搬について理解する

5）呼吸運動の調節機構について理解する

4．消化器と栄養代謝

1）消化管（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸）の構造と機能について理解する

2）唾液腺、膵臓、肝臓の構造と機能　について理解する

3）消化と吸収の仕組みについて理解する

4）各種栄養素（糖質、タンパク質、脂質）の代謝について理解する

5．内分泌とホルモン

1）内分泌の定義について理解する

2）ホルモンの性質、機能、生成、分泌、フィードバック調節について理解する

3）主な内分泌臓器の構造と機能について理解する

4）主なホルモンの作用と標的器官について理解する

6．泌尿器と体液調節

1）腎臓及びネフロンの構造と機能について理解する

2）クリアランスの意味を知り、腎血漿流量と糸球体濾過量の調節機構について理解する

3）尿細管における再吸収と分泌、集合管における尿濃縮について理解する

4）体液の分布と区分、調節機構について理解する

5）電解質バランスについて理解する

6）酸・塩基平衡について理解する

7. 脳と神経

1)ニューロンの構成と活動電位、シナプス伝達について理解する

2)脳の構造と機能について理解する

3)脊髄の構造と機能について理解する

4)体性神経の構成と機能について理解する

5)自律神経の構成と機能について理解する

8. 運動器

1)骨格の構成について理解する

2)骨の形状と構造について理解する

3)関節の構造と働きについて理解する

4)骨格筋の構造と収縮機構について理解する

5)主な骨格筋の名称と機能について理解する

9. 血液と造血器

1)血球成分と血漿成分について理解する

2)赤血球の構造と機能について理解する

3)白血球の構造と機能について理解する

4)血小板機能と血液凝固機構及び線維素溶解について理解する

10. 皮膚と感覚器

1)皮膚の構造と機能について理解する

2)皮膚の付属器官について理解する

3)体性感覚(皮膚感覚)について理解する

4)特殊感覚(視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚)について理解する

授業概要

動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。

授業科目	国試指定科目　動物形態機能学Ⅰ		担当教員	鈴木　勝
科目英名	Animal Functional Anatomy Ⅰ			
開講期間	1学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

学生が動物の形態と機能を学びながら両者の関係性を理解すること、および動物種差を通して仕事をするうえで何が大切なのかを知ることを目標とする。

授業概要

体の各部位ごとにマクロとミクロの視点で名称、機能、関係性、機能の意味（機能しないとどうなるか、どういった疾患になるのか）などを学んでいく。

授業計画

1　動物形態機能学とは、学ぶ意味と使い方、位置や方向を示す専門用語など
2　骨格（機能、構造、動物種差、関連疾患など）
3　骨格（微細構造）
4　骨格（代謝、関連疾患など）
5　関節と靭帯（構造、種類）
6　関節と靭帯（形状、関連疾患など）
7　筋と腱（機能、微細構造、関連疾患など）
8　筋と腱（様々な分類、関連疾患など）
9　体内の物質輸送（種類、関連疾患など）
10　体内の物質輸送（種類、関連疾患など）
11　細胞内液、細胞外液、電解質
12　細胞分裂と遺伝（関連疾患など）
13　各種組織、器官の成り立ちと維持・調節
14　血液と造血器（血液成分、関連疾患など）
15　血液と造血器（赤血球、関連疾患など）
16　血液と造血器（白血球の種類と役割、関連疾患など）
17　血液と造血器（免疫、関連疾患など）
18　血液と造血器（免疫、関連疾患など）
19　血液と造血器（血小板と血液凝固機構、関連疾患など）
20　循環器（各部名称、血液循環、心臓の動き、聴診部位、関連疾患など）
21　循環器（血管の種類と血圧、関連疾患など）
22　心電図（聴診と心室の動きとの関係、関連疾患など）
23　消化器（全体の流れ、主な働きと各部名称）
24　消化器（口腔、歯と歯式、関連疾患など）
25　消化器（胃、主な働きと調節、関連疾患など）
26　消化器（小腸、主な働き、関連疾患など）
27　消化器（大腸、主な働き、関連疾患など）
28　消化器（膵臓、主な働き、関連疾患など）
29　消化器（肝臓、主な働き、関連疾患など）
30　消化器（三大栄養素の消化・吸収、関連疾患など）

履修上の注意

欠席した授業のプリントを入手するよう、努力すること。

成績評価
前期、後期各 1 回の小テスト（合計 33%）、および前期と後期の期末試験（合計 67%）で評価（全問題は五肢択一式問題）
教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの
ノート、ハサミ、のり、筆記用具（カラーペンなど）を毎回持参すること。
事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）
『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　1 巻　動物形態機能学/動物繁殖学』（エデュワードプレス）
授業後には、授業で指摘した大事なポイントを必ず復習すること。
担当教員の実務経験

授業科目	国試指定科目　動物形態機能学Ⅱ(生理学)		担当教員	鈴木　勝
科目英名	Animal Functional Anatomy Ⅱ (Veterinary physiology)			
開講期間	2 学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

学生が動物の形態と機能を学びながら両者の関係性を理解すること、および動物種差を通して仕事をするうえで何が大切なのかを知ることを目標とする。

授業概要

体の各部位ごとにマクロとミクロの視点で名称、機能、関係性、機能の意味(機能しないとどうなるか、どういった疾患になるのか)などを学んでいく。

授業計画

1　呼吸器(全体の流れ、主な働きと各部名称、関連疾患など)
2　呼吸器(調節、呼吸様式、関連疾患など)
3　呼吸器(上部気道、関連疾患など)
4　呼吸器(下部気道、関連疾患など)
5　泌尿器(全体の流れ、主な働きと名称、関連疾患など)
6　泌尿器(腎小体、関連疾患など)
7　泌尿器(各種検査との関係など)
8　内分泌、外分泌、傍分泌
9　内分泌(内分泌腺、ホルモン名、主な働き、関連疾患など)
10　内分泌（フィードバック機構、関連疾患など）
11　生体の防御機構（外皮）
12　生体の防御機構（毛）
13　生体の防御機構（爪）
14　生体の防御機構（体温調節など）
15　脳と神経（構成細胞）
16　脳と神経（静止膜電位と活動電位）
17　脳と神経（興奮の伝達とシナプス伝達）
18　脳と神経（シナプス）
19　脳と神経（興奮性と抑制性シナプス）
20　脳と神経（神経伝達物質と受容体）
21　脳と神経（神経回路）
22　脳と神経（神経系）
23　脳と神経（脳の構造）
24　脳と神経（脳神経）
25　脳と神経（脊髄と脊髄神経）
26　脳と神経（自律神経系）
27　脳と神経（行動の神経調節）
28　感覚と情報伝達（受容器と閾値、体性感覚）
29　感覚と情報伝達（嗅覚、味覚）
30　感覚と情報伝達（聴覚と平衡感覚、視覚）

履修上の注意

欠席した授業のプリントを入手するよう、努力すること。

成績評価
前期、後期各 1 回の小テスト（合計 33%）、および前期と後期の期末試験（合計 67%）で評価（全問題は五肢択一式問題）
教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの
ノート、ハサミ、のり、筆記用具（カラーペンなど）を毎回持参すること。
事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）
『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　1 巻　動物形態機能学/動物繁殖学』（エデュワードプレス）
授業後には、授業で指摘した大事なポイントを必ず復習すること。
担当教員の実務経験

授業科目	国試指定科目　動物繁殖学		担当教員	徳本　一義
科目英名	Theriogenology			
開講期間	3 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1. 生殖器の形態と機能
1)生殖器(雌・雄)の基本構造について理解する
2)主要な性ホルモンの名称、産生部位及び標的器官について理解する
3)雄の繁殖生理について理解する
4)雌の繁殖生理について理解する
2. 性周期と交配
1)性成熟と発情徴候について理解する
2)排卵(自然排卵・交尾排卵)の仕組みについて理解する
3)性周期と腟細胞スメアの関係について理解する
4)交配適期の決定法について理解する
3. 妊娠と分娩
1)着床・発生・妊娠・胎子の発育について理解する
2)妊娠期間、偽妊娠について理解する
3)分娩と助産、帝王切開について理解する
4)去勢・不妊手術について理解する
5)人工授精について理解する
4. 新生子管理
1)新生子のための飼養環境について理解する
2)初乳の意義と哺乳について理解する
3)新生子の発育過程について理解する
5. 遺伝学概論
1)遺伝のメカニズムについて理解する
2)さまざまな遺伝様式(顕性・潜性、伴性遺伝など)について理解する
3)遺伝子疾患、発生異常について理解する

授業概要

繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。

授業科目	国試指定科目　動物繁殖学		担当教員	徳本　一義
科目英名	Theriogenology			
開講期間	3 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

主に犬・猫の繁殖生理を理解し、性行動、妊娠、分娩及び避妊、去勢の知識を身につけ助産と性別疾病予防について理解を深め、医療面接に活かす。また犬・猫以外の動物の繁殖生理の特徴を知る。

授業概要

犬・猫を中心とした雌雄の生殖器の解剖、繁殖の生理と内分泌、正常な繁殖(交配・妊娠・分娩)、繁殖期疾患、遺伝子疾患、新生児～仔犬仔猫の健康を支えるためのケアと予防を基礎から臨床現場で診察することの多い事例を踏まえ説明する。

授業計画

1　繁殖学総論
2　生殖器の機能と形態 1
3　生殖器の機能と形態 2
4　生殖機能の調整と機構
5　性周期と交配
6　雄の生殖生理
7　雌の生殖生理
8　妊娠、分娩、産褥期 1
9　妊娠、分娩、産褥期 2
10　新生子管理 1
11　新生子管理 2
12　繁殖障害
13　遺伝学基礎
14　遺伝子疾患と発生異常
15　動物倫理と社会的責任、法的規制と関連制度

履修上の注意

適宜プリントを配布する。次回に続くこともあるので配布資料は毎回忘れずに持参すること。

成績評価

授業参加度(30%)と期末試験(70%)

教科書(授業必携本)／　毎回持参するもの

配布プリントを持参すること。

事前・事後学修(予習・復習)の内容　／　参考書(自主的な学習用)

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　1 巻　動物形態機能学/動物繁殖学』(エデュワードプレス)
次回内容の教科書該当部分を読み予習すること。

担当教員の実務経験

獣医師。大学での遺伝子の研究、動物病院および企業勤務の経験を踏まえ講義を行う。

業科目	国試指定科目　動物行動学		担当教員	菅　直子 嶋田　三那子 フリッツ吉川 綾
科目英名	Animal Behavior			
開講期間	2 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門基礎科目 ／ 講義	

到達目標

1. 動物行動学の基礎
1)動物行動学の 4 つの問い(適応・進化・機構・発達)について理解する
2)行動の進化と適応、家畜化について理解する
3)生得的行動と学習行動について理解する
4)脳による行動制御について理解する
2. 個体維持行動
1)摂食及び飲水行動について理解する
2)排泄行動について理解する
3)身づくろい行動について理解する
4)護身行動について理解する
3. 発達過程と社会行動
1)発達ステージ(新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)と各時期の行動学的特徴について理解する
2)生殖行動(性行動・母性行動)について理解する
3)コミュニケーション行動について理解する
4)敵対行動と親和的行動について理解する
4. 学習理論
1)行動形成について理解する
2)馴化と感作について理解する
3)古典的条件づけとオペラント条件づけについて理解する
4)学習に影響を与える因子について理解する
5)基本的なトレーニング法(トイレトレーニング、クレートトレーニング、甘噛み対策など)について理解する
5. 問題行動
1)問題行動の定義と要因(遺伝的要因、生得的要因、環境要因)について理解する
2)攻撃行動の種類、原因(動機づけ)と治療法について理解する
3)恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法について理解する
4)不適切な排泄行動の原因(動機づけ)と治療法について理解する
5)高齢性認知機能不全の原因と臨床徴候、対応について理解する
6. 行動治療
1)行動診療の進め方について理解する
2)行動修正法と環境修正法の種類と適応について理解する
3)行動治療における薬物療法について理解する

授業概要

犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。

授業科目	国試指定科目　動物行動学		担当教員	菅　直子 嶋田　三那子 フリッツ吉川 綾
科目英名	Animal Behavior			
開講期間	2 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

動物の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。

授業概要

動物行動学の基礎理論に沿い、種の行動様式の特徴を解説する。
その後、行動発達、学習理論、問題行動について解説する。

授業計画

1　動物行動学の基礎①(菅)
2　動物行動学の基礎②(嶋田)
3　動物行動学の基礎③(嶋田)
4　基本的な行動①(菅)
5　基本的な行動②(嶋田)
6　基本的な行動③(菅)
7　基本的な行動④(菅)
8　基本的な行動⑤(菅)
9　基本的な行動⑥(嶋田)
10　学習理論①(菅)
11　学習理論②(嶋田)
12　学習理論③(菅)
13　問題行動①(嶋田)
14　問題行動②(吉川)
15　問題行動③(吉川)

履修上の注意

配付資料は毎回持参すること。

成績評価

期末試験 100%

教科書(授業必携本)／　毎回持参するもの

前回までに配付したプリント　その他は適宜指示します。

事前・事後学修(予習・復習)の内容　／　参考書(自主的な学習用)

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6 巻　動物行動学　愛玩動物学　比較動物学』(エデュワードプレス)

担当教員の実務経験

フリッツ吉川綾:獣医師。犬・猫の心理的ストレスに配慮した診療、問題行動の予防と治療を専門に行う。動物病院勤務の経験を活かし、講義を行う。

授業科目	国試指定科目　動物栄養学		担当教員	杉浦　しおり 落合　直美
科目英名	Animal Nutrition			
開講期間	2 学年　後期　必修 3 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1. 基礎栄養

1)5 大栄養素(糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル)について理解する

2)栄養要求の種差(必須アミノ酸、必須脂肪酸など)について理解する

3)食性、嗜好、嗜好性、摂食行動について理解する

4)健康維持における栄養の持つ意味について理解する

5)栄養素の不足、過剰症について理解する

2. 栄養要求量

1)エネルギー要求量(RER、MER など)の意味と計算法について理解する

2)栄養基準(AAFCO、NRC など)について理解する

3)ライフステージ(成長期、維持期、妊娠期、授乳期、老齢期)ごとの栄養管理について理解する

3. フードと栄養指導

1)ペットフードの種類、分類について理解する

2)ペットフードのラベル表示について理解し、飼い主に説明できる

3)中毒、与えてはいけないものについて飼い主に指導できる

4)栄養状態の評価法(BCS、体脂肪測定など)について理解する

5)肥満の弊害と減量プログラムの作 13 成法について理解する

4. 疾患と栄養

1)さまざまな疾患時の食事療法について理解する

2)療法食の特徴や効果を理解し、飼い主に説明できる

5. 強制給餌と経管・静脈栄養法

1)強制給餌の方法と注意点について理解する

2)経管栄養法の種類(経鼻、食道、胃瘻チューブなど)と特徴、方法について理解する

3)静脈栄養法の種類(TPN、PPN)と 特徴、方法について理解する

4)チューブやカテーテルの設置手順 と管理上の注意点について理解する

授業概要

5 大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。

授業科目	国試指定科目　動物栄養学Ⅰ（基礎）		担当教員	杉浦　しおり
科目英名	Animal Nutrition Ⅰ (Basic)			
開講期間	2 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

愛玩動物看護師の現場実践として、栄養指導ができるようになるために、栄養学の基本的な知識と臨床現場で一般的に用いられる栄養・食事管理の基本的な知識を身につけることを目指す。

授業概要

基本的な栄養素について学び、それぞれの栄養素の特徴をつかむ。次にペットフードの分類、用途、表示の意味を学び、犬と猫の特性を理解した上で、カロリー計算や栄養評価法、ライフステージ別の栄養要求などについて学び、現場に出た際の飼主に対するインフォームドコンセントに活かせる知識を身につける。

授業計画

1　栄養素の種類と機能、炭水化物（働き、構造、消化・吸収など）
2　タンパク質（働き、構造、必須アミノ酸、消化・吸収など）
3　脂肪（働き、構造、必須脂肪酸、消化・吸収など）
4　ビタミン（働き、種類、欠乏症・過剰症など）
5　ミネラル（働き、種類、欠乏症・過剰症など）
6　犬猫の食性、代謝、嗜好性、飲水量
7　禁忌食
8　エネルギー要求量とカロリー計算
9　ライフステージごとの栄養管理
10　ペットフードの歴史、種類、製造方法
11　ペットフードの原料
12　サプリメント
13　ペットフードの法規制、ラベル表示
14　栄養状態の評価方法
15　肥満の弊害と減量プログラム

履修上の注意

√ボタンの付いた電卓を持参する授業回がある（授業中に事前持参指示あり）。
適宜プリントを配布する。次回に続くこともあるので、配布資料は毎回忘れずに持参すること。

成績評価

期末試験（85％）、小テスト（15％）を基に総合的評価をする。

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8 巻　動物栄養学　動物外科看護学　動物医療コミュニケーション』（エデュワードプレス）、配布プリント

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

ヒト、犬、猫に関係なく、身近な食べ物やペットフードの表示を見る癖をつけること。
授業前に教科書を読んでおくこと。授業後は各回の内容を復習すること。

担当教員の実務経験

愛玩動物看護師　師長　動物病院勤務での栄養指導経験を活かし講義を行う。

授業科目	国試指定科目　動物栄養学Ⅱ（臨床）		担当教員	落合　直美
科目英名	Animal NutritionⅡ（Advanced）			
開講期間	3 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

動物看護のスペシャリストとして栄養指導ができるようになるために、栄養学の基礎と臨床現場で一般的に用いられる栄養・食事管理の基本的な知識を身に着けることを目指す。

授業概要

動物栄養学Ⅰで学んだ基礎的な栄養学の知識をもとに、さらに犬猫の栄養について理解を深める。臨床上の疾病と栄養の関係や各種療法食の栄養学的な特徴も含めて学修し、犬猫の臨床における栄養管理の知識を修得する。

授業計画

1　概論 1;6 大栄養素のレビュー、エネルギー要求量と給与量計算
2　概論 2;犬と猫の栄養要求、ライフステージ栄養、市販ペットフードラベル表示
3　疾病と栄養 1;慢性腎臓病（小テスト）
4　疾病と栄養 2-1;尿路結石症（犬）
5　疾病と栄養 2-2;猫下部尿路疾患（尿路結石症と猫特発性膀胱炎）
6　疾病と栄養 3;心血管系疾患（心臓悪液質）（小テスト）
7　疾病と栄養 4;肝疾患
8　非経口栄養管理法;強制給餌（経腸栄養管理法含む）、非経腸栄養管理法（静脈栄養法）
9　疾病と栄養 5;消化器疾患（膵臓の異常も含む）（小テスト）
10　疾病と栄養 6-1;適正体重維持の重要性、BCS、減量
11　疾病と栄養 6-2;過体重による弊害、糖尿病
12　疾病と栄養 7;食物有害反応、食物アレルギー（小テスト）
13　疾病と栄養 8;歯科疾患と歯周病
14　疾病と栄養 9;その他の疾患（がん性悪液質、骨関節炎など）
15　その他（家庭での食餌管理、手作り食の注意点など）、まとめ（小テスト）

履修上の注意

各回プリントを配布する。小テストは Forms で行う。小テストは直近の授業3回分について行う。（計5回）
授業では Forms の他にも電卓機能や検索機能を用いることがあるのでスマートフォン等を持参すること。

成績評価

試験（70%）、小テストを含む授業参加度（30%）を基に総合的評価をする。

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8 巻　動物栄養学　動物外科看護学　動物医療コミュニケーション』（日本動物保健看護系大学協会　カリキュラム委員会編　エデュワードプレス）

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

授業後は各回の内容を復習すること。また、授業内で示した教科書の該当ページを確認・参照しておくこと。

担当教員の実務経験

愛玩動物看護師。動物病院勤務の経験を活かし講義を行う。

授業科目	国試指定科目 比較動物学(野生動物、産業動物、実験動物)		担当教員	村上 隆広 青木 康浩 生越 直仁
科目英名	Comparative Zoology(Wild Animal Science、Farm Animal Science、Laboratory Animal Science)			
開講期間	3 学年 通年 必修	科目区分／形式	専門教育科目 ／ 講義	

到達目標

1. 動物の種類及び特性

1)愛玩動物、産業動物、実験動物、展示動物等の飼養動物と野生動物を比較しながら、その歴史、社会的位置づけ及び特徴について理解する

2. 産業動物

1)家畜(馬・牛・めん羊・山羊・豚・鶏)の歴史と品種、特徴について理解する

2)各家畜の消化器の形態と機能、食性について理解する

3)各家畜の性周期と繁殖生理について理解する

4)各家畜の飼養施設の概要について理解する

5)各家畜の食性と飼養法について理解する

3. 実験動物

1)動物実験の目的、意義について理解する

2)代表的な実験動物の飼養管理、繁殖法について理解する

3)遺伝学的制御、微生物学的制御、環境制御について理解する

4)疾患モデル動物について理解する

4. 野生動物

1)野生動物の分類と生物多様性について理解する

2)鳥獣害の現状と保全の意義について理解する

3)絶滅危惧種の定義と含まれる動物、原因、保全方法について理解する

4)外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策について理解する

5. 展示動物

1)展示動物の意義と動物園等の役割について理解する

2)動物園等における個体・群管理、行動管理について理解する

3)動物園等の施設管理について理解する

授業概要

飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。

授業科目	国試指定科目 比較動物学(野生動物、産業動物、実験動物)		担当教員	村上 隆広 青木 康浩 生越 直仁
科目英名	Comparative Zoology(Wild Animal Science、Farm Animal Science、Laboratory Animal Science)			
開講期間	3学年 通年 必修	科目区分／形式	専門教育科目 ／ 講義	

到達目標

飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。動物看護に必要で、また生活に役立つ情報を得ることを目的とする。

授業概要

1回目～10回目の授業では、野生動物の進化、形態、生態などの生物学的特徴とともに関連する法律や保全の取り組み、人との共生の課題を学修する。11回目～14回目は展示動物、15回目からは、産業動物について各動物種の消化、食性、繁殖にみられる特性や飼養方法などを学ぶ。25回目以降は、実験動物の歴史、代表的な実験動物と飼養管理、動物実験の代替法等について学ぶ。

授業計画

1 野生動物学の基盤となる知識、現場の視点(村上)
2 野生動物の進化、分類と生物多様性(村上)
3 野生動物に関連する法制度、保護区(村上)
4 野生動物の調査法と研究(村上)
5 シカ、カモシカ、イノシシの特徴と問題(村上)
6 キツネ、タヌキ等食肉目の特徴と問題(村上)
7 クマ類、その他野生動物の特徴と問題(村上)
8 人間とのかかわりの深い鳥類・爬虫類の特徴と問題(村上)
9 外来種の概要と対策(村上)
10 絶滅危惧種の概要と保全(村上)
11 展示動物について1
12 展示動物について2
13 展示動物について3
14 展示動物について4
15 産業動物に関する総論(家畜化、畜産業の概要)(青木)
16 乳牛について(青木)
17 肉用牛について(青木)
18 馬について(青木)
19 豚について(青木)
20 めん羊・山羊について(青木)
21 鶏について(青木)
22 産業動物の飼料と飼養管理(青木)
23 産業動物の飼養施設(青木)
24 畜産物(乳・肉・卵など)の生産、加工(青木)
25 実験動物学 総論(生越)
26 実験動物の管理学、系統(生越)
27 代表的な実験動物の特性と飼育管理(1)(生越)
28 代表的な実験動物の特性と飼育管理(2)(生越)
29 代表的な疾患モデル動物の特性と飼育管理(生越)
30 動物代替法と動物実験結果のヒトへの外挿(生越)

履修上の注意
毎回プリントを配布し、それをもとに授業をすすめる。 疑問点やわかりにくかったことがあれば、授業後に質問すること。
成績評価
期末試験 70%、授業参加度 30%
教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの
前回までの資料を持参すること。
事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）
『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　6 巻　動物行動学/愛玩動物学/比較動物学』（エデュワードプレス）
担当教員の実務経験
村上隆広：地方自治体行政担当者として野生動物対策業務に携わったのち、博物館学芸員として野生動物を題材とした教育普及活動をおこなってきた。 青木康浩：農水省所管の研究機関に 30 年勤務した後、母校に教員として戻り、この間産業動物に関する基礎から現地実証にわたる広範囲な研究に従事してきた。 生越直仁：国内製薬会社の研究開発部門に長年従事し、その後も学術部門で OTC 医薬品、化粧品、医薬部外品の有用性に関する研究に従事してきた。

授業科目	国試指定科目　動物看護関連法規		担当教員	鈴木　勝
科目英名	Regulations for Veterinary Nursing			
開講期間	3 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1. 法学総論

1)法の体系について理解する

2)獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する

2. 愛玩動物看護師法

1)愛玩動物看護師法の目的・定義等について理解する(免許、試験、業務、罰則を含む。)

3. 獣医療関連行政法規

1)獣医師法の概要について理解する

2)獣医療法の概要について理解する

4. 公衆衛生行政法規

1)感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要について理解する

2)狂犬病予防法の概要について理解する

5. 薬事行政法規

1)医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の概要について理解する

2)麻薬及び向精神薬取締法の概要について理解する

3)毒物及び劇物取締法の概要について理解する

授業概要

動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。

授業科目	国試指定科目　動物看護関連法規		担当教員	鈴木　勝
科目英名	Regulations for Veterinary Nursing			
開講期間	3 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

学生が卒業後に仕事をするうえで最低限知っておかねばならない法律の知識だけでなく、社会人として活動する上での責任感を持つことを目標とする。

授業概要

様々な法律の背景、必要性、関連性、現在の問題点などを学ぶとともに、難解な法律についてケースを通して理解していく。

授業計画

1　法の体系と専門用語
2　愛玩動物看護師法（免許、試験、業務、罰則）
3　獣医師法
4　獣医療法
5　狂犬病予防法
6　感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律
7　医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律
8　麻薬及び向精神薬取締法、毒物及び劇物取締法

履修上の注意

欠席した授業のプリントがある場合は入手するよう、努力すること。

成績評価

第 1 回から第 8 回までの授業内容について前期の期末試験（100%）で評価（全問題は五肢択一式問題）

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

ノート、ハサミ、のり、筆記用具（カラーペンなど）を毎回持参すること。

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　5 巻　公衆衛生学／動物看護関連法規／動物愛護・適正飼養関連法規』（エデュワードプレス）授業後には、授業で指摘した大事なポイントを必ず復習すること。

担当教員の実務経験

授業科目	国試指定科目 動物愛護・適正飼養関連法規		担当教員	小島　香代子
科目英名	Regulations for Animal Welfare and Proper Care			
開講期間	3 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目 ／ 講義	

到達目標

1．愛護・適正飼養の基本となる概念

1)愛護・適正飼養に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する

2．愛護・適正飼養関連行政法規

1)動物の愛護及び管理に関する法律の概要について理解する

2)愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律の概要について理解する

3．社会福祉行政・環境衛生法規

1)身体障害者補助犬法について概要を理解する

2)廃棄物の処理及び清掃に関する法律の概要について理解する

3)化製場等に関する法律の概要について理解する

4．野生動物等に関する法律及び条約

1)生物多様性の概要について理解する

2)特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の概要について理解する

3)絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約の概要について理解する

4)絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の概要について理解する

5)鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律の概要について理解する

6)特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約の概要について理解する

7)自然公園法における野生動植物保護に関する制度を理解する

8)文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度を理解する

授業概要

動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。

授業科目	国試指定科目　動物愛護・適正飼養関連法規		担当教員	小島　香代子
科目英名	Regulations for Animal Welfare and Proper Care			
開講期間	3 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1. 動物愛護・適正飼養に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する
2. 動物の愛護及び管理に関する法律の概要について理解する
3. 愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律の概要について理解する
4. 身体障害者補助犬法について概要を理解する
5. 廃棄物の処理及び清掃に関する法律、化製場等に関する法律の概要について理解する
6. 生物多様性の概要について理解する
7. 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の概要について理解する
8. 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約の概要について理解する
9. 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の概要について理解する
10. 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律の概要について理解する
11. 特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約の概要について理解する
12. 自然公園法における野生動植物保護に関する制度を理解する
13. 文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度を理解する

授業概要

動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学ぶ。動物愛護の普及啓発や適正な飼養管理、また野生動物の保護や取扱いは、法律や条約などの法規に基づいて行われている。現在、人と愛玩動物・野生動物の間に起きている諸問題を取り上げ、人と動物、自然環境がよりよい状態であるために、動物や自然とどう向き合うか考察する。愛玩動物看護師として動物と関わる時に必要な法規を理解し、職場や地域で活躍できるよう見識を深める。

授業計画

1　オリエンテーション　動物愛護・動物福祉・動物の権利とは
2　動物の愛護及び管理に関する法律①
3　動物の愛護及び管理に関する法律②
4　身体障害者補助犬法、 愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律
5　野生動物に関連する法律
6　環境衛生に関連する法律
7　犬猫問題を考える
8　振り返りとまとめ　動物愛護・動物福祉の普及啓発

履修上の注意

授業で配布した資料は、毎回持参すること。

成績評価

授業への参加度（出席及び授業への関心・意欲・態度）40%、課題および定期試験 60%として総合的に評価する。

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　5 巻　公衆衛生学/動物看護関連法規/動物愛護・適正飼養関連法規』（エデュワードプレス）

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

事前学修：次回の授業内容について、情報収集し、自分なりの予測を立て、考えを持っておくこと。
事後学修：授業内容を振り返り、課題を提出すること。

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

「いぬねこサロンジュン」経営。グルーマー。犬猫の被毛ケア・健康管理の実務経験と犬猫保護活動の経験を活かし、動物の適正飼養や動物愛護・動物福祉、ペットの災害対策について講義する。

授業科目	国試指定科目　動物看護学概論		担当教員	井上　留美
科目英名	Introduction to Veterinary Nursing			
開講期間	1 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1．動物看護の基本となる概念

1）動物看護の目的、概念について理解する

2）獣医療と動物看護の歴史について理解する

3）獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領について理解する

4）動物にとっての健康、福祉、QOL について理解する

5）動物病院における愛玩動物看護師の役割について理解する

2．動物看護の提供体制

1）社会における動物病院の役割について理解する

2）一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携について理解する

3）インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務について理解する

4）診療録（カルテ）と動物看護記録の作成、保存義務について理解する

5）職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法について理解する

3．愛玩動物看護師の社会的立場

1）愛玩動物看護師の職能団体について理解する

2）愛玩動物看護師の資格制度と業務範囲、資格認定機関について理解する

3）愛玩動物看護師に関するその他の 代表的な組織・団体について理解する

4）国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて理解する

授業概要

獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。

授業科目	国試指定科目　動物看護学概論		担当教員	井上　留美
科目英名	Introduction to Veterinary Nursing			
開講期間	1学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1．動物看護の基本となる概念
1)動物看護の目的、概念について理解する
2)獣医療と動物看護の歴史について理解する
3)獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領について理解する
4)動物にとっての健康、福祉、QOL について理解する
5)動物病院における愛玩動物看護師の役割について理解する
2．動物看護の提供体制
1)社会における動物病院の役割について理解する
2)一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携について理解する
3)インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務について理解する
4)診療録(カルテ)と動物看護記録の作成、保存義務について理解する
5)職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法について理解する
3．愛玩動物看護師の社会的立場
1)愛玩動物看護師の職能団体について理解する
2)愛玩動物看護師の資格制度と業務範囲、資格認定機関について理解する
3)愛玩動物看護師に関するその他の代表的な組織・団体について理解する
4)国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて理解する

授業概要

獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。

授業計画

1　授業ガイダンス
2　動物看護の目的、概念
3　動物医療と動物看護の歴史
4　獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領
5　動物看護の対象、健康、福祉、QOL
6　愛玩動物看護師の役割
7　動物病院の役割
8　一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携
9　インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務
10　診療録(カルテ)と動物看護記録の作成、保存義務
11　労働安全衛生、危険の防止・対処法
12　職能団体について
13　資格制度と業務範囲、資格認定機関
14　代表的な組織・団体について
15　国際的な動物看護師の業務や資格制度の違い

履修上の注意

授業計画の内容と順番は前後する場合がある。

成績評価
授業参加度 50%、期末試験 50%
教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの
『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 4 巻』（持参しなくてよい。自宅にて該当箇所を読むこと。） 配布プリント
事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）
授業前に教科書を読んでおくこと。授業後は各回の内容を復習すること。
担当教員の実務経験
愛玩動物看護師として動物病院で勤務。

授業科目	国試指定科目　動物病理学		担当教員	生越　直仁
科目英名	Veterinary Pathology			
開講期間	2 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1. 動物病理学の基礎
1)病理解剖と病理組織学的検査の目的、意義について理解する
2)病理組織標本の作製法について理解する
3)病理組織学的検査の実施手順について理解する
2. 細胞や組織に生じる変化
1)変性と物質沈着について理解する
2)壊死とアポトーシスについて理解する
3)細胞増殖のメカニズム、再生と化生について理解する
4)過形成と肥大について理解する
5)低形成と萎縮について理解する
3. 循環障害
1)充血とうっ血について理解する
2)出血の原因と病態について理解する
3)血栓の成因について理解する
4)虚血と梗塞について理解する
5)浮腫と水腫について理解する
6)ショックの原因と分類、病態について理解する
7)播種性血管内凝固(DIC)の病態について理解する
4. 炎症
1)炎症の定義と 5 大主徴について理解する
2)炎症の分類と原因と特徴について理解する
3)炎症に関与する細胞と化学伝達物質について理解する
4)炎症の経過と治癒について理解する
5. 腫瘍
1)腫瘍の定義と分類について理解する
2)腫瘍の原因と発生機序について理解する
3)腫瘍と宿主の関係について理解する
4)腫瘍の転移と進行について理解する
6. 先天異常
1)遺伝子・染色体異常について理解する
2)発生異常と奇形について理解する

授業概要

様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。

授業科目	国試指定科目　動物病理学		担当教員	生越　直仁
科目英名	Veterinary Pathology			
開講期間	2 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

動物が疾病に罹患した時の臓器・組織・細胞の病変部を肉眼的・顕微鏡的に把握して看護に生かす。

授業概要

パワーポイントを使用。病変部の写真を多く見る。

授業計画

1　動物病理学の基礎（検査技術）
2　動物病理学の基礎（病因）
3　障害と細胞死（代謝障害と変性）
4　障害と細胞死（委縮・壊死・アポトーシス）
5　細胞・組織の修復と再生（細胞増殖）
6　細胞・組織の修復と再生（修復と再生）
7　循環障害（血液の循環）
8　循環障害（組織液の循環）
9　炎症（炎症の基礎）
10　炎症（急性炎症と慢性炎症）
11　腫瘍（上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍）
12　腫瘍（腫瘍の発生メカニズム）
13　先天異常（遺伝子・染色体異常）
14　先天異常（奇形の発生様式）
15　総まとめ

履修上の注意

授業内容をもとにクイズを出題するので、しっかり聴講すること。

成績評価

定期試験（70％）及び授業参加度（30％）を踏まえて総合的に評価する。

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　2 巻　動物病理学／動物薬理学』（エデュワードプレス）

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

各回で示された授業内容をよく復習すること。

担当教員の実務経験

授業科目	国試指定科目　動物薬理学		担当教員	山本　真紀
科目英名	Veterinary Pharmacology			
開講期間	2 学年　前期　必修 3 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1. 動物薬理学の基礎

1)獣医臨床における薬物治療の概念と目的について理解する

2)薬理作用とその発現機構について理解する

3)薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)と半減期、耐性について理解する

4)薬物間相互作用について理解する

5)副作用と中毒について理解する

2. 愛玩動物看護師による薬物の取扱い

1)獣医師による投薬量計算について理解する

2)各種投薬法(投与経路)を理解し、自宅での投薬を飼い主に指導できる

3)薬物の適切な管理方法について理解する

3. 神経系に作用する薬物

1)全身麻酔薬と局所麻酔薬について理解する

2)鎮痛薬について理解する

3)運動神経系に作用する薬について理解する

4)鎮静薬と抗けいれん薬について理解する

5)問題行動の治療に用いられる薬について理解する

4. 呼吸器系に作用する薬物

1)呼吸興奮薬について理解する

2)鎮咳薬について理解する

3)気管支拡張薬について理解する

5. 循環器・泌尿器に作用する薬物

1)血管拡張薬(降圧薬)について理解する

2)心不全治療薬(強心薬)について理解する

3)抗不整脈薬について理解する

4)利尿薬について理解する

6. 消化器に作用する薬物

1)制吐薬について理解する

2)制酸薬と胃粘膜保護薬について理解する

3)消化管運動調節薬について理解する

4)止瀉薬について理解する

5)瀉下薬について理解する

6)肝疾患の治療に用いられる薬物について理解する

7)膵酵素製剤について理解する

7. オータコイド、代謝・内分泌系の薬物

1)代表的なオータコイドについて理解する

2)糖尿病治療薬について理解する

3)甲状腺ホルモン製剤について理解する

4)ステロイドホルモン製剤について理解する

8. 血液・免疫系に作用する薬物

1)抗貧血薬について理解する

2)血液凝固抑制薬について理解する

3)血液凝固促進薬(止血薬)について理解する

4)非ステロイド系抗炎症薬(NSAIDs)について理解する

5)免疫抑制薬について理解する

9. 感染症の治療、予防に用いられる薬物

1)抗菌薬について理解する(作用機序による分類、抗菌スペクトルなど)

2)抗真菌薬について理解する

3)駆虫薬について理解する

4)殺虫薬について理解する

5)消毒薬について理解する

10. 悪性腫瘍の治療に用いられる薬物

1)抗悪性腫瘍薬について理解する(作用機序による分類)

授業概要

代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。

授業科目	国試指定科目　動物薬理学Ⅰ（基礎）		担当教員	山本　真紀
科目英名	Veterinary Pharmacology Ⅰ（Basic）			
開講期間	2 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

現代の動物医療において、薬物治療の占める割合は非常に大きい。動物診療に携わる動物看護師に必要な、医薬品の薬理作用や体内動態、副作用や毒性、薬物漏出の危険性等の知識を習得し、臨床現場で対応できるようになることを目標とする

授業概要

動物臨床で遭遇しやすい疾患に使用される薬について投与目的や効果に加え、副作用やアレルギーの観察等愛玩動物看護師に必要な知識を講義する。

授業計画

1　動物薬理学の基礎①
2　動物薬理学の基礎②
3　動物薬理学の基礎③
4　動物薬理学の基礎④
5　動物薬理学の基礎⑤
6　動物薬理学の基礎⑥
7　神経系に作用する薬①（1. 神経系の基本的事項）
8　神経系に作用する薬②（1. 神経系の基本的事項）
9　神経系に作用する薬③（2. 全身麻酔薬、3. 局所麻酔薬）
10　神経系に作用する薬④（4. 鎮痛薬、5. 骨格筋弛緩薬、6. 鎮静薬、抗痙攣薬、7. 問題行動治療薬）
11　呼吸器系に作用する薬
12　循環器・泌尿器に作用する薬物①（1. 血管拡張薬、2. 心不全治療薬）
13　循環器・泌尿器に作用する薬物②（3. 抗不整脈薬）
14　循環器・泌尿器に作用する薬物③（4. 利尿薬、5. 抗利尿薬）
15　動物薬理学Ⅰのふり返り

履修上の注意

授業の内容・進度により授業計画の内容は前後、または変更することがある。
適宜プリントを配布する。次回に続くこともあるので配布資料は毎回忘れずに持参すること。
普段から、自分が薬局で購入したり病院で処方されたりする薬の名称や成分に留意すること。

成績評価

期末試験 80%、授業参加度 20%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　2 巻　動物薬理学』（エデュワードプレス）

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

参考書は初回の講義で紹介する。

担当教員の実務経験

獣医師として大学病院や動物病院で長年臨床に携わっている経験を活かし、国家試験でも臨床現場でも役に立つ講義を行う。

授業科目	国試指定科目　動物薬理学Ⅱ（応用）		担当教員	山本　真紀
科目英名	Veterinary Pharmacology Ⅱ (Advanced)			
開講期間	3 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

現代の動物医療において、薬物治療の占める割合は非常に大きい。動物診療に携わる動物看護師に必要な、代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用の知識を習得し、臨床現場で対応できるようになることを目標とする。

授業概要

動物臨床で遭遇しやすい疾患に使用される薬について投与目的や効果に加え、副作用やアレルギーの観察等愛玩動物看護師に必要な知識を講義する。

授業計画

1　消化器に作用する薬①（1. 制吐薬と催吐薬、2. 抗潰瘍薬）
2　消化器に作用する薬②（3. 消化管運動促進薬および抑制薬）
3　消化器に作用する薬③（4. 止瀉薬、5. 瀉下薬、5. 管・膵疾患の治療薬）
4　オータコイド
5　内分泌・代謝系の薬①　（2. 抗炎症薬、3. 糖尿病治療薬）
6　内分泌・代謝系の薬②　（4. 甲状腺機能障害の治療薬、5. 脂質代謝異常の治療薬、6. 骨代謝異常の治療薬）
7　血液に作用する薬
8　免疫系に作用する薬
9　化学療法薬①（1. 抗腫瘍薬）
10　化学療法薬②（2. 抗菌薬・抗真菌薬）
11　化学療法薬③（3. 駆虫薬・抗原中薬）
12　化学療法薬④（4. 殺虫薬）
13　化学療法薬⑤（5. 消毒薬）
14　薬用量計算
15　まとめの問題

履修上の注意

普段から、自分が薬局で購入したり病院で処方されたりする薬の名称や成分に留意すること。
適宜プリントを配布する。次回に続くこともあるので配布資料は毎回忘れずに持参すること。

成績評価

期末試験（80％）と授業参加度（20％）

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　2 巻　動物病理学　動物薬理学』（エデュワードプレス）
配布プリント

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

『愛玩動物看護師国家試験対策　楽しく学べる参考書』（エデュワードプレス）

担当教員の実務経験

獣医師として大学病院や動物病院で長年臨床に携わってきている経験を活かし、国家試験でも臨床現場でも役に立つ講義を行う。

授業科目	国試指定科目　動物感染症学		担当教員	太田　慶一 池田　純子 橋本　直子
科目英名	Veterinary Infectious Diseases			
開講期間	1学年　後期　必修 2学年　前期　必修 3学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1. 微生物の分類と特徴

1)細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する

2)ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する

3)真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する

2. 微生物検査

1)検体採取と取扱いについて理解する

2)無菌環境下での必要な手技について理解する

3)微生物染色法、顕微鏡による観察法について理解する

4)微生物培養法について理解する

5)抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法(PCR検査含む。)について理解する

6)薬剤感受性試験について理解する

3. 寄生虫の分類と特徴

1)原虫の分類、形態、生活環及び病原性について理解する

2)蠕虫(吸虫、条虫、線虫)の分類、形態、生活環及び病原性について理解する

3)衛生動物(ダニ、ノミなど)の分類、形態、生活環及び病原性について理解する

4)寄生虫疾患の検査、診断法について理解する

5)駆虫薬や駆除剤の使用法について理解する

4. 動物感染症

1)病原体の感染経路と伝播様式について理解する

2)感染症の成立要因について理解する

3)主な感染症(動物臨床看護学各論の 3.代表的な疾患を参照)の症状、治療法、予防法について理解する

4)消毒、滅菌法について理解する

5)院内感染の予防対策について理解する

5. 免疫学の基礎と応用

1)免疫担当細胞とその役割について理解する

2)自然免疫と獲得免疫について理解する

3)液性免疫と細胞性免疫について理解する

4)アレルギー(Ⅰ～Ⅴ型)と自己免疫疾患について理解する

5)ワクチンの原理と種類、接種プログラムについて理解する

授業概要

微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。 感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。

授業科目	国試指定科目　動物感染症学Ⅰ（免疫学）		担当教員	太田　慶一
科目英名	Veterinary Infectious Diseases Ⅰ (Immunology)			
開講期間	1 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

感染症への対応策、がんや自己免疫疾患、加齢に伴う免疫機能低下など、様々な病気の予防策や治療法と深いかかわりのある免疫機構を理解することを目標とする。

授業概要

動物医療水準が高度化し、疾病構造が大きく変化した現在、免疫学の必要性が高まっている。そこで、免疫の基本的な仕組みに入る前に、前提となる血液についての講義を行ってから、免疫の基本的な仕組みを講義する。その後、愛玩動物看護師のみならず動物関連の職業に就いた際に遭遇することの多い、免疫がかかわる疾患やワクチンについて講義する。

授業計画

1　イントロダクション
2　免疫のための血液学 1（血液の働き、白血球について）
3　免疫のための血液学 2（赤血球、血小板について）
4　免疫とは
5　免疫のしくみ 1（免疫の全体像）
6　免疫のしくみ 2（自然免疫とサイトカイン、補体）
7　免疫のしくみ 3（獲得免疫）
8　免疫のしくみ　総復習
9　免疫の低下による病気 1（免疫不全）
10　免疫の低下による病気 2（がん）
11　免疫の異常反応 1（アレルギー）
12　免疫の異常反応 2（自己免疫疾患）
13　移植免疫、輸血
14　免疫と医療（ワクチンを中心に）
15　免疫学の疑問を解決！

履修上の注意

毎回、確認テスト（提出は任意）を行う。また、15 回目の授業では、免疫に関するトピックを取り上げ、免疫学で学んだ知識の活用を試みる。まずは自分自身が理解できていないことはないかどうか明確にし、講義内容の習得に努力すること。

成績評価

期末試験 100%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

プリントを配布するため毎回持参すること。
『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1 巻、3 巻』（持参しなくてよい。講義後、自宅にて該当箇所を読むこと。）

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

講義後は必ず各回の内容を復習し、次回の授業までに理解しておくか、疑問点を明確にして質問するなど、講義内容の習得に努力すること。第 1 回目に免疫学チェック問題を配布するので、予習・復習に活用するとよい。確認問題で間違えた個所は、習得するまでしっかりと復習すること。参考図書については、第 1 回の講義で紹介する。

担当教員の実務経験

博士（医学）

授業科目	国試指定科目　動物感染症学Ⅱ（微生物学）		担当教員	池田　純子
科目英名	Veterinary Infectious DiseasesⅡ(Microbiology)			
開講期間	2学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

動物やヒトの日常の環境に存在する多種多様な微生物の存在を知り、その特性や増殖条件を理解し、動物看護の現場で必要な感染予防、治療の知識を身につける。

授業概要

生物界で、微生物と呼ばれるものの種類、存在意義、特に動物やヒトの生命活動に関わる微生物（常在菌・病原菌微生物）の性質や発育増殖の様式を学ぶ。

授業計画

1　微生物学と動物看護　（何を学ぶか、何故それが必要か）
2　微生物とは　（扱う微生物の分類）
3　微生物の居場所①　（日常環境での存在）
4　微生物の居場所②　（動物体と共生）
5　細菌について①
6　細菌について②
7　細菌について③
8　ウイルスについて①
9　ウイルスについて②
10　ウイルスについて③
11　真菌について①
12　真菌について②
13　原虫類について①
14　蠕虫類について①
15　補・場合により小テスト

履修上の注意

ノート提出をしてもらうので、欠席やノートがとれなかった場合は、必ず後日補うこと。

成績評価

期末試験（場合により最終授業の際の小テスト）　60%
提出ノート　40%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　3巻　動物感染症学』（エデュワードプレス）
自分のノート（ルーズリーフ可）

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

ズーノーシスハンドブック（メディカルサイエンス社）
授業ノートは必ず見かえし、不明、不足がないか確認し、次回に質問すること。

担当教員の実務経験

授業科目	国試指定科目　動物感染症学Ⅲ（感染症学）		担当教員	橋本　直子
科目英名	Veterinary Infectious DiseasesⅢ			
開講期間	3 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

感染症は現在も多くの動物たちにとって脅威となっており、さらに動物病院スタッフや飼主にも感染が及ぶ場合もある。感染症について正しい知識を持ち、正しく恐れ、正しく対応できるようになることを目標とする。

授業概要

感染症の伝播様式や発病のメカニズム、検査方法、院内での衛生管理、治療に用いられる薬剤等について学ぶ。

授業計画

1　微生物・微生物学的検査復習
2　感染症・感染症治療に用いられる薬剤
3　免疫復習
4　産業動物の感染症 1
5　産業動物の感染症 2
6　イヌ・ネコのウイルス感染症 1
7　イヌ・ネコのウイルス感染症 2
8　イヌ・ネコのウイルス感染症 3
9　イヌ・ネコの細菌感染症1
10　ワクチネーション
11　イヌ・ネコの真菌感染症
12　イヌ・ネコの寄生虫症 1
13　イヌ・ネコの寄生虫症 2
14　イヌ・ネコの寄生虫症 3
15　院内感染予防

履修上の注意

毎回、Forms で小テストを実施するためスマートフォン等を必ず持参すること。

成績評価

期末試験 70%、小テスト 30%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 3 巻　動物感染症学』
毎回プリントを配布する。

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

授業前に教科書を読んでおくこと。授業後は各回の内容を復習すること。

担当教員の実務経験

授業科目	国試指定科目　公衆衛生学		担当教員	山田　文也 橋本　直子
科目英名	Public Health			
開講期間	2 学年　後期　必修 3 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1．公衆衛生の概要

1）公衆衛生の目的について理解する

2）公衆衛生行政について理解する

3）国民衛生の動向について理解する

4）One Health と獣医療の関係について理解する

2．疫学と疾病予防

1）感染の成立について理解する

2）疾病・健康障害の発生要因について理解する

3）疫学調査法について理解する

4）予防疫学について理解する

5）人獣共通感染症とその対策について理解する

6）狂犬病予防について理解する

3．環境衛生

1）環境衛生について、歴史、背景、現在の問題点について理解する

2）化学物質によってもたらされる健康障害について理解する

3）放射線による汚染と障害について理解する

4）衛生動物による人や動物への被害と対策について理解する

5）動物の咬傷による人への健康障害について理解する

6）廃棄物の取扱いについて理解する

4．食品衛生

1）食品衛生と食中毒について理解する

2）動物性食品の衛生について理解する

3）食品衛生管理手法（HACCP など）について理解する

授業概要

環境及び食品　衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。

授業科目	国試指定科目　公衆衛生学Ⅰ		担当教員	山田　文也
科目英名	Public Health Ⅰ			
開講期間	2 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

学生が、One world, one health という考えを深く理解するとともに、動物看護の専門家として、学問領域を超えた安全、安心について説明責任を果たすために必要な公衆衛生学的知識の取得を目標とする。

授業概要

国民衛生の動向と通したわが国の公衆衛生の現状を理解する。

疫学による疾病流行の観察、食品衛生及び環境衛生について学び、人と動物の共通の健康、疾病予防について理解を深める。

授業計画

1　動物看護師と公衆衛生Ⅰ（社会と健康、健康づくりと健康管理）
2　動物看護師と公衆衛生Ⅱ（国民衛生の動向、人口動態統計・人口静態統計）
3　疫学Ⅰ（疾病頻度の測定、発生率、罹患率、死亡率、生存率、致死率）
4　疫学Ⅱ（疫学研究方法①、観察研究）
5　疫学Ⅲ（疫学研究方法②、介入研究）
6　食品衛生Ⅰ（食中毒の発生要因とその動向）
7　食品衛生Ⅱ（細菌性症中毒）
8　食品衛生Ⅲ（ウイルス性食中毒）
9　食品衛生Ⅳ（真菌性食中毒、自然毒による食中毒、化学性食中毒）
10　食品衛生Ⅴ（食品の安全性確保と HACCP による衛生管理）
11　食品衛生Ⅵ（食品表示による衛生管理、添加物、アレルギー、機能性表示）
12　環境と健康Ⅰ（生活環境、空気、温熱、水質）
13　環境と健康Ⅱ（公害と廃棄物）
14　環境衛生Ⅲ（地球環境問題と SDGs）
15　公衆衛生学のまとめ(公衆衛生と倫理)

履修上の注意

複数回の講義分の参考資料を適時配布する。講義への教科書の持参は必ずしも必要としない。

成績評価

授業参加度 15%、筆記試験 85%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　5 巻　公衆衛生学/動物看護関連法規/動物愛護・適正飼養関連法規』（エデュワードプレス）

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

教科書は一度通読すること。講義後は各回の内容を復習すること。

担当教員の実務経験

衛生行政に従事した経験を活かし、公衆衛生活動について実務経験に基づいた講義を行う。

授業科目	国試指定科目 公衆衛生学Ⅱ（ヒトと動物の共通感染症）		担当教員	橋本　直子
科目英名	Public HealthⅡ(Zoonosis)			
開講期間	3 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

愛玩動物看護師として、自分自身を守ることはもちろん、動物、飼い主、社会を守る必要がある。そのためには予防が重要となるが、そのための知識を深めることを目標とする。

授業概要

ヒトの感染症の約 60%が動物由来といわれている。感染症が他の疾患と異なるのは伝染することにより、患者だけでなく社会に与える影響が大きいことである。日本は島国であるため病原体の侵入の危険性が低いとの捉え方もあるが、交通や多くの動物が輸入されている現状では、いつ病原体が侵入しても不思議ではない。

そのためヒトと動物の共通感染症とは何かを理解し、発生状況や動物の輸出入の方法などから社会としてどのような対策を講じるかを学ぶ。

授業計画

1　ヒトと動物の共通感染症総論
2　感染の成立、バイオハザード・バイオセーフティ
3　動物の輸出入と個体識別
4　狂犬病・リッサウイルス感染症
5　狂犬病
6　人獣共通寄生虫症 1
7　人獣共通寄生虫症 2
8　節足動物媒介感染症 1
9　節足動物媒介感染症 2
10　食品が関係する人獣共通感染症
11　野生動物・産業動物が関係する人獣共通感染症
12　人獣共通真菌症
13　コンパニオンアニマルから感染する人獣共通感染症 1
14　コンパニオンアニマルから感染する人獣共通感染症 2
15　世界で問題となっている人獣共通感染症

履修上の注意

毎回、Forms で小テストを実施するためスマートフォン等を必ず持参すること。

成績評価

期末試験 50%、小テスト 25%、課題 25%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　5 巻　公衆衛生学/動物看護関連法規/動物愛護・適正飼養関連法規』（エデュワードプレス）

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

事前に教科書を読んでおくこと、毎回出される課題に取り組むこと

参考書『ズーノーシスハンドブック』メディカルサイエンス社

担当教員の実務経験

授業科目	国試指定科目　動物内科看護学		担当教員	橋本　直子/藤波　由香/竹尾　恵 梅田　麻実/八田　彩 菅尾　玲奈/渡辺　彩希
科目英名	Veterinery Medical Nursing			
開講期間	1学年　通年　必修 2学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1. 健康の保持・増進

1)健康診断の内容と目的について理解する

2. 診療補助に必要な技術

1)診察における愛玩動物看護師の役割について理解する

2)診察室の準備と衛生管理について理解する

3)動物種ごとの適切な接し方について理解する

4)保定の基本的な原理、目的、方法について理解する

5)身体検査・アセスメント項目(体重、体温、脈拍、呼吸、意識レベル、粘膜色、股動脈圧、毛細血管再充満時間(CRT)、浅在リンパ節など)について理解する

3. 検査・処置に必要な技術

1)注射器の取扱い及び管理方法について理解する

2)採血の目的と方法について理解する

3)採尿の目的と方法(穿刺、カテーテル導尿など)について理解する

4)穿刺と吸引について理解する

5)各種カテーテル挿入について理解する

6)酸素吸入について理解する

7)マイクロチップの挿入について理解する

4. 投薬に関わる技術

1)薬の処方について理解する

2)内服薬の使用法について理解する

3)薬剤の注射法について理解する

4)外用薬の使用法、薬浴の実施法について理解する

5)投薬前後の注意事項について理解する

5. 輸液に関わる技術

1)輸液の適応とリスクについて理解する

2)輸液計画について理解する

3)各種輸液剤の特性や適応について理解する

4)輸液中のモニタリングについて理解する

6. 輸血に関わる技術

1)輸血の適応とリスクについて理解する

2)輸血計画について理解する

3)クロスマッチ試験と血液型について理解する

4)各種輸血製剤の適応や特性について理解する

5)輸血に関わる手技について理解する

6)輸血による副反応について理解する

7. 心電図と血圧に関わる技術

1)心電図検査の目的と意義について理解する

2)心電図検査の実施方法について理解する

3)血圧測定の方法と意義、注意点について理解する
8.X線検査とCT/MRIに関わる技術
1)X線検査の目的と意義について理解する
2)放射線防護について理解する
3)X線検査の実施方法と撮影体位について理解する
4)造影検査と透視検査について理解する
5)フイルムの現像とデジタルX線撮影について理解する
6)CT及びMRIの概要について理解する
9. 超音波検査に関わる技術
1)超音波検査の目的と実施方法、保定体位について理解する
2)Bモード、Mモード、ドップラー法について理解する
10. 内視鏡検査に関わる技術
1)内視鏡検査の目的と意義について理解する
2)内視鏡検査の実施方法、準備事項について理解する
3)スコープの洗浄・消毒法について理解する
11. 神経学的検査に関わる技術
1)姿勢反応と脊髄反射について理解する
2)脳神経の検査法について理解する
3)神経学的検査の評価記録法について理解する
12. 眼科検査に関わる技術
1)シルマー試験、フルオレセイン試験の方法と意義について理解する
2)眼圧測定の方法と意義について理解する
3)眼底検査の方法と意義について理解する
13. 皮膚と耳の検査に関わる技術
1)皮膚病変の観察と記録法について理解する
2)皮膚掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査、皮膚生検について理解する
3)ウッド灯検査と真菌培養法について理解する
4)外耳道の検査方法と意義について理解する

授業概要

内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。

授業科目	国試指定科目　動物内科看護学Ⅰ（基礎）		担当教員	橋本　直子/藤波　由香/竹尾　恵 梅田　麻実/八田　彩 菅尾　玲奈/渡辺　彩希
科目英名	Veterinery Medical Nursing I (Basic)			
開講期間	1学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目／　講義	

到達目標

実習科目「動物内科看護学実習」と並行して実施し、動物看護を学ぶ上で必要な基礎的な知識と技術理論を総括的に修得することを目標とする。

授業概要

犬の健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、犬の扱い方、外貌、保定法、一般身体検査、投薬法、注射などについて理解する。

授業計画

1　オリエンテーション：愛玩動物看護師の仕事、動物内科看護学と動物内科看護学実習について
2　消毒法、消毒薬の希釈
3　簡単な保定：保定の目的、立位、座位、横臥位などの基本的な保定、口輪やエリザベスカラーを用いた保定
4　一般身体検査　望診、バイタルサイン（体温、脈拍、呼吸、血圧）
5　一般身体検査　頭部、眼、鼻
6　一般身体検査　口腔内、歯、可視粘膜（CRT）
7　注射：シリンジ、注射針、バイアル、アンプルの扱い方
8　薬用量計算：注射・調剤の補助に関わる薬用量計算
9　一般身体検査　体幹、四肢、歩様
10　一般身体検査　ヘルニア、外部生殖器、肛門周囲
11　一般身体検査　リンパ節、皮膚、脱水
12　一般身体検査　聴診、打診、触診
13　投薬法：投薬方法や注意点
14　調剤の補助：調剤器具や略語・調剤補助の流れ
15　診察時の保定：注射、採血時の保定

履修上の注意

実習科目「動物内科看護学実習」と並行して実施する科目である。
授業の順番は動物内科看護学実習にあわせて前後することがある。
成績評価は出席と各回の課題提出により行うが、課題については提出期限厳守のこと。提出期限内に課題提出がない場合は評価しない。授業中の態度※1も評価に含み、場合により欠席とすることもある。
※1授業中の態度…他の科目や授業とは関係のない課題を行う、スマートフォンの操作などをする、私語などにより授業の妨げになる行為をする、寝ていて授業に参加していない等

成績評価

出席及び課題提出：100％（出席し、かつ課題提出をもって評価する）

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

動物内科看護学Ⅰ（基礎）および動物内科看護学実習での配布資料やノート等

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

動物内科看護学実習で学習した内容も併せて復習すること
参考書：『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書７巻　動物内科看護学　動物臨床検査学』（エデュワードプレス）
『新・小動物看護用語辞典』（エデュワードプレス）

担当教員の実務経験

八田彩：愛玩動物看護師。動物病院勤務の経験を活かし講義を行う。

授業科目	国試指定科目　動物内科看護学Ⅱ（応用）		担当教員	橋本　直子/藤波　由香/竹尾　恵 梅田　麻実/八田　彩 菅尾　玲奈/渡辺　彩希
科目英名	Veterinery Medical NursingⅡ（Advance）			
開講期間	2 学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目／　講義	

到達目標

実習科目「動物応用看護学実習」と並行して行い、1 年次講義科目「動物内科看護学Ⅰ（基礎）」および実習科目「動物内科看護学実習」を基礎とした動物看護に必要な実践的な知識の修得を目標とする。

授業概要

内科診療の補助に関する必要な知識を学び、輸液、輸血、各種生体検査、犬のほか猫やエキゾチックアニマルの扱い方と保定法、入院中、在宅での看護で必要な酸素吸入、強制給餌などについて学ぶ。

授業計画

1　輸液 1 （輸液とは、適応とリスク、輸液剤）
2　輸液 2 （静脈確保、保定）
3　輸液 3 （輸液の準備、輸液ポンプ）
4　輸液 4 （自然落下法と計算）
5　輸液 5 （シリンジポンプ、三方活栓）
6　輸液 6 （輸液中の管理）
7　X 線検査
8　心電図検査・血圧測定
9　超音波検査
10　内視鏡検査
11　CT・MRI 検査
12　輸血
13　消毒薬
14　猫の扱い方、保定法
15　復習試験 1
16　エキゾチックアニマルの扱い方、保定法 1
17　エキゾチックアニマルの扱い方、保定法 2
18　採血、採尿法
19　眼・耳の検査
20　皮膚検査
21　皮膚疾患の看護：スキンケア、薬用シャンプー
22　栄養学 1 （ペットフード）
23　栄養学 2 （療法食）
24　強制給餌
25　老齢動物の看護（ハイシニア）
26　動物看護過程
27　神経学的検査 1
28　神経学的検査 2
29　リハビリテーション
30　復習試験 2

履修上の注意
実習科目「動物応用看護学実習」と並行して実施する科目である。 授業の順番は動物内科看護学実習にあわせて前後することがある。 授業中の態度※1も評価に含み、場合により欠席とすることもある。 ※1授業中の態度…他の科目や授業とは関係のない課題を行う、スマートフォンの操作などをする、私語などにより授業の妨げになる行為をする、寝ていて授業に参加していない等
成績評価
復習試験：90％、課題提出・小テスト等：10％
教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの
動物内科看護学Ⅱ（応用）および動物応用看護実習での配布資料やノート等
事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）
参考書：『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書７巻　動物内科看護学　動物臨床検査学』（エデュワードプレス） 『カラーアトラス　エキゾチックアニマル哺乳類編　第３版』（緑書房） 『新・小動物看護用語辞典』（エデュワードプレス）
担当教員の実務経験
八田彩：愛玩動物看護師。動物病院勤務の経験を活かし講義を行う。

授業科目	国試指定科目　動物外科看護学		担当教員	廣嶋　実 武藤　眞／伊藤　みどり
科目英名	Veterinary Surgical Nursing			
開講期間	2 学年　通年　必修 3 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1. 外傷、創傷管理

1)創傷の種類と治癒過程と管理方法について理解する

2)ドレーンの装着と管理法について理解する

3)止血法について理解する

4)骨折・脱臼の管理について理解する

2. 術前準備

1)術前手続(飼い主への説明、承諾書など)や術前検査について理解する

2)無菌的処置の重要性について理解する

3)手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌法について理解する

4)手術器具の準備と滅菌法について理解する

5)手術室の機器類(無影灯、電気メス本体など)、準備について理解する

6)器械台の準備について理解する

7)動物の適切なポジショニングについて理解する

8)術野の消毒について理解する

9)手洗い、手術着・手袋の着用法について理解する

3. 麻酔

1)麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割について理解する

2)麻酔リスクの評価(ASA 分類など)について理解する

3)麻酔前投与(鎮静など)について理解する

4)注射麻酔(局所麻酔を含む。)の手技について理解する

5)吸入麻酔の手技について理解する

6)導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する

7)麻酔看視項目(心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼気終末二酸化炭素濃度など)の監視方法、意義について理解する

8)麻酔記録の作成法について理解する

4. 術中補助

1)代表的な手術器具(メス、鉗子など)の名称と使用法について理解する

2)代表的な縫合材(縫合針、縫合糸)の分類と使用法について理解する

3)代表的な歯科器具の名称と使用法について理解する

4)直接補助(手袋着用下での補助)の内容について理解する

5)間接補助(手術回りの補助)の内容について理解する

5. 術後管理

1)麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて理解する

2)疼痛管理の意義と方法について理解する

3)術創管理と包帯法について理解する

4)退院時の注意点と飼い主への説明事項について理解する

5)褥創の予防及び対処法(体位変換など)について理解する

6. 救急救命

1)エマージェンシーの原因と病態について理解する

2)一次救命措置(BLS)について理解する

3)二次救命措置(ALS)について理解する

4)気管挿管と心肺蘇生の方法について理解する

7. 動物理学療法

1)動物理学療法の目的と意義について理解する

2)代表的な理学療法の原理と手技について理解する

授業概要

外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。

授業科目	国試指定科目　動物外科看護学Ⅰ（基礎）		担当教員	廣嶋　実 武藤　眞
科目英名	Veterinary Surgical Nursing Ⅰ (Basic)			
開講期間	2 学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

手術に必要な麻酔については、安全で良質な麻酔看護技術を身につけ、周麻酔期において包括的ケアができるようになることを目的とする。また、手術前後の動物看護に必要な外科の基礎知識を養う。

授業概要

外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。

授業計画

1　動物外科看護学1（廣嶋）
2　動物外科看護学 2（廣嶋）
3　動物外科看護学 3（廣嶋）
4　動物外科看護学 4（廣嶋）
5　動物外科看護学 5（廣嶋）
6　動物外科看護学 6（廣嶋）
7　動物外科看護学 7（廣嶋）
8　動物外科看護学 8（廣嶋）
9　動物外科看護学 9（廣嶋）
10　動物外科看護学 10（廣嶋）
11　手術における動物看護師の役割と術前管理（武藤）
12　滅菌と消毒（武藤）
13　術中術後管理（武藤）
14　手術器具と手術補助（武藤）
15　創傷管理（武藤）

履修上の注意

授業計画については、授業時にアナウンスを行う

成績評価

期末試験 97％、授業参加度 3％

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　8 巻　動物栄養学/動物外科看護学/動物医療コミュニケーション』
プリントを配布するので、毎回持参すること。

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

講義後は各回の内容を必ず復習し、次回の授業までに理解しておくか、疑問点を明確にして質問するなど、
講義内容の習得に努力すること。

担当教員の実務経験

廣嶋実：獣医師。動物病院院長としての経験を活かし講義を行う。

授業科目	国試指定科目　動物外科看護学Ⅱ（応用）		担当教員	廣嶋　実 伊藤　みどり
科目英名	Veterinary Surgical NursingⅡ (Advanced)			
開講期間	3 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

動物外科看護学Ⅰ（基礎）で学んだ知識をもとに、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する。11 回目からはリハビリテーションの流れ、理学療法の概要と流れを理解する。

授業概要

患者動物が入院してから、麻酔・手術・回復までの一連の期間における愛玩動物看護師の業務内容を、具体的な症例を取り上げて、実践的な臨床へとつなげていく。リハビリテーションの一部に理学療法が含まれる事からその相違を説明する。理学療法を行う前に対象者の把握が必要であることから理学療法評価について説明する。その理学療法評価に基づき適切な療法を選択することを説明する。

授業計画

1　周術期に必要な基礎知識（基礎編の復習）（廣嶋）
2　疾患別の周術期動物看護 1（廣嶋）
3　疾患別の周術期動物看護 2（廣嶋）
4　疾患別の周術期動物看護 3（廣嶋）
5　疾患別の周術期動物看護 4（廣嶋）
6　疾患別の周術期動物看護 5（廣嶋）
7　疾患別の周術期動物看護 6（廣嶋）
8　疾患別の周術期動物看護 7（廣嶋）
9　救急救命・エマージェンシー1（廣嶋）
10　救急救命・エマージェンシー2（廣嶋）
11　ヒトのリハビリテーション概論　理学療法概論（伊藤）
12　理学療法評価学（伊藤）
13　運動療法学（伊藤）
14　物理療法と生活環境学（伊藤）
15　リハビリテーションの進め方（伊藤）

履修上の注意

授業計画については、授業時にアナウンスを行う。
第 11 回目-15 回目　：　第 11 回目～15 回目までで 60%以上の出席を求める。小テストを行う場合がある。
授業の中で前回の内容を参考にすることもあるため、配布資料は毎回持参すること。

成績評価

期末試験 90%、授業参加度 5%、課題遂行状況 5%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

授業プリント、第 1 回目-10 回目：『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　8 巻　動物栄養学/動物外科看護学/動物医療コミュニケーション』(エデュワードプレス)

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

講義後は各回の内容を必ず復習し、次回の授業までに理解しておくか、疑問点を明確にして質問するなど、
講義内容の習得に努力すること。参考図書については、第 1 回の講義で紹介する。

担当教員の実務経験

伊藤みどり：病院、介護老人保健施設において患者・利用者に対する理学療法、高齢者に対する訪問理学療法を経験。現在は障がい者通所施設、高齢者通所施設において理学療法を提供中。
廣嶋実：獣医師。動物病院院長としての経験を活かし講義を行う。

授業科目	国試指定科目　動物臨床看護学総論		担当教員	藤波　由香/竹尾　恵 梅田　麻実/八田　彩
科目英名	General Theories of Veterinary Clinical Nursing			
開講期間	1 学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1. 動物看護過程の展開

1)動物看護過程の目的や意義、方法について理解する

2)動物看護過程の各ステップについて理解する

3)アセスメントについて理解する

4)事例ごとの個別性、情報の整理と解釈について理解する

5)問題の明確化と動物看護計画の立案について理解する

6)動物看護過程の実施と評価について理解する

2. 診療記録

1)診療録(カルテ)の作成方法について理解する

2)動物看護記録の目的や書式、事例に応じた作成法について理解する

3. 動物看護業務

1)チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割について理解する

2)ケアの標準化(クリティカルパス)について理解する

3)事故管理、防止システムについて 理解する

4)若齢動物看護の特徴について理解する

5)老齢動物看護の特徴や褥瘡について理解する

6)家庭での継続看護を視野に入れた退院計画・指導について理解する

4. ターミナルケアに関わる技術

1)ターミナルケアの目的と意義について理解する

2)QOL やホスピス、緩和ケアについて理解する

3)グリーフケアについて理解する

4)死亡した動物への対応とエンゼルケアについて理解する

授業概要

動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。

授業科目	国試指定科目　動物臨床看護学総論		担当教員	藤波　由香/竹尾　恵 梅田　麻実/八田　彩
科目英名	General Theories of Veterinary Clinical Nursing			
開講期間	1 学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

愛玩動物看護師として身に付けるべき現場に即した知識と、動物看護過程の一連のプロセスを学び、動物看護の基本的な考え方を修得することを目標とする。

授業概要

愛玩動物看護師の仕事、カルテについて、ライフステージ別の動物看護などについて学ぶ。動物看護過程については、動物看護記録のつけ方、動物看護計画の立案などを学び、事例ごとの動物看護の基本的な考え方を修得する。

授業計画

1　動物看護業務 1:チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割
2　動物看護業務 2:診療録(カルテ)、薬の保管
3　動物看護業務 3:クリティカルパス、事故管理、防止システム
4　妊娠動物・新生子の看護
5　幼齢動物の看護
6　老齢動物の看護
7　ターミナルケア、訪問看護・在宅ケア
8　グリーフケア、エンゼルケア
9　安楽死
10　動物看護過程とは・POMR とは
11　動物看護過程を基にした記録法　SOAP とは
12　動物の病気と看護
13　動物看護過程 1:疾患ごとに個別の看護を考える
14　動物看護過程 2:疾患ごとに個別の看護を考える
15　動物看護過程 3:疾患ごとに個別の看護を考える

履修上の注意

第 4-6 回目の内容は、動物内科看護学実習と並行して行う。
期末試験にて 6 割以上の得点であること、動物看護過程等の課題を提出していることが科目取得における必須条件となる。授業中の態度※1も評価に含み、場合により欠席とすることもある。
※1授業中の態度…他の科目や授業とは関係のない課題を行う、スマートフォンの操作などをする、私語などにより授業の妨げになる行為をする、寝ていて授業に参加していない等

成績評価

期末試験:60%、授業参加度(出席状況・課題提出含む):40%

教科書(授業必携本)／　毎回持参するもの

適宜授業資料を配布する

事前・事後学修(予習・復習)の内容　／　参考書(自主的な学習用)

参考書:『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 9 巻　動物臨床看護学総論　動物臨床看護学各論』(エデュワードプレス)

担当教員の実務経験

八田彩:愛玩動物看護師。動物病院勤務の経験を活かし講義を行う。

授業科目	国試指定科目　動物臨床看護学各論		担当教員	橋本直子／藤波由香／菅尾玲奈 井上留美／落合直美 髙柳信子／小嶋篤史
科目英名	Particular Theories of Veterinary Clinical Nursing			
開講期間	1学年　後期　必修 2学年　通年　必修 3学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1．徴候や疾患の理解と対処

1)代表的な徴候や病態、疾患について理解する

2)徴候の評価と記録法について理解する

3)痛みの評価について理解する

4)徴候・疾患に基づいた援助について理解する

2．代表的な徴候

1)全身徴候　食欲不振・廃絶、元気喪失、発熱、疼痛、削痩

2)特異的徴候　運動不耐、咳、心雑音、不整脈(房室ブロック、期外収縮、心房・心室細動)、高血圧、努力性呼吸、流涎、嘔吐、吐出、下痢、便秘、血便、黄疸、頻尿、血尿、多飲多尿、跛行、掻痒、発作、視力障害、難聴、眼振、斜頸、貧血、出血傾向

3)特異的病態　尿毒症、肝性脳症、褥瘡、播種性血管内凝固(DIC)

3．代表的な疾患

1)循環器疾患　僧帽弁逆流症、心筋症、血栓塞栓症、心膜腹膜横隔膜ヘルニア、心房中隔　欠損、心室中隔欠損、卵円孔開存、右大動脈弓遺残症、動脈管開存症、犬糸状虫症

2)呼吸器疾患　猫上部気道感染症、鼻炎、軟口蓋過長、気管虚脱、短頭種気道症候群、気管支拡張症、気管支炎、肺炎、肺水腫、猫喘息、膿胸、ジステンパー、ケンネルコフ

3)消化器・栄養代謝性疾患　歯石症、不正咬合、歯肉炎、歯周炎、口蓋裂、口内炎、食道炎、食道狭窄、巨大食道症、幽門狭窄、胃拡張胃捻転症候群(GDV)、胃炎、蛋白喪失性腸症　(PLE)、炎症性腸疾患(IBD)、食事反応性下痢(FRD)、抗菌薬反応性下痢　(ARD)、腸リンパ管拡張症、消化管内　異物、腸閉塞、腸捻転、腸重積、巨大結腸症、直腸脱、会陰ヘルニア、パルボウイルス感染症、肝炎、肝硬変、肝リピドーシス、門脈体循環シャント、　胆嚢粘液嚢腫、膵炎、膵外分泌不全症　(EPI)

4)泌尿器疾患　急性腎障害(AKI)、慢性腎臓病(CKD)、腎盂腎炎、蛋白喪失性腎症(PLN)、尿路感染症、尿石症、膀胱炎、猫下部尿路疾患(FLUTD)、尿道閉塞症、レプトスピラ症

5)内分泌疾患　甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症、糖尿病、副腎皮質機能亢進症(ク　ッシング症候群)、副腎皮質機能低下症(アジソン病)、尿崩症

6)生殖器疾患　潜在精巣、前立腺炎、前立腺肥大、子宮蓄膿症、偽妊娠、難産、腟脱、乳腺　炎、犬ブルセラ症、乳腺腫瘍

7)整形外科疾患　骨折、脱臼、膝蓋骨脱臼、関節炎、変形性関節症、前十字靭帯断裂、股異形成、レッグペルテス病、骨肉腫

8)皮膚疾患　膿皮症、脂漏症、アトピー性皮膚炎、ノミアレルギー性皮膚炎、好酸球性　肉芽腫、食物アレルギー、天疱瘡、外耳炎、疥癬、耳ヒゼンダニ症、毛包虫症、皮膚糸状菌症、マラセチア皮膚炎、メラノーマ

9)神経疾患　脳炎、水頭症、てんかん、ウォブラー症候群、椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、馬尾症候群

10)眼疾患　結膜炎、角膜炎、乾性角結膜炎、角膜潰瘍、ぶどう膜炎、緑内障、白内障、　核硬化症、流涙症、第三眼瞼腺脱出(チェリーアイ)、異所性睫毛

11)造血器・免疫介在性疾患　免疫介在性溶血性貧血(IMHA)、ネギ中毒、ヘモプラズマ症、バベシア症、腎性貧血、血友病、猫伝染性腹膜炎(FIP)、猫白血病ウイルス(FeLV)感染症、猫免疫不全ウイルス(FIV)感染症、リンパ腫、白血病、肥満細胞腫

12)緊急疾患　交通事故、感電、熱傷、熱中症、中毒、誤飲、ショック、アナフィラキシー

4. 担がん動物の看護

1)がんの診断のための検査と治療の手順について理解する

2)腫瘍随伴症候群について理解する

3)がんの治療を受けている動物の看護援助について理解する

4)担がん動物の治療と化学療法の副作用について理解する

授業概要

様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。

授業科目	国試指定科目　動物臨床看護学各論Ⅰ（基礎）	担当教員	橋本　直子/藤波　由香 菅尾　玲奈
科目英名	Particular Theories of Veterinary Clinical Nursing Ⅰ (Basic)		
開講期間	1 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義

到達目標

様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療について理解する。また各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、考える力を養うことを目標とする。

授業概要

様々な疾患について、病態生理と症状、必要な処置、治療に関する基本的な知識について学ぶ。その上で、各々の機能障害を持つ動物に対して必要な看護をするための評価と介入の方法について学ぶ。

授業計画

1　全身徴候（橋本）
2　特異的徴候Ⅰ（橋本）
3　特異的徴候Ⅱ（橋本）
4　特異的徴候Ⅲ（橋本）
5　特異的徴候Ⅳ（橋本）
6　去勢手術・避妊手術、手術により予防できる疾患（橋本）
7　外部寄生虫症（橋本）
8　犬糸状虫症（橋本）
9　尿石症（藤波）
10　歯周病（藤波）
11　ワクチンで予防できる感染症Ⅰ（菅尾）
12　ワクチンで予防できる感染症Ⅱ（菅尾）
13　皮膚疾患Ⅰ（橋本）
14　皮膚疾患Ⅱ（橋本）
15　皮膚疾患Ⅲ（橋本）

履修上の注意

順不同の場合があるため時間割を確認すること。
適宜プリントを配布する。次回に続くこともあるので、配布資料は毎回忘れずに持参すること。

成績評価

期末試験 70%、小テスト 30%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　9 巻　動物臨床看護学各論/動物臨床看護学総論』（エデュワードプレス）
配布プリント

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

授業前に教科書を読んでおくこと。授業後は各回の内容を復習すること。

担当教員の実務経験

授業科目	国試指定科目　動物臨床看護学各論Ⅱ（応用）	担当教員	落合　直美 髙柳　信子
科目英名	Particular Theories of Veterinary Clinical NursingⅡ(Advanced)		
開講期間	2学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義

到達目標

様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療について理解する。また各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、考える力を養うことを目標とする。

授業概要

様々な疾患について、病態生理と症状、必要な処置、治療に関する基本的な知識について学ぶ。その上で、各々の機能障害を持つ動物に対して必要な看護をするための評価と介入の方法について学ぶ。

授業計画

1　循環器疾患1(落合)
2　循環器疾患2(落合)
3　循環器疾患3(落合)
4　循環器疾患4(落合)
5　呼吸器疾患1(落合)
6　呼吸器疾患2(落合)
7　呼吸器疾患3(落合)
8　呼吸器疾患4(落合)
9　感染症1(落合)
10　感染症2(落合)
11　消化器疾患1(落合)
12　消化器疾患2(落合)
13　消化器疾患3(落合)
14　消化器疾患4(落合)
15　泌尿器疾患1(落合)
16　泌尿器疾患2(落合)
17　泌尿器疾患3(落合)
18　腫瘍疾患1(高柳)
19　腫瘍疾患2(高柳)
20　腫瘍疾患3(高柳)
21　腫瘍疾患4(高柳)
22　内分泌疾患1(落合)
23　内分泌疾患2(落合)
24　生殖器疾患1(落合)
25　生殖器疾患2(落合)
26　眼科疾患1(落合)
27　眼科疾患2(落合)
28　造血器・免疫介在性疾患1(落合)
29　造血器・免疫介在性疾患2(落合)
30　造血器・免疫介在性疾患3(落合)

履修上の注意
順不同の場合があるため時間割を確認すること。 適宜プリントを配布する。次回に続くこともあるので、配布資料は毎回忘れずに持参すること。
成績評価
期末試験 70%、小テスト 30%
教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの
『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　9 巻　動物臨床看護学各論/動物臨床看護学総論』（エデュワードプレス）、配布プリント
事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）
授業前に教科書を読んでおくこと。授業後は各回の内容を復習すること。
担当教員の実務経験
髙柳信子：獣医師。動物病院勤務の経験を活かし講義を行う。 落合直美：愛玩動物看護師。動物病院勤務の経験を活かし講義を行う。

授業科目	国試指定科目 動物臨床看護学各論Ⅲ（臨床）	担当教員	橋本　直子／井上　留美 小嶋　篤史
科目英名	Particular Theories of Veterinary Clinical NursingⅢ（Clinical）		
開講期間	3 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義

到達目標

様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療について理解する。また各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、考える力を養うことを目標とする。

授業概要

様々な疾患について、病態生理と症状、必要な処置、治療に関する基本的な知識について学ぶ。その上で、各々の機能障害を持つ動物に対して必要な看護をするための評価と介入の方法について学ぶ。

授業計画

1　鳥類看護学Ⅰ（小嶋）
2　鳥類看護学Ⅱ（小嶋）
3　鳥類看護学Ⅲ（小嶋）
4　鳥類看護学Ⅳ（小嶋）
5　鳥類看護学Ⅴ（小嶋）
6　救急疾患 1（橋本）
7　救急疾患 2（橋本）
8　救急疾患 3（橋本）
9　救急疾患 4（橋本）
10　整形疾患 1（井上）
11　整形疾患 2（井上）
12　整形疾患 3（井上）
13　神経疾患 1（井上）
14　神経疾患 2（井上）
15　神経疾患 3（井上）

履修上の注意

順不同の場合があるため時間割を確認すること。
適宜プリントを配布する。次回に続くこともあるので、配布資料は毎回忘れずに持参すること。

成績評価

期末試験 70%、小テスト 30%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

第 1 回目−5 回目：『コンパニオンバードの病気百科』（誠文堂新光社）プリントは配布しないため、ノートを持参すること
第 6 回目−9 回目：『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　9 巻　動物臨床看護学各論/動物臨床看護学総論』、配布プリント

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

授業前に教科書を読んでおくこと。授業後は各回の内容を復習すること。

担当教員の実務経験

小嶋篤史：獣医師。鳥類専門の動物病院院長として勤務中。
井上留美：愛玩動物看護師。動物病院で勤務。

授業科目	国試指定科目　動物臨床検査学		担当教員	橋本　直子 菅尾　玲奈
科目英名	Veterinary Laboratory Medicine			
開講期間	1学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1. 臨床検査の基礎
1)臨床検査における愛玩動物看護師の役割について理解する
2)基準値、感度、特異度、精度管理について理解する
3)検体採取法(血液、尿、便、粘膜、スワブ、体表組織など)について理解する
2. 血液検査
1)血漿、血清の分離法について理解する
2)全血球計算法(CBC)について理解する
3)血液塗抹の作製及び観察法について理解する
4)ヘマトクリット管を用いた検査について理解する
5)凝固検査の目的と意義について理解する
6)血液化学検査の目的と意義について理解する
7)血液ガス検査の目的と意義について理解する
8)免疫学的検査の目的と意義について理解する
3. 尿検査
1)尿の性状検査について理解する
2)尿沈渣について理解する
4. 糞便検査
1)虫卵・原虫の検出法について理解する
2)細菌の観察法について理解する
5. 細胞診と病理組織検査
1)細胞診断の目的と方法について理解する
2)病理組織検査のための検体の取扱いについて理解する
6. 遺伝子検査
1)遺伝子検査の目的と応用例について理解する
2)遺伝子検体の採取及び取扱いについて理解する

授業概要

様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。

授業科目	国試指定科目　動物臨床検査学		担当教員	橋本　直子 菅尾　玲奈
科目英名	Veterinary Laboratory Medicine			
開講期間	1 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

動物病院では治療方針の決定や診断のために数多くの検査が行われている。特に生体から得られた材料（検体）を検査することは日常的に行われており、それを行うのは主に愛玩動物看護師である。愛玩動物看護師として獣医療に必要な検査の知識や技術を習得し、さらに外からはわからない変化を数値化することにより、動物の状態を客観的にみる力を身に着けることを目標とする。

授業概要

動物臨床検査の現状、検体の取り扱い、血液検査、尿検査、糞便検査、耳垢検査などの様々な検査について講義する。実習科目「動物臨床検査学実習」の関連科目である。

授業計画

1　臨床検査概論、血液成分
2　内部寄生虫
3　耳垢検査、皮膚検査、細胞診と病理組織検査
4　糞便検査、遺伝子検査
5　尿検査
6　尿沈査検査
7　細菌学的検査
8　総まとめ
9　血液学 1：ヘマトクリット管を用いた検査
10　血液学 2：全血球計算法（CBC）
11　血液学 3：血液塗抹、染色、フィラリア
12　血液学 4：血液化学検査
13　血液学 5：凝固検査
14　血液学 6：血液ガス検査、免疫学的検査
15　血液学 7：血液総まとめ

履修上の注意

・実習科目「動物臨床検査学実習」の関連科目である。
　「動物臨床検査学実習」にて「動物臨床検査学」の授業資料を使用する為、必ず保管しておくこと。
・授業中の態度※1によっては欠席とすることもある。
※1授業中の態度…他の科目や授業とは関係のない課題を行う、スマートフォンの操作をする、私語などにより授業の妨げになる行為をする、寝ていて授業に参加していない等

成績評価

筆記試験 60%、提出物（授業内テスト、課題等含む）40%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

適宜授業資料を配布する

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

参考書：『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　7 巻　動物内科看護学　動物臨床検査学』（エデュワードプレス）

担当教員の実務経験

授業科目	国試指定科目　動物医療コミュニケーション		担当教員	藤波　由香/竹尾　恵 八田　彩/梶山　亮子
科目英名	Veterinary Medical Communication			
開講期間	1 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1. クライアントエデュケーション

1）適正飼養について理解し、健康管理のため必要な情報を飼い主に提供できる

2）動物と飼い主が良好な関係を構築する方法について理解する

3）病気の適切な予防法（予防接種、フィラリア予防、ノミ・ダニ予防、歯科予防、去勢・不妊手術など）について理解する

4）在宅看護等におけるコミュニケーション技能について理解する

2. 院内コミュニケーション

1）飼い主への指導を主体としたインフォームドコンセントについて理解する

2）獣医療面接のプロセス（導入、稟告、質問、傾聴、要約、確認、終結など）について理解する

3）チーム獣医療に関するコミュニケーション技能（報告・連絡・相談）について理解する

3. 院内業務

1）受付業務（診療受付、電話対応、清算、トラブル対応など）について理解する

2）物品購入や管理について理解する

3）ペット保険について理解する

授業概要

事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。

授業科目	国試指定科目　動物医療コミュニケーション		担当教員	藤波　由香/竹尾　恵 八田　彩/梶山　亮子
科目英名	Veterinary Medical Communication			
開講期間	1 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

本講義では、前半は社会人に必要な意識と態度について考察し、学習した内容が実践できる力をつける。特に上下関係の重要性を理解し、周りの人への思いやりや気遣い、尊重する気持ちを身に付けることを目標とする。後半では、愛玩動物看護師としての基礎的な問診の方法、飼い主教育、飼い主やスタッフとのコミュニケーションスキルの修得を目標とする。

授業概要

職場で円滑な人間関係を築くために、相手を気遣ったコミュニケーションが重要であることを学ぶ。前半はその鍵となる挨拶・身だしなみ・言葉遣い・電話応対・来客応対、文書作成の基本について、演習を通して考察する。後半では、愛玩動物看護師として就職した際に役立つ即戦力的な知識の修得を目指し、動物病院での受付業務、受付、電話応対法、問診する際の基本的なポイントや疾患別のポイント、日常健康管理に関わる飼い主教育、入退院時の対応、入院動物のストレスに関する対処などについて学ぶ。

授業計画

1　授業ガイダンス／社会人に必要な意識・態度とコミュニケーション（梶山）
2　言葉遣いと感じのよい話し方（敬語・クッション言葉・間違えやすい敬語等）（梶山）
3　電話応対の基本（電話をかける時と受ける時の心得・言葉遣い）（梶山）
4　ビジネス文書の基本（手紙・電子メールの作成）（梶山）
5　まとめ（ロールプレイング演習）（梶山）
6　動物病院業務 1：受付業務①（受付、電話応対、会計等）（藤波）
7　動物病院業務 2：受付業務②（トラブル対応、ペット保険、在庫管理等）（藤波）
8　動物病院業務 3：獣医療面接①基本的問診（梅田）
9　動物病院業務 4：獣医療面接②疾患別問診（梅田）
10　動物病院業務 5：クライアントエデュケーション　去勢・避妊手術（藤波）
11　動物病院業務 6：クライアントエデュケーション　フィラリア予防（梅田）
12　動物病院業務 7：クライアントエデュケーション　ノミ、マダニ予防（梅田）
13　動物病院業務 8：クライアントエデュケーション　ワクチネーション（梅田）
14　動物病院業務 9：クライアントエデュケーション　デンタルケア（藤波）
15　動物病院業務 10：入退院時の対応（入退院の際の注意点）、入院看護について（入院動物の看護方法やストレス）（藤波）

履修上の注意

積極的にメモを取ること。授業中の態度※1も評価に含み、場合により欠席とすることもある。
※1授業中の態度…他の科目や授業とは関係のない課題を行う、スマートフォンの操作などをする、私語などにより授業の妨げになる行為をする、寝ていて授業に参加していない等

成績評価

期末試験：60％、授業参加度（出席状況・課題提出を含む）：40％

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

適宜プリント配布

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

第 1-5 回目：講義後は毎回復習して実践に励むこと。そしてそれらを各自しっかりと身につけるように努めること。
第 6-15 回目：動物臨床看護学各論、動物内科看護学実習と連動する授業もある。それぞれ復習して臨むこと。
参考書：『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8 巻　動物栄養学　動物外科看護学　動物医療コミュニケーション』（エデュワードプレス）

担当教員の実務経験

梶山亮子：秘書実務経験、ビジネスマナー教育、キャリア教育経験を活かし、職場で必要な意識と態度について講義する。

授業科目	国試指定科目　愛玩動物学		担当教員	菅　直子/伊藤　真紀/嶋田　三那子 望月　有紗/寺澤　大河/すずき　莉萌 高野　八重子/津田　順子 霍野　晋吉
科目英名	Companion Animal Science			
開講期間	1 学年　前期　必修 1 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1. 歴史と品種

1)犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ(品種に適したグルーミングなど)について理解する

2)猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ(品種に適したグルーミングなど)について理解する

3)代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態について理解する

4)血統と血統書について理解する

2. 使役動物

1)使役動物(犬、その他の動物)の歴史と福祉について理解する

2)補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)の歴史と現状について理解する

3)補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)の役割と育成、適性について理解する

4)その他の使役犬(災害救助犬、警察犬、麻薬探知犬、検疫探知犬など)の種類と特徴及び現状について理解する

3. 愛玩動物の飼養管理

1)犬の適切な飼養管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢、社会化訓練など)について理解する

2)猫の適切な飼養管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢など)について理解する

3)愛玩鳥の適切な飼養管理方法(飼　養環境、体調管理など)について理解する

4)代表的なエキゾチック動物(ウサギ、ハムスターなど)の適切な飼養管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理など)について理解する

4. 動物の基本的な取扱い

1)動物を安全に散歩・運動・ふれあいをさせることの意義について理解する

2)基本的グルーミング(シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など)の目的・方法について理解する

3)適切な飼養環境やストレスの緩和方法について理解する

授業概要

愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。

授業科目	国試指定科目　愛玩動物学Ⅰ（愛玩動物特性）		担当教員	菅　直子/伊藤　真紀/嶋田　三那子 望月　有紗/寺澤　大河/すずき　莉萌 高野　八重子/津田　順子
科目英名	Companion Animal Science Ⅰ			
開講期間	1 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼育管理方法について理解する。

授業概要

愛玩動物に関する基礎知識、基本用語、適切な飼育管理方法、使役動物の歴史や福祉についての理解を深める。
基本的グルーミング（主に犬）に必要な基礎知識を身に付ける。猫の適切な飼養管理方法を習得する。
コンパニオンバードについての基礎知識、基本用語の理解を深める。鳥類栄養学、繁殖方法等に関する基礎知識を習得する。

授業計画

1　犬の歴史と品種標準、血統について（伊藤）
2　犬種Ⅰ（望月）
3　飼養管理Ⅰ（菅）
4　コンパニオンアニマルケア（伊藤）
5　犬種Ⅱ（望月）
6　犬種Ⅲ（望月）
7　飼養管理Ⅱ（菅）
8　使役動物の歴史と福祉(補助犬、その他の使役犬)（嶋田）
9　鳥類の基礎知識（すずき）
10　コンパニオンバードの栄養と飼養管理（すずき）
11　コンパニオンバードの種類（すずき）
12　イエネコの歴史・日本猫の歴史（高野・津田）
13　体の構造と機能（高野・津田）
14　代表的な長毛種の説明（高野・津田）
15　代表的な短毛種の説明（高野・津田）

履修上の注意

各回の持ち物はシラバス及び掲示を確認すること。　順番は前後する場合がある。

成績評価

期末テスト 100％

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

各回の持ち物はシラバス及び掲示を確認すること。
配布プリント、第 1 回目：『全犬種標準書』、第 12 回-15 回目：『新しい猫の教科書』

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

講義後は各回の内容を復習すること。/参考書　2 回目、3 回目、4 回目：『全犬種標準書』、『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　6 巻　動物行動学/愛玩動物学/比較動物学』

担当教員の実務経験

すずき莉萌：鳥類ライターとしての経験を活かし、コンパニオンバードの種類、特徴などについて講義する。
高野八重子：ネコの専門家。CFA オールブリード国際審査員としての経験を活かし、猫の種類、歴史、構造と機能等について講義する。
津田順子：猫の専門家。長年のショーや繁殖経験を活かす。

授業科目	国試指定科目 愛玩動物学Ⅱ（エキゾチックアニマル特性・ケア）		担当教員	霍野　晋吉
科目英名	Companion Animal ScienceⅡ（Characteristic of Exotic Animal）			
開講期間	1学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

動物看護師としてエキゾチックアニマル(哺乳類、鳥類、爬虫類)についての生態と特徴、疾病など知識を幅広く修得することを到達目標とする。知識を備えた上で初めて実践の看護ができるようになる。

授業概要

エキゾチックアニマルの看護において必要な生態・特徴・疾病について解説する。犬や猫とは異なる各動物の生態と特徴を習得した上でないと行えない。動物特有の病気の知識も把握し、実際の現場で看護が実践できるよう説明する。

授業計画

1　エキゾチックアニマル総論(前半)
2　エキゾチックアニマル総論(後半)
3　ハムスター
4　フェレット
5　ウサギ学(前半)
6　ウサギ学(後半)
7　モルモット
8　チンチラ
9　デグー
10　ハリネズミ
11　フクロモモンガ
12　カメ(前半)
13　カメ(後半)
14　トカゲ
15　両生類

履修上の注意

特になし

成績評価

レポート課題：50％、授業参加度：50％

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

『カラーアトラスエキゾチックアニマル　哺乳類編　第3版』(著者：霍野晋吉、横須賀誠)、(出版社：緑書房)

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

『カラーアトラスエキゾチックアニマル　鳥類編』（著者：霍野晋吉)、(出版社：緑書房)
『カラーアトラスエキゾチックアニマル　爬虫類・両生類編』(著者：霍野晋吉、中田友明)、(出版社：緑書房)
『ウサギの基本 JCRA Book Kindle 版』(著者：霍野晋吉)、(出版社：YIL 出版)
『ウサギの医学』(著者：霍野晋吉)、(出版社：緑書房)

担当教員の実務経験

動物病院での診療を活かし、動物看護師としての病気の知識や看護の技術について講義する

授業科目	コンパニオンアニマルケア論		担当教員	伊藤　真紀／望月　有紗 寺澤　大河／高野　八重子 津田　順子
科目英名	Introduction to Companion Animal Care			
開講期間	2 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

コンパニオンアニマルケアで必要となる器具の使い方や、基礎知識を覚えることを目標とする。
犬種の特徴を学び、コンパニオンアニマルケアに活かすことを目標とする。

授業概要

コンパニオンアニマルケアの技術・知識以外に伴侶動物を飼ううえで必要なグッズなど、幅広く学ぶ。

授業計画

1　コンパニオンアニマルケア実習の復習
2　ノーマル及びペットクリップついて
3　ブラッシング・コーミング・ドライング　被毛の構造、ブラシの使い方など
4　ベイジング　シャンプーの種類、薬用シャンプーなど
5　クリッピング　クリッパーの構造、被毛が刈れる仕組みについて
6　シザーリング　ハサミの構造や種類、カットテクニックについて
7　トリミング①　ペットクリップのカット法
8　トリミング②　ペットクリップのカット法
9　犬種について　①
10　犬種について　②
11　犬種について　③
12　グルーミングによる疾患
13　血統猫とは（血統猫の意義と血統書について）（高野・津田）
14　繁殖学（繁殖と出産・ヒマラヤンの誕生について）（高野・津田）
15　猫の飼育管理（高野・津田）

履修上の注意

特になし。

成績評価

期末テスト 100％

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

第 13 回目～15 回目：『猫の教科書』

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

各回の授業の復習をすること。コンパニオンアニマルケア実習に活かすこと。

担当教員の実務経験

高野八重子：ネコの専門家。CFA オールブリード国際審査員としての経験を活かし、猫の種類、血統猫の意義・繁殖方法、飼育管理等について講義する。
津田順子：長年、猫の飼育、ショーキャットの繁殖に携わっている。

授業科目	ドッグトレーニング論		担当教員	菅　直子 嶋田　三那子
科目英名	Dog Training Theory			
開講期間	1 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目／ 講義	

到達目標

犬の行動様式の特徴や学習理論、問題行動の原因について学ぶ。

授業概要

犬の行動発達、学習理論、トレーニング技法、問題行動の定義、要因、対応、予防について解説する。

授業計画

1　トレーニング概論（嶋田）
2　犬を知る①（菅）
3　行動と学習①（嶋田）
4　行動と学習②（菅）
5　行動と学習③（嶋田）
6　行動と学習④（菅）
7　犬を知る②（嶋田）
8　犬を知る③（菅）
9　犬を知る④（嶋田）
10　犬を知る⑤（菅）
11　犬を知る⑥（嶋田）
12　行動と学習⑤（菅）
13　犬を知る⑦（嶋田）
14　まとめ①（菅）
15　まとめ②（嶋田）

履修上の注意

内容が次回に続くことがあるため、配布資料は毎回持参すること。

成績評価

期末試験 100％

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

前回までに配布したプリント　その他は適宜指示します。

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

特になし

担当教員の実務経験

授業科目	国試指定科目　人と動物の関係学		担当教員	安藤　孝敏
科目英名	Human Animal Relations			
開講期間	3 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1．人間と動物の関わり

1)動物の飼養・利用の歴史について理解する

2)欧米と日本の動物観、動物との関わりの相違について理解する

3)動物の飼養と利用の現状について理解する

2．人間の福祉と愛玩動物の関わり

1)動物虐待と対人暴力の連動性に関する基礎知識について理解する

2)多頭飼育問題について理解する

3)愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵及び人間の加齢に伴って飼養困難になる様々な事情について理解する

3．動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育

1)動物との接触が人間に与える身体的・心理的影響について理解する

2)動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的と内容について理解する

3)動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に使用される動物の公衆衛生学的適性、行動学的適性について理解する

4)動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に対する動物病院や愛玩動物看護師の関わりについて理解する

5)学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わりについて理解する(文部科学省が道徳教育の一環として認めていることを含む。)

授業概要

動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。

授業科目	国試指定科目 人と動物の関係学		担当教員	安藤 孝敏
科目英名	Human Animal Relations			
開講期間	3 学年 後期 必修	科目区分／形式	専門教育科目 ／ 講義	

到達目標

人と動物の関係が心理的にも物理的にも近くなった現代社会において、動物がどのような影響を人に与えるのか、人と動物の共生社会を目指すには何が必要であるのかを多面的に考え理解していくことを到達目標とする。詳細は愛玩動物看護師国家試験受験科目「人と動物の関係学」の到達目標に準じる。

授業概要

動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理・社会・文化的側面から、その実態、課題等を含めて総合的に理解する。

授業計画

1 オリエンテーション、「人と動物の関係学」とは？
2 人と動物の関係の起源とそのプロセス
3 文化・社会が形づくる人と動物の関係
4 人と動物の愛着・絆
5 人の健康と動物との関わり1－高齢者への影響
6 人の健康と動物との関わり2－子どもへの影響
7 動物を介した教育－学校飼育動物
8 障害者と動物の関係－身体障害者補助犬
9 動物介在サービス－動物介在療法・治療、動物介在教育、動物介在支援プログラム
10 倫理的視点からみた人と動物の関係
11 人と動物の関係が揺らぐ時
12 終末期における人と動物の関係
13 死後も続く人と動物の関係
14 社会の中の人と動物の関係
15 飼い主理解とコミュニケーション

履修上の注意

授業資料プリントを配布するとともに、Moodle を利用して配信する。毎回、授業内容などに関するリアクションペーパーの提出がある。各授業テーマについて自分なりの意見を持ち、文章で表現することを求められる。

成績評価

授業参加度：20%、リアクションペーパー：50%、複数回のレポート：30%の配分で評価する。

教科書（授業必携本）／ 毎回持参するもの

特になし

事前・事後学修（予習・復習）の内容 ／ 参考書（自主的な学習用）

参考書などの該当箇所を読み、授業の理解を深める。授業内容の要点を整理する。
『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 4 巻 動物看護学概論/人と動物の関係学/生命倫理・動物福祉』（エデュワードプレス）

担当教員の実務経験

授業科目	国試指定科目　適正飼養指導論		担当教員	望月　有紗 島津　裕美 小島　香代子
科目英名	Guidance Theory of Animal Welfare and Proper Care			
開講期間	3 学年　前期　必修 3 学年　後期　必修	科目区分／形式	教養教育科目　／　講義	

到達目標

1. 愛玩動物の飼養

1)愛玩動物の適正飼養の目的、概念について理解する

2)愛玩動物飼養の現状について理解する

3)愛玩動物飼養によって人間が受ける影響と問題点について理解する

4)愛玩動物の飼養のニーズや目的、グリーフケア、ペットロスについてその概要と飼い主の心情を踏まえた必要な支援について理解する

2. 適正飼養の推進

1)適正飼養に関する支援の目的と活動(民間団体等によるものを含む。)について理解する

2)動物取扱業者における適正飼養について理解する

3)愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策について理解する

4)問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法について理解する

3. 災害危機管理と支援

1)災害時の同行避難の重要性を理解し、説明できる

2)愛玩動物とその飼い主の災害の備えについて理解し、説明できる

3)災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割について理解する

4. 動物愛護管理行政

1)公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割について理解する

2)動物愛護週間の役割と実施状況について理解する

3)犬・猫の引取り及び負傷動物などの収容並びに処分の状況について理解する

4)動物による事故の内容と報告状況について理解する

5)動物愛護管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割について理解する

6)動物取扱責任者の選任条件と役割について理解する

授業概要

愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。

授業科目	国試指定科目　適正飼養指導論Ⅰ（適正飼養）		担当教員	望月　有紗 島津　裕美
科目英名	Guidance Theory of Animal Welfare and Proper Care Ⅰ			
開講期間	3 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

愛玩動物の適正飼養、動物愛護行政の仕組みと課題等について理解し、正しい情報を飼い主に説明できる。

授業概要

愛玩動物の効用や飼養目的を理解し、適正飼養の推進活動、動物管理行政の仕組みについて理解する。

授業計画

1　愛玩動物の飼養状況と関係法令（島津）
2　愛玩動物飼養における効果と問題点（島津）
3　適正飼養を普及させるための活動（島津）
4　動物取扱業が果たすべき適正飼養（島津）
5　不適切な飼育問題（多頭飼育崩壊など）と対策（島津）
6　問題行動の予防と対策①（島津）
7　問題行動の予防と対策②（島津）
8　動物愛護管理行政と関係法令（島津）
9　動物愛護センター等について（島津）
10　動物取扱業の規制について（島津）
11　動物愛護管理行政事務提要①（島津）
12　動物愛護管理行政事務提要②（島津）
13　自治体等の取り組み、愛玩動物看護師の役割（島津）
14　動物終末期ケア①（望月）
15　動物終末期ケア②（望月）

履修上の注意

順番は前後する場合がある。

成績評価

期末試験 100％

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

特になし

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　10 巻　適正飼養指導論/動物生活環境学/ペット関連産業論』（エデュワードプレス）

担当教員の実務経験

島津裕美：愛玩動物看護師。環境省動物愛護管理室専門員、動物病院勤務、パピークラス運営等の経験を活かし、動物の愛護と管理、動物福祉、適正飼養について講義する。

授業科目	国試指定科目 適正飼養指導論Ⅱ（動物災害・危機管理）		担当教員	小島　香代子
科目英名	Guidance Theory of Animal Welfare and Proper CareⅡ (Disaster and Crisis Control)			
開講期間	3 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

災害時、人もペットも生きるために、どのように備え、どのように対処するかを理解する。また愛玩動物看護師として、地域や動物病院でペットの災害対策について普及啓発できるようになることを目標とする。

授業概要

過去の大災害時にペットや飼い主はどのような状況だったかを振り返り、災害時にペットを守るために日頃どのような備えが必要かを学ぶ。また災害発生時、飼い主としてボランティアとして、愛玩動物看護師としてどのように対処するかをシュミレーションする。犬猫保護活動時の留意点を知り、災害時の犬猫救護に役立つスキルを身につける。犬猫保護にあたりボランティアと動物愛護管理行政それぞれの役割を理解する。地域や動物病院でペット災害対策の普及啓発ができるように学修する。

授業計画

1　過去の大災害から学ぶ①東日本大震災時の動物たちと救護活動
2　過去の大災害から学ぶ②東日本大震災からの教訓
3　ペットの災害対策①
4　ペットの災害対策②
5　災害時のペット救護①
6　災害時のペット救護②
7　動物愛護管理行政の役割①
8　動物愛護管理行政の役割②
9　犬猫保護活動　ボランティアの役割①
10　犬猫保護活動　ボランティアの役割②
11　エキゾチックアニマルの災害対策と危機管理①
12　エキゾチックアニマルの災害対策と危機管理②
13　動物を取扱う業者の災害対策と危機管理①
14　動物を取扱う業者の災害対策と危機管理②
15　振り返りとまとめ　動物と共に生きる

履修上の注意

適宜プリントを配布する。

成績評価

授業への参加度（出席及び授業への関心・意欲・態度）45%、課題 55%として総合的に評価する。

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　10 巻　適正飼養指導論/動物生活環境学/ペット関連産業概論』（エデュワードプレス）

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

事前学修：次回の授業内容について、情報収集し、自分なりの予測を立て、考えを持っておくこと。
事後学修：授業内容を振り返り、課題を提出すること。

担当教員の実務経験

「いぬねこサロンジュン」経営。グルーマー。犬猫の被毛ケア・健康管理の実務経験と犬猫保護活動の経験を活かし、動物の適正飼養や動物愛護・動物福祉、ペットの災害対策について講義する。

授業科目	国試指定科目　動物生活環境学		担当教員	菅　直子/伊藤　真紀/嶋田　三那子 梅田　麻実/望月　有紗/寺澤　大河 金巻　とも子/刈屋　美和
科目英名	Animal Environmental Science			
開講期間	3 学年　後期　必修	科目区分／形式	教養教育科目　／　講義	

到達目標

1.　飼養環境整備

1)動物行動学を踏まえた人とペットのための飼養環境整備の必要性や方法(問題行動予防を含む)について理解する

2)ペット共生住宅の現状、環境整備・ 管理の方法について理解する

2.　ペットツーリズム関連施設、ドッグラン

1)ペットツーリズムの現状と実施方法について理解する

2)ペット同伴宿泊ホテルの環境整備・ 管理の方法について理解する

3)ドッグランの環境整備・管理の方法について理解する

4)ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興について理解する

3.　保護収容施設

1)動物シェルターや災害時の避難施設の環境整備・管理の方法、シェルターメディスンについて理解する

2)動物愛護管理センターの役割、施設の概要、普及啓発活動について理解する

4.　ペットへの教育・訓練施設

1)動物の社会化トレーニングの意義、 必要性、方法、施設等について理解する

5.　動物介在教育施設

1)学校飼育動物等の施設の環境整備・管理の方法について理解する

6.　ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応

1)飼育マナーの必要性や目的について理解する 2)飼育マナーの歴史、地域における飼育マナーの違いについて理解する

3)地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種の条例について理解する

4)愛玩動物の種類別に必要とされている飼育マナーについて理解する

5)ペット保険の仕組みと実態について理解する

授業概要

動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。

授業科目	国試指定科目　動物生活環境学		担当教員	菅　直子/伊藤　真紀/嶋田　三那子 梅田　麻実/望月　有紗/寺澤　大河 金巻　とも子/刈屋　美和
科目英名	Animal Environmental Science			
開講期間	3 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

動物の行動様式を理解し、家庭等における飼養環境整備、問題改善やリスク軽減のための整備について学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。また、個性ある犬や飼い主に合わせどのようなアドバイスができるかを学び、犬・人双方の生活の質向上のきっかけとなるよう理解を深める。

授業概要

動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。

授業計画

1　飼育環境整備（望月）
2　飼育環境整備、動物行動学を踏まえた人とペットのための飼育環境整備の必要性や方法（問題行動予防を含む）（金巻）
3　犬との暮らし～問題行動予防・グッズ～①（刈屋）
4　犬との暮らし～問題行動予防・グッズ～②（刈屋）
5　ペットツーリズム関連施設、ドッグラン（寺澤）
6　犬旅・おでかけ～ペットツーリズム～（刈屋）
7　ペットツーリズム関連施設／ペットツーリズムの現状、ペット同伴宿泊ホテルの環境整備・管理の方法（金巻）
8　保護収容施設（伊藤）
9　ペットへの教育・訓練施設（菅）
10　犬との暮らしでの課題～教育について～（刈屋）
11　動物介在教育施設（嶋田）
12　ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応（伊藤）
13　犬との暮らしでの課題～マナー・リスク・トラブル～（刈屋）
14　イベント～啓発活動～（刈屋）
15　ペット保険の概要（招聘講師）

履修上の注意

適宜プリントを配布する。
講義終了後にリアクションペーパーやディスカッションを課す場合がある。

成績評価

期末試験 95%、レポート 5%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　10 巻　適正飼養指導論/動物生活環境学/ペット関連産業概論』（エデュワードプレス）

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

講義後に教科書『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　10 巻　適正飼養指導論/動物生活環境学/ペット関連産業概論』を読み、講義内容と照らし合わせ復習すること。2・7 回目参考：『動物看護の教科書　新訂版　第 6 巻』 緑書房、『犬・猫の気持ちで住まいの工夫　増補改訂版』（彰国社）

担当教員の実務経験

金巻とも子：ペット共生住宅（新築・リノベーション）の設計や、ペット同伴宿泊ホテルの設計・設計監修を行う。
刈屋美和：ドッグトレーナー。家庭犬とその飼い主さんのためのスクールを主宰。出張トレーナーとして各ご家庭で犬だけではなく飼い主さんへの教育も行っている経験を活かし、犬との暮らし方について、生活環境について講義する。

授業科目	国試指定科目　ペット関連産業概論		担当教員	越村　義雄
科目英名	Introduction to Companion Animals-related Industry			
開講期間	3 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

1.　ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む。）

1）責任と社会的役割を理解する（職業倫理）

2）商取引における関連法規の概要について理解する

3）動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法について理解する

2.　ペットの飼養実態と市場規模

1）ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要・市場規模について理解する

3.　各ペット関連産業の現状と課題

1）ペットフード、ペット用品、ペット関連サービス（生体分野、美容・ヘルスケア分野、レクリエーション・観光分野、葬儀・霊園分野、獣医療分野、ペット共生住宅・マンション分野など）の現状と課題を理解する。

4.　動物取扱業

1）動物取扱業制度の概要について理解する

2）動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係る手法について理解する

授業概要

ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。

授業科目	国試指定科目　ペット関連産業概論		担当教員	越村　義雄
科目英名	Introduction to Companion Animals-related Industry			
開講期間	3 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

ペット関連産業においては、多種多様なモノ、サービスそして情報が生産され、使用されている。生産の種類をバラバラの状態でその性質を理解するよりは、ある基準（例えば生産工程や技術等）にしたがって分類し整理した方が明確に特長を見つけることが出来る。同様に働く労働の特性（職務）も作業に違いがあり分類した方が分かりやすい。産業の構造的特性の理解。また、この学科で対象とするいわゆる「ペット関連産業」もどのような産業的特長（外部要因、市場規模、開発、生産、マーケティング、流通など）を有するか、産業全体の中で理解する。

授業概要

ペット関連産業においては、多くの国内外の団体、企業、奉仕団体、個人グループなどの組織があり産業の構造を形成している。まず、産業について、産業大・中分類からその構造的変化と特長を述べる。次に職種（職業）の分類を述べ、両者の違いを明確にする。次に、全産業・業種の中でいわゆる「ペット関連産業」の市場規模や流通経路の特長、最後に日本の産業と「ペット関連産業」の歴史的、文化的特長と将来性について述べる。

授業計画

1　全体的且つ広義な講義の進め方と参考書の説明。現在のペット関連産業が抱えている諸問題の解説
2　広義の産業とは何か、企業（経営目的、社会的責任、技術など）とは何か、サービスとは何か
3　産業分類とは何か。分類で何が明らかになるのか
4　産業構成の変化（生産、労働力など）の方向を国内外の発展の中で捉え、将来性を考える(1)
5　リーディングインダストリーの出現やIT革新の方向は、我々の生活に役に立つのか(2)
6　生産から販売に至る事業体の業種分類と分類の範囲の変化（6 次産業化）
7　職種（職業）はどのように分類されているのか(1)
8　職種（職業）の変化から女性の職種（職業）の変化を観察し、女性の社会参加の意味を探る(2)
9　今までの学習内容の理解を確認する（理解度テスト）
10　「ペット関連産業」の定義・範囲（観光産業との比較）
11　「ペット関連産業」の市場規模、流通形態等
12　「コンパニオンアニマル」との共生の大切さとコンパニオンアニマルと人口減少、少子・高齢化問題
13　「ペット関連産業」の発展および変化の動向・ワンヘルスの取り組み
14　日本の産業の文化的要素と「ペット関連産業」の同要素との比較・検討、リスクマネジメントの理解
15　まとめ（全講義の復習とペット関連産業に対する理解度を確認する）

履修上の注意

ほぼ毎回、資料を配付し説明する。次回に続くことがあるので、配布資料は必ず持参。また、必ずノートを取ること。質問時間を設けるので、大いに活用すること。

成績評価

中間での理解度テスト 30%、質疑応答又はレポート提出約 10%、最終試験の成績約 60%によって総合評価する。

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

特に指定しない

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

『人とペットの赤い糸』学研プラス　越村義雄　著
一般社団法人ペットフード協会　全国犬猫飼育実態調査（ペットフード協会ホームページを参照）

担当教員の実務経験

40 年以上の国内外におけるペット関連産業での実務経験をもとに講義する。

授業科目	動物看護学総合（国家試験対策講座）		担当教員	橋本　直子/藤波　由香/竹尾　恵 梅田　麻実/八田　彩/菅尾　玲奈 渡辺　彩希/菅　直子 伊藤　真紀/嶋田　三耶子
科目英名	Comprehensive Veterinary Nursing			
開講期間	3 学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　講義	

到達目標

愛玩動物看護師国家試験に向けた動物看護の総合的な学習をし、国家試験の合格を目標とする。

授業概要

愛玩動物看護師国家試験出題基準に応じた内容を学ぶ。

授業計画

1　模擬試験①
2　模擬試験②
3　模擬試験③
4　模擬試験④
5　細胞/病理
6　循環器（形態/機能/病気/検査）
7　消化器（形態/機能/病気/検査）
8　内分泌・呼吸器（形態/機能/病気/検査）
9　泌尿器（形態/機能/病気/検査）
10　感覚器（皮膚・眼・耳など）（形態/機能/病気/検査）
11　血液・造血器（形態/機能/病気/検査）・免疫
12　生殖器・繁殖（形態/機能/病気/検査）
13　脳神経（形態/機能/病
14　運動器（形態/機能/病気/検査）
15　ワクチン（プログラム/病気）
16　検査
17　愛玩動物学
18　適正飼養
19　行動学
20　微生物・消毒と滅菌・人獣共通感染症
21　外科①（術前準備と器具）
22　外科②（術中（麻酔・モニター等）、術後）
23　栄養
24　法律①
25　法律②
26　エキゾ
27　比較動物学
28　薬理学
29　寄生虫（内部寄生虫・外部寄生虫）
30　救命救急・検査機器(エコー・レントゲンなど)

履修上の注意
出席率 80％未満では科目取得できないため、注意すること。 模擬試験の結果により授業回数を追加する場合もある（掲示板およびメール等にて告知をする）。 授業中の態度※1も評価に含み、場合により欠席とすることもある。 ※1授業中の態度…他の科目や授業とは関係のない課題を行う、スマートフォンの操作などをする、私語などにより授業の妨げになる行為をする、寝ていて授業に参加していない等
成績評価
期末試験：45％、模擬試験①②成績：40％、課題レポート：15％
教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの
特になし　適宜プリント配布
事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）
講義内で配布されたプリントの復習や過去に実施した模擬試験の復習を行い、模擬試験に備えること 参考書：『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　全巻』（エデュワードプレス） 参考書：『愛玩動物看護師国家試験　完全対策問題集』（エデュワードプレス） 参考書：『愛玩動物看護師国家試験対策　楽しく学べる参考書』（エデュワードプレス） 参考書：『愛玩動物看護師国家試験　完全攻略！　問題&解説集』（緑書房）
担当教員の実務経験
八田彩：愛玩動物看護師。動物病院勤務の経験を活かし講義を行う。

授業科目	国試指定科目　動物形態機能学実習		担当教員	橋本　直子/藤波　由香/竹尾　恵 梅田　麻実/八田　彩 菅尾　玲奈/渡辺　彩希
科目英名	Practice of Animal Anatomy and Physiology			
開講期間	1学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習	

到達目標

1．運動器

1)骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する

2)代表的な関節の名称と構造、機能について理解する

3)代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する

2．内臓器官

1)模型などを用いて、主要な内臓器官の配置について理解する

2)生殖器の雌雄差について理解する

3．顕微鏡の取扱い

1)顕微鏡各部位の名称、鏡検条件(倍率など)について理解する

2)顕微鏡の適切な操作法について修得する

3)顕微鏡の適切な管理法について修得する

4．組織像の観察

1)主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する

2)組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する

授業概要

動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。

授業科目	国試指定科目　動物形態機能学実習		担当教員	橋本　直子/藤波　由香/竹尾　恵 梅田　麻実/八田　彩 菅尾　玲奈/渡辺　彩希
科目英名	Practice of Animal Anatomy and Physiology			
開講期間	1 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習	

到達目標

講義科目「動物形態機能学Ⅰ」にて学修した組織・器官及び体の構造や機能に関して、観察と実験を通じて具体的に体験し理解することを目標とする。

授業概要

動物の身体の形態と機能を、骨格標本や筋肉模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。

授業計画

1　犬の体表解剖学・生殖器
2　犬の骨格に関する実習
3　犬の関節に関する実習
4　犬の筋肉に関する実習
5　顕微鏡の使い方、組織像の観察1
6　組織像の観察2
7　組織像の観察3
8　内臓に関する実習

履修上の注意

出席率 80%未満では科目取得できないため、注意すること。授業中の態度※1も評価に含み、場合によっては欠席とすることもある。

※1授業中の態度…他の科目や授業とは関係のない課題を行う、スマートフォンの操作などをする、私語などにより授業の妨げになる行為をする、寝ていて授業に参加していない等

成績評価

授業内での小テスト及び課題提出など:100%

教科書(授業必携本)／　毎回持参するもの

看護実習と同様の服装(ユニフォーム、エプロン、上履き)、色鉛筆(12 色程度あれば良い)、手拭きタオル、
消毒用アルコール、綿花、アルコール綿花用容器
＊各回の持ち物は別途、配布プリント参照

事前・事後学修(予習・復習)の内容　／　参考書(自主的な学習用)

講義科目「動物形態機能学Ⅰ」の講義内容を復習して臨むこと
参考書:『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1 巻　動物形態機能学　動物繁殖学』(エデュワードプレス)

担当教員の実務経験

八田彩:愛玩動物看護師。動物病院勤務の経験を活かし講義および実習を行う。

授業科目	国試指定科目　動物内科看護学実習		担当教員	橋本　直子/藤波　由香/竹尾　恵 梅田　麻実/八田　彩 菅尾　玲奈/渡辺　彩希
科目英名	Practice of Veterinary Medical Nursing			
開講期間	1学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習	

到達目標

1．身体検査

1）全身状態（意識レベル、ボディコンディションスコア、粘膜色、浅在リンパ節、体重測定を含む。）を評価できる

2）バイタルサインを評価できる（体温、脈拍数、呼吸数、毛細血管再充満時間（CRT）、股動脈圧）

2．診察補助

1）診察の準備や診察室の衛生管理ができる

2）基本的な保定を実施することができる

3）聴診器や体温計、注射器を適切に取り扱うことができる

4）採血・採尿（尿カテーテルの挿入を含む。）の手順を習得している

5）薬剤の取扱い、経口投与・注射の手順を習得している

3．輸液・輸血に関わる技術

1）留置針設置の手順を修得し、準備及び補助ができる

2）輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できる

3）輸液・輸血中の動物を管理できる

4．マイクロチップに関わる技術

1）マイクロチップの適切な挿入部位について理解する

2）マイクロチップ装着手順を習得している

5．生体検査

1）心電図検査を実施し、結果を記録できる

2）X線撮影のための基本的な保定ができる

3）放射線防護のための装備を正しく扱える

4）超音波検査のための基本的な保定ができる

5）神経学的検査の所見を記録できる

6）眼科検査（シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など）の補助ができる

7）皮膚検査（掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査など）の補助ができる

8）外耳道検査の補助ができる

授業概要

内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。

授業科目	国試指定科目　動物内科看護学実習		担当教員	橋本　直子/藤波　由香/竹尾　恵 梅田　麻実/八田　彩 菅尾　玲奈/渡辺　彩希
科目英名	Practice of Veterinary Medical Nursing			
開講期間	1 学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習	

到達目標

講義科目「動物内科看護学Ⅰ（基礎）」と並行して実施し、犬の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物看護学で学んだ知識の実践力を修得することを目標とする。

授業概要

内科診療に必要な手技など、動物看護学で学んだ基礎的な知識の実践力を修得することを目指し、基本的な犬の扱い方、保定法、一般身体検査、消毒法、投薬法、注射などについて実習を行う。

授業計画

1　オリエンテーション：実習の注意事項、実習器具の扱い方、動物病院での業務
2　消毒薬の扱い方：消毒薬の種類や使用方法
3　簡単な保定：犬の扱い方、立位、座位などの基本的な保定、口輪やエリザベスカラーを用いた保定
4　診察時の保定　1：基本的な診察時の保定
5　一般身体検査　望診、バイタルサイン（体温、脈拍、呼吸、血圧）
6　一般身体検査　頭部、眼、鼻
7　一般身体検査　耳、耳の手入れ
8　一般身体検査　口腔内、歯、可視粘膜（CRT）
9　一般身体検査　一般身体検査復習 1
10　デンタルケア
11　注射　1：シリンジ、注射針、バイアル、アンプルの取り扱い
12　注射　2：注射器具の取り扱いと薬用量計算・実技
13　ワクチネーション：ワクチンの準備、証明書作成、飼い主への説明
14　実技試験　1
15　実技解答
16　一般身体検査　体幹、四肢、歩様
17　一般身体検査　ヘルニア、外部生殖器、肛門周囲
18　一般身体検査　リンパ節、皮膚、脱水
19　一般身体検査　聴診、打診、触診
20　一般身体検査　一般身体検査復習 2
21　投薬法（経口・局所投与法）：薬の投薬方法や注意点
22　投薬法（調剤の補助）1：調剤器具の扱い、調剤の流れ
23　投薬法（調剤の補助）2：薬用量計算と分包
24　調剤、注射復習
25　診察時の保定　2：注射・採血・採尿時の保定
26　妊娠動物・新生子・幼齢動物の看護
27　老齢動物の看護
28　保定法復習
29　総復習
30　実技試験　2

履修上の注意
出席率 80%以上、実技試験・筆記試験における基準点（年度により変動）の取得、長期休暇課題の提出は科目取得のための必須条件となる。授業中の態度※1も評価の対象とし、場合により欠席とすることもある。 ※1授業中の態度…他の科目や授業とは関係のない課題を行う、スマートフォンの操作などをする、私語などにより授業の妨げになる行為をする、寝ていて授業に参加していない等
成績評価
授業参加度（出席状況、授業内小テスト、課題レポート等含む）：50%、実技試験・筆記試験：50%
教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの
実習用ユニフォーム一式、手拭きタオル、消毒用アルコール、綿花、アルコール綿花用容器、動物内科看護学Ⅰ（基礎）および動物内科看護学実習で使用した配布資料、ノート等 ＊各回の持ち物は別途、配布プリント参照
事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）
講義科目「動物内科看護学Ⅰ（基礎）」の内容を実践するため、必ず講義内容を復習して実習に臨むこと。 参考書：『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7 巻　動物内科看護学　動物臨床検査学』（エデュワードプレス） 『新・小動物看護用語辞典』（エデュワードプレス）
担当教員の実務経験
八田彩：愛玩動物看護師。動物病院勤務の経験を活かし講義および実習を行う。

授業科目	動物応用看護学実習		担当教員	橋本　直子/藤波　由香/竹尾　恵 梅田　麻実/八田　彩 菅尾　玲奈/渡辺　彩希
科目英名	Advanved Practice in Veterinary Nursing			
開講期間	2 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目／　実習	

到達目標

講義科目「動物内科看護学Ⅱ（応用）」と並行して実施し、1 年次講義科目「動物内科看護学」および実習科目「動物内科看護学実習」を基礎とし、動物看護に必要な実践的な知識と技術を総括的に修得することを目標とする。

授業概要

輸液管理、各種生体検査、犬猫の保定法、リハビリテーションなどについて実習を行う。

授業計画

1　輸液 1（留置、保定）
2　輸液 2（輸液ポンプ、自然落下）
3　マイクロチップ（マイクロチップの装着手順と手続きについて）
4　X 線検査
5　心電図検査
6　超音波検査
7　猫の扱い方、保定法
8　耳、皮膚の検査
9　眼の検査
10　神経学的検査
11　リハビリテーション
12　エキゾチックアニマルの保定法
13　診察時の保定復習
14　注射・輸液・調剤補助復習
15　実技試験

履修上の注意

講義科目「動物内科看護学Ⅱ（応用）」と並行して実施する科目である。
出席率 80％以上、実技試験における基準点（年度により変動）の取得、長期休暇課題の提出は科目取得のための必須条件となる。授業中の態度※1も評価に含み、場合により欠席とすることもある。
※1授業中の態度…他の科目や授業とは関係のない課題を行う、スマートフォンの操作などをする、私語などにより授業の妨げになる行為をする、寝ていて授業に参加していない等

成績評価

実技試験：60％、課題レポート・授業内小テスト：40％

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

実習用ユニフォーム一式、手拭きタオル、消毒用アルコール、綿花、アルコール綿花用容器、動物内科看護学Ⅱ（応用）および動物応用看護実習での配布資料やノート等

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

講義科目「動物内科看護学Ⅱ（応用）」の内容を実習として行うため、必ず講義内容の復習をして実習に臨むこと
参考書：『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7 巻　動物内科看護学　動物臨床検査学』（エデュワードプレス）
『カラーアトラス　エキゾチックアニマル哺乳類編　第 3 版』（緑書房）
『新・小動物看護用語辞典』（エデュワードプレス）

担当教員の実務経験

八田彩：愛玩動物看護師。動物病院勤務の経験を活かし講義および実習を行う。

授業科目	国試指定科目　動物臨床検査学実習		担当教員	橋本　直子/藤波　由香/竹尾　恵 梅田　麻実/八田　彩 菅尾　玲奈/渡辺　彩希
科目英名	Veterinary Clinical Examination Practice			
開講期間	2 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習	

到達目標

1．検体検査

1）検体採取・処理の手順を習得している

2）マイクロピペットや遠心分離器を正しく操作できる

3）血漿、血清を分離できる

4）血液塗抹標本を作製、染色できる

5）血液塗抹標本を観察し、白血球の百分比を算出できる

6）全血球計算及び血液化学検査を実施できる

7）簡易血清学的検査を実施できる

8）尿検査を実施し、物理化学性状を記録できる

9）尿沈渣を観察し、所見を記録できる

10）糞便検査を実施し、虫卵及び原虫を検出できる

11）細胞診の準備、補助ができる

授業概要

検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。

授業科目	国試指定科目　動物臨床検査学実習		担当教員	橋本　直子/藤波　由香/竹尾　恵 梅田　麻実/八田　彩 菅尾　玲奈/渡辺　彩希
科目英名	Veterinary Clinical Examination Practice			
開講期間	2 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習	

到達目標

動物病院では治療方針の決定や診断のために数多くの検査が行われている。特に生体から得られた材料（検体）を検査することは日常的に行われており、それを行うのは主に愛玩動物看護師である。愛玩動物看護師として獣医療に必要な検査の知識や技術を習得し、さらに外からはわからない変化を数値化することにより、動物の状態を客観的にみる力を身に着ける。検査を行う目的や意義を理解し、基本的な検査手技を身につけ、また、感染性物質の取り扱いに関しても意識づけることを目指す。

授業概要

検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、講義で学んだ知識の実践力を習得する。顕微鏡や検査器具の使い方をはじめ、検体の取り扱い、血液検査、尿検査、糞便検査、耳垢検査といった検体検査の目的や検査方法、基準値との比較などについて段階的に実習を行っていく。

授業計画

1　検査機器と器具の基本操作
2　寄生虫
3　糞便検査
4　血液検査 1:ヘマトクリット管を用いた検査
5　血液検査 2:血液塗抹、血球の形態観察
6　血液検査 3:白血球百分比、網状赤血球
7　血液検査 4:白血球百分比、CBC、生化学
8　血液検査 5:mf、キット、異常血球
9　染色、血液総復習
10　皮膚検査、細胞診
11　耳垢検査
12　尿検査 1:尿検査、尿沈渣検査
13　尿検査 2:尿検査、尿沈渣検査
14　総復習
15　実技試験

履修上の注意

・出席率 80%未満では科目取得できないため、注意すること。また、授業中の態度※1によっては欠席とすることもある。
※1授業中の態度…他の科目や授業とは関係のない課題を行う、スマートフォンの操作をする、私語などにより授業の妨げになる行為をする、寝ていて授業に参加していない　等
・感染物質を取り扱う為、衛生面に気を使いながら実習を行うこと。

成績評価

提出物（授業内テスト、課題等含む）70%、実技試験 30%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

「動物臨床検査学」講義プリント、ユニフォーム一式、手拭きタオル、アルコール綿花、筆記用具
＊各回の持ち物など、詳細は配布プリント参照

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

講義科目「動物臨床検査学」の講義内容を復習して臨むこと
参考書:愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　7 巻　動物内科看護学　動物臨床検査学（エデュワードプレス）

担当教員の実務経験

八田彩:愛玩動物看護師。動物病院勤務の経験を活かし講義および実習を行う。

授業科目	国試指定科目　動物外科看護学実習		担当教員	橋本　直子/藤波　由香/竹尾　恵 梅田　麻実/八田　彩 菅尾　玲奈/渡辺　彩希
科目英名	Practice of Veterinary Surgical Nursing			
開講期間	2 学年　通年　必修 3 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習	

到達目標

1. 術前準備
1)手術器具の準備、滅菌ができる
2)手術衣、タオル・ドレープ類を準備し滅菌できる
3)手術に必要な機器、器械台を準備できる
4)手術台への動物の固定、術野の消毒ができる
5)手洗い、手術衣や手袋の装着ができる
2. 術中補助
1)麻酔器の各部名称や使用法を理解し、指示に従って操作できる
2)モニター機器(心電図、血圧計など)を接続でき、術中監視を行うことができる
3)麻酔記録を作成することができる
4)直接補助(器械の受渡しなど)ができる
5)間接補助(無影灯、保温マットの操作など)ができる
6)歯科器具の取扱いを理解し、歯科処置(歯石除去など)の補助ができる
3. 術後管理
1)術後の創傷管理(ネット、カラー装着などを含む。)ができる
2)動物に包帯(粘着性、自着性など)を装着できる
3)抜糸の補助ができる
4. 救急救命
1)必要な機材、薬剤を迅速に準備できる
2)気管挿管を補助できる
3)心肺蘇生(人工呼吸、心マッサージ)の手順を習得している

授業概要

手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。

授業科目	国試指定科目　動物外科看護学実習Ⅰ		担当教員	橋本　直子/藤波　由香/竹尾　恵 梅田　麻実/八田　彩 菅尾　玲奈/渡辺　彩希
科目英名	Practice of Veterinary Surgical Nursing Ⅰ			
開講期間	2 学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習	

到達目標

小動物の外科診療や外科手術に関わる基礎的知識や技術の修得を目標とする。

授業概要

手術器具や機器、術前準備、消毒法、滅菌操作、麻酔器や電気メスの扱い方、輸液管理、術後管理や予防歯科処置などについて実習を行う。

授業計画

1　外科手術準備 1:小動物用一般外科器具の扱い方、準備 1
2　外科手術準備 2:小動物用一般外科器具の扱い方、準備 2
3　外科手術準備 3:外科手術用リネン類の準備(ドレープ、ガウン等のたたみ方、滅菌準備など)
4　外科手術準備 4:手洗い、キャップ、マスク、ガウン、グローブ装着
5　外科手術準備 5:動物の準備(毛刈り、消毒、ドレーピング)
6　外科手術準備 6:気道確保、気管挿管、麻酔方法、麻酔薬の理解
7　外科手術準備 7:麻酔器、電気メスの扱い方
8　術中管理:術中補助(直接、間接)
9　術後管理:術後動物の看護
10　包帯法 1
11　包帯法 2
12　歯科処置 1:歯科衛生、ハンドスケーリング
13　歯科処置 2:超音波スケーラー、歯科ユニット
14　総復習:外科関連、注射、輸液など総合的な復習
15　実技試験

履修上の注意

出席率 80%以上、実技試験および筆記試験における基準点(年度により変動)の取得は科目取得のための必須条件となる。授業中の態度※1も評価に含み、場合により欠席とすることもある。

※1授業中の態度…他の科目や授業とは関係のない課題を行う、スマートフォンの操作などをする、私語などにより授業の妨げになる行為をする、寝ていて授業に参加していない等

成績評価

実技試験:45%、筆記試験:45%、授業内小テストおよび課題レポート:10%

教科書(授業必携本)／　毎回持参するもの

実習用ユニフォーム一式、手拭きタオル、消毒用アルコール、綿花、アルコール綿花用容器、動物外科看護学実習Ⅰで使用した配布資料、ノート等

事前・事後学修(予習・復習)の内容　／　参考書(自主的な学習用)

参考書:『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8 巻　動物栄養学　動物外科看護学　動物医療コミュニケーション』(エデュワードプレス)

担当教員の実務経験

八田彩:愛玩動物看護師。動物病院勤務の経験を活かし講義および実習を行う。

授業科目	国試指定科目　動物外科看護学実習Ⅱ		担当教員	橋本　直子/藤波　由香/竹尾　恵 梅田　麻実/八田　彩 菅尾　玲奈/渡辺　彩希
科目英名	Practice of Veterinary Surgical NursingⅡ			
開講期間	3 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習	

到達目標

「動物外科看護学実習Ⅰ」を基礎とし、小動物の外科診療や外科手術に関わる知識や技術の修得を目標とする。

授業概要

縫合や術中のモニタリング、外科疾患別の看護、救急看護などについて実習を行う。

授業計画

1　外科手術準備 1:縫合材料、縫合方法
2　外科手術準備 2:復習(外科手術の流れと輸液管理復習)
3　術中管理:術中記録(生体モニター、モニタリング)
4　外科疾患の看護 1:骨折など整形外科疾患の治療と看護
5　外科疾患の看護 2:骨折など整形外科疾患の治療と看護
6　外科疾患の看護 3:骨折など整形外科疾患の治療と看護
7　救急看護:救急トリアージ(来院・電話対応)・心肺蘇生(胸部圧迫・人工呼吸)
8　総復習・実技チェック

履修上の注意

出席率 80%以上、実技チェックおよび筆記試験における基準点(年度により変動)の取得は科目取得のための必須条件となる。授業中の態度※1も評価に含み、場合により欠席とすることもある。

※1授業中の態度…他の科目や授業とは関係のない課題を行う、スマートフォンの操作などをする、私語などにより授業の妨げになる行為をする、寝ていて授業に参加していない等

成績評価

実技試験:50%、授業参加度(出席状況・課題提出・小テスト等):50%

教科書(授業必携本)／　毎回持参するもの

実習用ユニフォーム一式、手拭きタオル、消毒用アルコール、綿花、アルコール綿花用容器、動物外科看護学実習Ⅰ・Ⅱでの配布資料やノート等

事前・事後学修(予習・復習)の内容　／　参考書(自主的な学習用)

参考書:『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8 巻　動物栄養学　動物外科看護学　動物医療コミュニケーション』(エデュワードプレス)

担当教員の実務経験

八田彩:愛玩動物看護師。動物病院勤務の経験を活かし講義および実習を行う。

授業科目	国試指定科目　動物臨床看護学実習		担当教員	橋本　直子/藤波　由香/竹尾　恵 梅田　麻実/八田　彩 菅尾　玲奈/渡辺　彩希
科目英名	Practice of Veterinary Clinical Nursing			
開講期間	3 学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習	

到達目標

動物看護過程や疾患別の看護法など、動物臨床看護学等で学んだ知識の実践力を修得することを目標とする。

授業概要

疾患別の入院動物の看護と対応、栄養管理、犬猫の保定法、各種検査などについて実習を行う。

授業計画

1　入院動物の看護
2　感染性疾患の看護
3　猫の保定法
4　糞便検査
5　尿検査
6　血液検査 1
7　血液検査 2
8　皮膚・耳垢検査
9　リハビリテーション
10　採血・採尿法
11　栄養管理（療法食）
12　X 線検査
13　輸液復習
14　一般身体検査・保定法復習（実技チェック）
15　実技チェック

履修上の注意

出席率 80％以上、授業内での実技チェックにおける基準点（年度により変動）の取得、長期休暇課題の提出は科目取得のための必須条件となる。授業中の態度※1も評価に含み、場合により欠席とすることもある。

※1授業中の態度…他の科目や授業とは関係のない課題を行う、スマートフォンの操作などをする、私語などにより授業の妨げになる行為をする、寝ていて授業に参加していない等

成績評価

実技試験：50％、授業参加度（出席状況・課題提出・小テスト等）：50％

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

実習用ユニフォーム一式、手拭きタオル、消毒用アルコール、綿花、アルコール綿花用容器、動物臨床検査学、動物内科看護学Ⅱ（応用）、動物内科看護学実習、動物応用看護学実習、動物外科看護学実習Ⅰ・Ⅱ、動物臨床検査学実習で使用した各授業に関連する配布資料、ノート等

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

復習実習が多いため、各授業に関連する内容を復習して臨むこと。

参考書：『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7 巻　動物内科看護学　動物臨床検査学』（エデュワードプレス）
『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8 巻　動物栄養学　動物外科看護学　動物医療コミュニケーション』（エデュワードプレス）
『カラーアトラス　エキゾチックアニマル哺乳類編　第 3 版』（緑書房）

担当教員の実務経験

八田彩：愛玩動物看護師。動物病院勤務の経験を活かし講義および実習を行う。

授業科目	国試指定科目　動物愛護・適正飼養実習		担当教員	菅　直子/伊藤　真紀 嶋田　三那子/望月　有紗 寺澤　大河
科目英名	Practice of Animal Welfare and Proper Care			
開講期間	1 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目／　実習	

到達目標

1．動物の基本的な取扱い

1)動物種に応じた安全なハンドリングができる

2)動物を安全に散歩・運動させることができる

3)犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具(首輪、胴輪、リード、おもちゃなど)を選択することができる

4)基本的なグルーミング(シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など)を実施できる

5)動物の飼養環境を適切に整備できる

2．　飼い主とのコミュニケーション

1)犬や猫の品種に応じた特徴について説明できる

2)動物の適切な飼養方法(飼養環境、散歩方法、基本的なしつけなどを含む。)について指導できる

3)飼い主が法令に基づき遵守すべき対応について指導できる

4)動物の飼養が困難となっている飼い主への支援を説明できる

5)避難所等災害時の飼い主への支援を説明できる

3．動物愛護管理行政

1)動物愛護管理センターの活動を理解する(動物愛護管理センターの見学などを含む。)

2)動物取扱業に指導すべき内容について理解する

3)動物取扱業における顧客等への対応について実践することができる

授業概要

動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。

授業科目	国試指定科目　動物愛護・適正飼養実習		担当教員	菅　直子/伊藤　真紀 嶋田　三那子/望月　有紗 寺澤　大河
科目英名	Practice of Animal Welfare and Proper Care			
開講期間	1 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習	

到達目標

愛玩動物の効用や飼育目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解、実践できる。

授業概要

動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、動物愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。

授業計画

1　ハンドリングⅠ（菅）
2　基本的なグルーミングⅠ（望月）
3　飼育環境整備（嶋田）
4　基本的なグルーミングⅡ（伊藤）
5　ハンドリングⅡ（菅）
6　基本的なグルーミングⅢ（寺澤）
7　避難所等災害時の飼い主支援（菅）
8　犬や猫の品種（望月）
9　犬の運動（嶋田）
10　法令に基づく飼い主の遵守すべき対応（伊藤）
11　犬具（嶋田）
12　飼育困難時の飼い主支援（菅）
13　動物愛護センター（寺澤）
14　動物取扱業（嶋田）
15　飼い主とのコミュニケーション（寺澤）

履修上の注意

出席率 80％以上が科目取得の必須条件となる。
各回の持ち物は配布プリント及び 掲示を確認すること。 順番は前後する場合がある。
授業を欠席した場合(動物看護総合実習等を含む)も課題の提出が必要となる。課題の有無は各担当教員に確認すること。

成績評価

授業参加度 100％（出席状況、学習態度、提出物などをもとに総合的に評価する）

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

別途配布プリント参照
その他は掲示、アナウンスする（各回、持ち物、服装、教室が異なるため注意すること）

事前・事後学習（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

特になし

担当教員の実務経験

備考

愛玩動物看護師の学校飼育動物の飼育指導が可能となったため、動物愛護・適正飼養実習とは別に、1 年生の長期休暇を利用して、学園飼育動物（スクールドック、スクールキャット、ヤギ、うさぎ、爬虫類、鳥など）の飼育体験を南大沢キャンパスの飼育施設で実施する。

なお、南大沢キャンパスのスケジュール等は渋谷キャンパスとは異なるため、詳細は別途アナウンスする。

授業科目	国試指定科目　動物看護総合実習		担当教員	橋本　直子/福田　美香 髙柳　信子/有谷　恵美 平岩　沙織
科目英名	Practice of Comprehensive Veterinary Nursing			
開講期間	1 学年　通年　必修 2 学年　通年　必修 3 学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目／ 実習	

到達目標

1.　動物看護業務の理解

1)チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割を理解する

2)動物診療施設を見学し、設備や機能を理解する

3)愛玩動物を適正に管理する方法について理解する

2.　動物看護業務の体験

1)診察室における獣医療補助行為を体験する

2)各種検査や処置、外科手術の補助を体験する

3)入院動物の看護を体験する

4)飼い主との適切なコミュニケーションを体験する

3.　動物看護業務の実践

1)実際の動物診療施設で、診察室における診療の補助を実践する

2)スタッフと連携協働し、チーム獣医療を実践する

3)動物看護計画を立案し、実践する

4)飼い主に対し適正飼養及び療養生活の指導を実践する

授業概要

実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。

授業科目	国試指定科目　動物看護総合実習Ⅰ		担当教員	髙柳　信子/有谷　恵美 平岩　沙織/橋本　直子
科目英名	Practice of Comprehensive Veterinary Nursing Ⅰ			
開講期間	1 学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習	

到達目標

愛玩動物看護師の役割や動物診療施設の設備や機能、愛玩動物を適正に管理する方法を理解し、キャンパス内に併設されているコンパニオン・アニマル・センターにおいて、1 日の業務の流れ、動物の扱い方や衛生管理等を体験、実践を通じて実務能力を修得する。

授業概要

コンパニオン・アニマル・センターにおいて、動物看護業務に参加し、施設の概要や機能、獣医師との連携、飼主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任などを理解し、今後の研修および就職活動に役立てる。

授業計画

事前学習 1
事前学習 2
事前学習 3
コンパニオン・アニマル・センターにて実習
事後学習

履修上の注意

研修中は受け身ではなく自ら進んで行動するよう心がけること。日程は毎月掲示にて発表。
日程は毎月掲示にて発表されるため、確認を怠らないこと。授業と重なる場合は総合実習を優先させること。
研修は長期休暇中も実施される。欠席した場合、基本的に振替は行わないので注意すること。

成績評価

実習参加状況 50%、レポート 50%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

各自掲示を確認すること

事前・事後学習（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

【事前学習】 あいさつ・言葉遣い・身だしなみの基本を確認し、研修生としての立ち振る舞い等を説明する。また、検査や衛生管理、消毒方法等、想定される内容の確認を行う。
【事後学習】コンパニオン・アニマル・センターでの研修内容を基に 2 年次の研修に向け総合的な学習を行う。

担当教員の実務経験

髙柳信子：獣医師。動物看護総合実習Ⅰ　においてグルーミングサロン併設の動物病院勤務中の臨床経験を活かし
獣医師の立場から動物病院とグルーミングサロンの関係と双方の重要性について実践的指導を行う。
有谷恵美：動物看護総合実習Ⅰにおいてグルーミングサロン併設動物病院勤務中の経験を活かし
動物病院における動物看護師の業務内容や役割について実践的指導を行う。
平岩沙織：動物看護総合実習Ⅰにおいて動物病院併設グルーミングサロン勤務中の経験を活かし
動物美容師の業務内容や役割について実践的指導を行う。

授業科目	国試指定科目　動物看護総合実習Ⅱ	担当教員	橋本　直子 福田　美香
科目英名	Practice of Comprehensive Veterinary NursingⅡ		
開講期間	2 学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習

到達目標

愛玩動物看護師の役割や動物診療施設の設備や機能、愛玩動物を適正に管理する方法を理解し、動物診療施設において動物看護業務を体験し、診療補助やチーム獣医療について理解を深めることを目標とする。

授業概要

実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。

授業計画

事前学習 1
事前学習 2
事前学習 3
事前学習 4
動物病院実習
事後学習

履修上の注意

事前学習、動物病院実習、事後学習のすべてに出席すること。
事前学習内で実施する試験に合格した者のみ、動物病院での実習が可能となる。
動物病院実習は、全日程出席しない場合、課題未提出の場合は科目不合格となる。
実習中は実習先の指示に従い、積極的に学ぶこと。

成績評価

出席状況 50%、課題 50%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

筆記用具、ノート等

事前学習　研修の目的、研修概要、諸注意

【事前学習】
実習の目的、アポイントメントの取り方、ほうれんそうの徹底、お礼状の書き方等を学び、実習での心構えを学び、2 年後の就職を目指して動物病院について理解を深める。動物病院での実習に必要な知識を確実に身につける。
【動物病院実習】
6 日間動物病院で実習を行い、動物看護業務等を体験し、診療補助やチーム獣医療について理解を深める。
【事後学習】
実習で学んだことを共有し、今後自分が学ぶべきことを把握する。

担当教員の実務経験

授業科目	国試指定科目　動物看護総合実習Ⅲ	担当教員	橋本　直子／伊藤　真紀 佐藤　恵子／福田　美香
科目英名	Practice of Comprehensive Veterinary NursingⅢ		
開講期間	3 学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習

到達目標

愛玩動物看護師の役割や動物診療施設の設備や機能、愛玩動物を適正に管理する方法を理解し、動物診療施設において動物看護業務を体験し、診療補助やチーム獣医療、動物看護計画の立案、飼い主指導の実践を通じて実務能力を修得する。

授業概要

実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。

授業計画

事前学習1
事前学習2
事前学習3
事前学習4
動物病院研修
事後学習

履修上の注意

事前学習、動物病院研修、事後学習のすべてに出席すること。
事前学習内で実施する試験に合格した者のみ、動物病院での研修が可能となる。
動物病院研修は、全日程出席しない場合、課題未提出の場合は科目不合格となる。
研修中は研修先の指示に従い、積極的に学ぶこと。

成績評価

出席状況 50%、課題 50%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

筆記用具、ノート等

事前学習　研修の目的、研修概要、諸注意

【事前学習】
研修目的や注意事項の確認、研修する動物病院について理解を深める。
【動物病院研修】
6 日間動物病院で研修を行い、動物看護業務等を実践する。
【事後学習】
研修で学んだことを共有し、今後自分が学ぶべきことを把握する。

担当教員の実務経験

授業科目	コンパニオンアニマルケア実習Ⅰ（基礎）		担当教員	伊藤　真紀/望月　有紗 寺澤　大河/高野　八重子 津田　順子
科目英名	Practice of Companion Animal Care Ⅰ (Basic)			
開講期間	1 学年　後期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習	

到達目標

コンパニオンアニマルケアの基礎を学び、回数を重ねることで犬の扱い方・保定法、コンパニオンアニマルケアについての理解を深めることを目標とする。
愛玩動物看護師として身に付けるべき猫の扱い方、保定、グルーミング等の修得を目標とする。

授業概要

コンパニオンアニマルケアの流れを学ぶ。
コンパニオンアニマルケアの必要性を理解し、イヌの扱い方に伴う技術と知識の基礎を習得する。
愛玩動物看護師や動物関連の職業に就職した際、難しい猫の扱い方をグルーミングを通して修得する。

授業計画

1　オリエンテーション　コンパニオンアニマルケア実習を行う心得やルール、実習の流れについて学ぶ
2　コンパニオンアニマルケア①　練習実習　　実習の流れや器具の使用法を、マヌカン犬を使用し学ぶ
3　グルーミングにおける犬の扱い方について
4　コンパニオンアニマルケア②　基礎実習　　練習実習で学んだことを生かし、モデル犬で器具の使用方法を学ぶ
5　コンパニオンアニマルケア③　基礎実習　　ブラッシングまでの流れを理解し、モデル犬のグルーミングを行う
6　コンパニオンアニマルケア④　基礎実習　　ドライングまでの流れを理解し、モデル犬のグルーミングを行う
7　コンパニオンアニマルケア⑤　実習の流れを理解し、モデル犬のグルーミングを行う
8　コンパニオンアニマルケア⑥　実習の流れを理解し、モデル犬のグルーミングを行う
9　コンパニオンアニマルケア⑦　実習の流れを理解し、モデル犬のグルーミングを行う
10　コンパニオンアニマルケア⑧　実習の流れを理解し、モデル犬のグルーミングを行う
11　コンパニオンアニマルケア⑨　実習の流れを理解し、モデル犬のグルーミングを行う
12　コンパニオンアニマルケア⑩　実習の流れを理解し、モデル犬のグルーミングを行う
13　コンパニオンアニマルケア⑪　実習の流れを理解し、モデル犬のグルーミングを行う
14　猫グルーミングの必要性と扱い方、日常の手入れ、保定（高野・津田）
15　猫グルーミング実習（高野・津田）

履修上の注意

猫アレルギーの場合は事前に申告すること。授業の順番は変更になる場合がある。
実技チェックは随時行う。
出席率 80％以上、実技試験及び筆記試験における基準点（年度により変動）の取得は科目取得の必須条件となる。

成績評価

出席率 30％　授業参加度 60％（学習態度、実技チェック、筆記試験などをもとに評価）　提出物 10％

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

グルーミングノート、犬具一式、実習用ユニフォーム一式、手拭きタオル、不織布マスク、筆記用具
授業内容によって変更になる場合は掲示にて連絡
14 回目：『新しい猫の教科書』、15 回目：実習用ユニフォーム一式、コーム、ドライヤー

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

必要事項や学んだことはグルーミングノートに書き込むこと
配布されたプリントはファイリングしておくこと
14 回目：『新しい猫の教科書』 P.148　グルーミングについて予習すること
15 回目：14 回目の授業内容を復習しておくこと

担当教員の実務経験

高野八重子：ネコの専門家。猫のグルーミングについて実践的な指導を行う。
津田順子：猫の専門家。キャットショーへの長年の出陳、グルーミング経験あり。

授業科目	コンパニオンアニマルケア実習Ⅱ（応用）		担当教員	伊藤　真紀/望月　有紗 寺澤　大河/早田　由貴子 大髙　千恵子
科目英名	Practice of Companion Animal Care Ⅱ (Advance)			
開講期間	2 学年　通年　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習	

到達目標

コンパニオンアニマルケアの実習回数を重ねることで基礎を強化することを目標とする。

授業概要

コンパニオンアニマルケアの基本、犬の扱い方に伴う技術と知識の基礎の強化を図る。
動物病院や動物関連施設に就職した際に、難しい猫の扱い方についてグルーミングを通して習得する。

授業計画

1　クリッピングについて
2　トリミングテクニック
3　マヌカン犬　四肢のカット
4　マヌカン犬　顔のカット
5　半日実習　道具の扱い方、犬の保定、グルーミングの流れを理解し、モデル犬のグルーミングを行う
6　半日実習　道具の扱い方、犬の保定、グルーミングの流れを理解し、モデル犬のグルーミングを行う
7　半日実習　道具の扱い方、犬の保定、グルーミングの流れを理解し、モデル犬のグルーミングを行う
8　半日実習　道具の扱い方、犬の保定、グルーミングの流れを理解し、モデル犬のグルーミングを行う
9　半日実習　道具の扱い方、犬の保定、グルーミングの流れを理解し、モデル犬のグルーミングを行う
10　半日実習　時間短縮を考え、モデル犬のグルーミングを行う
11　半日実習　時間短縮を考え、モデル犬のグルーミングを行う
12　半日実習　時間短縮を考え、モデル犬のグルーミングを行う
13　半日実習　時間短縮を考え、モデル犬のグルーミングを行う
14　半日実習　時間短縮を考え、モデル犬のグルーミングを行う
15　半日実習　時間短縮を考え、モデル犬のグルーミングを行う
16　半日実習　時間短縮を考え、モデル犬のグルーミングを行う
17　半日実習　時間短縮を考え、モデル犬のグルーミングを行う
18　半日実習　時間短縮を考え、モデル犬のグルーミングを行う
19　半日実習　時間短縮を考え、モデル犬のグルーミングを行う
20　半日実習　時間短縮を考え、モデル犬のグルーミングを行う
21　半日実習　時間短縮を考え、モデル犬のグルーミングを行う（クラスの 1/4 は実技チェック）
22　半日実習　時間短縮を考え、モデル犬のグルーミングを行う（クラスの 1/4 は実技チェック）
23　半日実習　時間短縮を考え、モデル犬のグルーミングを行う（クラスの 1/4 は実技チェック）
24　半日実習　時間短縮を考え、モデル犬のグルーミングを行う（クラスの 1/4 は実技チェック）
25　筆記試験
26　ドッグショーについて（講義）
27　ドッグショー見学
28　ドッグショー見学
29　猫のグルーミング（早田・大髙）
30　猫のグルーミング（早田・大髙）

履修上の注意

猫アレルギーで実習に参加できない場合は事前に申告すること。
授業の順番は変更になる場合がある。持ち物や教室が変更になる場合は、掲示にて連絡する
出席率 80％以上、実技チェック及び筆記試験における基準点（年度により変動）の取得は科目取得の必須条件となる。

成績評価
出席率 30%　授業参加度 60%（学習態度、実技チェック、筆記試験などをもとに評価）　提出物 10%
教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの
グルーミングノート、犬具一式、CAC 実習用ユニフォーム一式、手拭きタオル、ボード、筆記用具、不織布マスク 3・4 回目：上記に追加してウィッグすべてを持ってくること
事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）
必要事項や学んだことを積極的にグルーミングノートに書き込むこと。犬種の理解に努めること。 29、30 回目：猫のグルーミングについて復習
担当教員の実務経験
早田　由貴子：獣医師。マウントフジキャットクラブ理事。CFA 国際公認オールブリード審査員などの経験を活かし、猫のグルーミングについて実践的な指導を行う。 大髙　千恵子：TOKYO MID TOWN　CAT CLUB セクレタリー、CFA Scotish Fold Breed Coucil Member、CFA のキャットショー参加やスコティッシュフォールドの繁殖をはじめて 35 年、猫のシャンプーやショーグルーミングをアメリカのブリーダーの元で勉強したことを活かして指導を行う。

授業科目	コンパニオンアニマルケア実習Ⅲ（総合）		担当教員	伊藤　真紀/望月　有紗 寺澤　大河
科目英名	Practice of Companion Animal Care Ⅲ			
開講期間	2 学年　前期　必修	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習	

到達目標

その個体にあったコンパニオンアニマルケアができるよう応用力を身につけることを目標とする。

授業概要

その個体の飼育環境や年齢を考慮したケアを習得する。

授業計画

1　コンパニオンアニマルケア①　モデル犬に合わせたグルーミングを行う
2　コンパニオンアニマルケア②　モデル犬に合わせたグルーミングを行う
3　コンパニオンアニマルケア③　モデル犬に合わせたグルーミングを行う
4　コンパニオンアニマルケア④　モデル犬に合わせたグルーミングを行う
5　コンパニオンアニマルケア⑤　モデル犬に合わせたグルーミングを行う
6　コンパニオンアニマルケア⑥　モデル犬に合わせたグルーミングを行う
7　コンパニオンアニマルケア⑦　モデル犬に合わせたグルーミングを行う
8　コンパニオンアニマルケア⑧　モデル犬に合わせたグルーミングを行う

履修上の注意

出席率 80%以上が科目取得の必須条件となる。すべての実習終了後、レポート課題を課す

成績評価

出席率 40%　授業参加度 30%（学習態度などをもとに評価）　提出物 30%

教科書（授業必携本）／　毎回持参するもの

グルーミングノート、犬具一式、実習用ユニフォーム一式、手拭きタオル、ボード、筆記用具、不織布マスク

事前・事後学修（予習・復習）の内容　／　参考書（自主的な学習用）

必要事項や学んだことを積極的にグルーミングノートに書き込むこと。犬種の理解に努めること。

担当教員の実務経験

授業科目	ドッグトレーニング実習Ⅰ(基礎)		担当教員	菅 直子 嶋田 三那子
科目英名	Practical Training of Companion Dog Ⅰ (Basic)			
開講期間	1 学年 前期 必修	科目区分／形式	専門教育科目 ／ 実習	

到達目標

犬の行動を適切に理解し、飼い主と愛犬のコミュニケーションに役立つ知識を得る。

授業概要

家庭犬育成に必要な知識と技術を学ぶ。

体罰や強制的な方法を用いらずに、行動の原理に基づいたトレーニング、ハンドリング技術を学ぶ。

授業計画

1 施設説明(嶋田)
2 犬を知る①(菅)
3 行動と学習①(嶋田)
4 行動と学習②(菅)
5 行動と学習③(嶋田)
6 行動と学習④(菅)
7 犬を知る②(嶋田)
8 犬を知る③(菅)
9 犬を知る④(嶋田)
10 犬を知る⑤(菅)
11 犬を知る⑥(嶋田)
12 行動と学習⑤(菅)
13 復習(嶋田)
14 実技試験(菅)
15 弱点の克服(嶋田)

履修上の注意

出席率 80%以上が科目取得の必須条件となる。

モデル犬を扱うので、身だしなみには十分注意すること。

成績評価

授業参加度 100%(学習態度、実技試験、提出物などをもとに総合的に評価する)

教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの

ジャンパー、服装チェック表(毎回持参し提出)、14 回目はクリップボード持参。その他は適宜指示する。

事前・事後学修(予習・復習)の内容 ／ 参考書(自主的な学習用)

ドッグトレーニング論での配付プリント

担当教員の実務経験

授業科目	ドッグトレーニング実習Ⅱ(応用)		担当教員	菅 直子 嶋田 三那子
科目英名	Practical Training of Companion DogⅡ (Advance)			
開講期間	2 学年 通年 必修	科目区分／形式	専門教育科目 ／ 実習	

到達目標

管理とトレーニング、環境設定と犬の行動の関りを理解し、高い臨床能力を身につける。

授業概要

1 年次に学んだ基礎の知識をより細分化し、行動の観察、記録、検証の重要性を学ぶ。
生得的行動、習得的行動など、犬の行動と学習をより深く学ぶ。

授業計画

1 観察と記録(菅)
2 問題行動の予防①(嶋田)
3 問題行動の予防②(菅)
4 問題行動の予防③(嶋田)
5 ハンドリング①(菅)
6 ハンドリング②(嶋田)
7 ハンドリング③(菅)
8 ハンドリング④(嶋田)
9 行動と学習①(菅)
10 行動と学習②(嶋田)
11 行動と学習③(菅)
12 行動と学習④(嶋田)
13 行動と学習⑤(菅)
14 行動と学習⑥(嶋田)
15 行動と学習⑦(菅)
16 行動と学習⑧(嶋田)
17 行動と学習⑨(菅)
18 行動と学習⑩(嶋田)
19 行動と学習⑪(菅)
20 行動と学習⑫(嶋田)
21 復習(菅)
22 実技試験(嶋田)
23 弱点の克服(菅)

履修上の注意

出席率 80%以上が科目取得の必須条件となる。モデル犬を扱うので、身だしなみには十分注意すること。

成績評価

授業参加度 100%(学習態度、実技試験、提出物などをもとに総合的に評価する)

教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの

ジャンパー、服装チェック表(毎回持参し提出)、22 回目はクリップボード持参。その他は適宜指示する。

事前・事後学修(予習・復習)の内容 ／ 参考書(自主的な学習用)

1 年次に使用したトレーニング論の配布プリント一式

担当教員の実務経験

授業科目	動物看護実習(動物看護コース)		担当教員	橋本　直子/藤波　由香/梅田　麻実 菅尾　玲奈/渡辺　彩希/井上　留美
科目英名	Practice in Animal Health Technology			
開講期間	3 学年　前期　必修選択	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習	

到達目標

愛玩動物看護師としての知識を深め、習得するべき内容について実習を行う。

授業概要

各種検体検査、外科手術準備、リハビリテーション等、愛玩動物看護師として働く上で習得しておくべき内容について実習を行う。

授業計画

1　世界獣医師会大会
2　世界獣医師会大会
3　療法食
4　手作りフード 1
5　手作りフード 2
6　リハビリテーション 1
7　リハビリテーション 2
8　輸液
9　薬用シャンプー
10　検査 1　:尿検査・糞便検査
11　検査 2　:血液検査
12　腫瘍
13　栄養学
14　外科手術準備復習
15　総復習

履修上の注意

出席率 80%以上であることが科目取得のための必須条件となる。
授業中の態度※1も評価に含み、場合により欠席とすることもある。
※1授業中の態度…他の科目や授業とは関係のない課題を行う、スマートフォンの操作などをする、私語などにより授業の妨げになる行為をする、寝ていて授業に参加していない等

成績評価

課題レポート・授業内テスト等:100%

教科書(授業必携本)／　毎回持参するもの

実習用ユニフォーム一式、手拭きタオル、消毒用アルコール、綿花、アルコール綿花用容器、動物臨床検査学、動物内科看護学Ⅱ(応用)、動物内科看護学実習、動物応用看護学実習、動物外科看護学実習Ⅰ・Ⅱ、動物臨床検査学実習で使用した各授業に関連する配布資料、ノート等

事前・事後学修(予習・復習)の内容　／　参考書(自主的な学習用)

復習実習や動物内科看護学Ⅱ(応用)、動物臨床看護学各論での講義内容と関連するものが多いため、各授業に関連する内容を復習して臨むこと。
参考書:『認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019　準拠　臨床動物看護学①②、基礎動物看護学①』(インターズー)

担当教員の実務経験

井上留美:愛玩動物看護師。動物病院勤務の経験を活かし講義を行う。

授業科目	ペット関連産業実習(ペット関連産業コース)		担当教員	菅　直子/伊藤　真紀 嶋田　三那子/望月　有紗 寺澤　大河/青山　正志
科目英名	Practice of Companion Animals-related Industry			
開講期間	3 学年　前期　必修選択	科目区分／形式	専門教育科目　／　実習	

到達目標

ペット関連産業に従事する者として、犬の扱い方の応用力を身につける。ペット関連産業の現状を理解する。

授業概要

実習を通し、犬の個性に合わせた扱い方を身につける。ペット関連産業の現状を知り、ニーズを理解する。

授業計画

1　コンパニオンアニマルケアについて①　CAC 実習
2　コンパニオンアニマルケアについて②　CAC 実習
3　コンパニオンアニマルケアについて③　CAC 実習
4　コンパニオンアニマルケアについて④　CAC 実習
5　ドッグトレーニングについて①　ノーズワーク
6　ドッグトレーニングについて②　ルーズリードウォーク
7　ドッグトレーニングについて③　プランニング
8　ペット関連産業について①　ロイヤルカナン栄養学講座
9　ペット関連産業について②　外部イベント見学予定
10　ペット関連産業について③　外部イベント見学予定
11　ペット関連産業について④　外部イベント見学予定
12　ペット関連産業について⑤　外部イベント見学予定
13　ペット関連産業について⑥　南大沢にて学校飼育動物の管理実習予定
14　ペット関連産業について⑦　南大沢にて学校飼育動物の管理実習予定
15　ペット関連産業について⑧　南大沢にて学校飼育動物の管理実習予定

履修上の注意

出席率 80%以上であることが科目取得のための必須条件となる。
各回の持ち物はシラバス及び掲示を確認すること。　順番は前後する場合がある。
アレルギー(動物、牧草)の方はご相談ください。実習では爬虫類、昆虫を触ります。

成績評価

授業参加度 100%（出席状況、学習態度、提出物などをもとに総合的に評価する）

教科書(授業必携本)／　毎回持参するもの

1 回目～4 回目:CAC 実習同様、5 回目～7 回目:トレーニング実習同様、その他:掲示を確認

事前・事後学修(予習・復習)の内容　／　参考書(自主的な学習用)

特になし

担当教員の実務経験

授業科目	動物実習短期留学		担当教員	菅　直子 橋本　直子 伊藤　真紀
科目英名	Short-term Animal Practical Training Abroad			
開講期間	1・2・3 学年　通年　選択	科目区分／形式	－	

授業概要

海外の動物関連施設における実践的な英語及び動物飼育実習の学習を通じて、
多文化共生社会における動物関連学問を幅広く学び、グローバルな視野を身に付ける。
渡航先では、オーストラリアの動物園での実習が主体となるが、実用英語のレッスンを受け、
現地で必要な英語を身に付ける。

※ヤマザキ動物看護大学の科目等履修となる。
社会情勢や最低参加人数に達しない場合は、開講しない場合がある。
海外での実習体験であるため、旅費等を含めた別途費用が必要となる。

※海外での生活及び実習の受講に支障がない健康状態であること、
定められた日程に参加することができる、及び実習先で求められる規律を遵守することを条件とする。

※開講する場合は、説明会を行うので希望者は参加すること。

成績評価

授業参加度 100％（事前学習、事後学習含む）

授業科目	研修・ボランティア活動		担当教員	菅　直子 橋本　直子 伊藤　真紀
科目英名	Volunteer Study & Activity			
開講期間	1・2・3 学年　通年　選択	科目区分／形式	－	

授業概要

動物看護師は、飼い主がペットと安心して生活できる環境を提供出来る知識と能力が求められる。
その活躍の場は、動物病院だけでなく、地域支援、震災時支援、ボランティア活動など様々な場にある。
この授業では、実際に研修（国内・海外）やボランティア活動に参加し、「飼い主と動物」を取り巻く環境に対して、
専門職として介入出来る知識と能力を身に付けることを目的とする。

※社会情勢や最低参加人数に達しない場合は、開講しない場合がある。
※「国内研修」及び「海外研修」は、旅費等を含めた別途費用が必要となる
※ボランティア活動は、社会情勢により活動しない場合もある。
※受講希望者は、オリエンテーションに参加すること。
開催日等は、掲示を確認すること。

成績評価

授業参加度 50％、レポート 50％（オリエンテーション参加必須、ボランティア参加等 1 回につきレポート作成）